

# 市川造船書資料保存の経緯と資料内訳

## 1. 保存に至る経緯

市川造船所の造船資料は江戸時代から昭和時代に至る多数のものが残され、同社の倉庫に保管されていたが、昭和 34 年 9 月の伊勢湾台風で甚大な被害を受け、その際大多数の資料は流出あるいは水に濡れてしまった。その後、市川造船所生産設備の復興の一環として倉庫が取り壊され、その際に被害にあった残存資料の大半が焼却された。しかし、他の建屋に分散保存されていた資料は廃棄を免れた。

昭和 53 年、市川造船所は会社更正法を申請し、和議に移行し、新たなスポンサーのもとで、会社再建をはかったが再建に至らず、その後は市川シブヤードとして労働組合（市川労組）が自主生産を行った。

この間、上記スポンサーの指示により不要建屋の撤去がなされた。その中に残されていた資料は関係者の尽力で許されたとく短期間（1～2週間）で他の建物へ移動された。その際、残念ながら移動困難な資料は廃棄された。

市川造船所に残された資料の存在は、古くから船舶研究者等に知られており、散発的な調査は行われていたが、調査範囲はごく限られたものであった。平成 13 年頃に造船資料の調査のために日本中をクルーザーで巡っておられた野本謙作・元大阪大学名誉教授（故人）により、残存していた船舶設計図面の調査・分類がなされ、日本造船史上貴重な資料であることが改めて確認された。この時点では造船資料の所有権は不明朗であったので、野本教授は主要なものを選択し、伊勢工業高等学校造船科に移動・保管した。

その後、市川造船所造船資料は労務債権の一部として市川造船所労組へ所有権が移された。また、伊勢工業高等学校に保管されていた図面は、平成 16 年 3 月、同校造船科の廃科により、市川労組から伊勢市に寄託された。加えて平成 18 年の市川シブヤードの閉鎖に伴い、同所に保管されていたその他の船具資料、紙資料も伊勢市が保管する事となり、最終的に平成 26 年 2 月に市川造船所労組から伊勢市に寄贈された。この間も労組を中心に結成された「伊勢の造船資料を継承する会」が保存・広報活動を行った。

上記のように市川造船所の造船資料は失われたものも多いが、残存した資料は、日本において和船から西洋型船へと移行した主に明治から昭和期のものであり、他所ではほとんど保存されていない日本造船史を研究するうえで貴重な資料である。

## 2. 伊勢市による調査

伊勢市による調査は、平成 15 年より行われている。ここでは年度と内容のみを示す。

表 1 これまでの調査一覧

年 度	調 査 内 容
平成 15 年度	船舶設計図面の内容確認（目録作成）
平成 16 年度	船舶設計図面の内容確認（目録作成）
平成 18 年度	船具資料、紙資料等移管業務 基礎調査（資料の分類等）
平成 21 年度	船具資料調査、調査カード、目録作成 船舶設計図面調査、目録作成
平成 22 年度	紙資料調査、目録作成
平成 23 年度	紙資料調査、目録作成、主要図面電子化（伊勢の造船資料を継承する会の事業として実施）
平成 24 年度	紙資料調査、目録作成
平成 25 年度	紙資料調査、目録作成
平成 26 年度	紙資料調査
平成 27 年度	紙資料調査
平成 28 年度	紙資料調査
平成 29 年度	紙資料調査
平成 30 年度	紙資料調査、主要図面電子化
令和元年度	紙資料調査

### 3. 寄贈資料内訳

寄贈資料の内訳件数は以下のとおりである。

表2 寄贈資料件数

資料	件数	資料内容例
船具	4,389	滑車、船燈、丸窓、工作器具、船形模型等
紙資料	43,435	カタログ、事務文書（船舶、人事、財務、機械、設備、等）
設計図面	10,022	船舶建造に関する図面、工場設備に関する図面、等
書簡	2,263	葉書、封書
書籍	850	専門書、法規集、図録、定期刊行物、等
写真・ネガ	1,121	紙焼き、ネガ、ポジ
計	62,080	

電子化造船図面一覧表(平成23年度電子化分)

資料番号		資料名	寸法(縦×横)cm	材質	備考
1	棚1 001	松坂丸(裏面) 木造帆船:「松坂丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	66×117	ケント紙 黒墨	日本初の洋式 木造帆走貨物 船
2	棚1 002-1	木造帆船:「瑞祥丸」 3檣スクーナー 貨物船 装帆図	57×74.9 ただし継 ぎ足しあり(最大縦 64× 最大横92)	ケント紙 黒墨、赤墨	
3		裏面: 東京市森本新太郎様手船瑞祥丸 帆図 木造帆船:「瑞祥丸」 3檣スクーナー 貨物船 船体中央横断面図 船首材組 図		ケント紙 鉛筆書	鉛筆書きで、 M29-5土佐長 浜棟梁松吉金 太郎の記載
4	棚1 002-2	帆船瑞祥丸中央横断面十二分ノ一縮 尺 木造帆船:「瑞祥丸」 3檣スクーナー 貨物船 装帆図 船体中央横断面図	54×50	トレーシング紙 黒墨	木材種類を ローマ字書き
5	棚1 003-1	松坂魚町清水長兵衛様手船永商丸線 圖縮尺八分ノ三吋ヲ一尺 木造帆船:「永商丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図	47×124	ケント紙 黒墨、赤墨	
6		裏面: 永商丸原圖 龍骨長七拾三尺 木造帆船:「永商丸」 2檣スクーナー 貨物船 防蝕銅板配置図		ケント紙 鉛筆書	
7	棚1 003-2	木造帆船:「永商丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	58×98	ケント紙 黒墨	
8		裏面: 永商丸帆圖の記述		ケント紙 黒墨	
9	棚1 004	小野浦中川吉光様 木造帆船:「伊勢丸」 船体線図	55×74	ケント紙 黒墨	
10		裏面: 小野浦伊勢丸の記述		ケント紙 黒墨	
11	棚1 005	木造帆船: 船名不詳 2檣ブリガンティン 貨物船 装帆図(一部未完)	58×74	ケント紙 黒墨	
12		裏面: ポンプ図面		ケント紙 鉛筆書き	
13	棚1 006	木造帆船:「安泰丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図	63×125	ケント紙 黒墨、赤墨	
14		裏面: 安泰丸帆圖原圖 木造帆船:「安泰丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図		ケント紙 黒墨	
15	棚1 007	木造帆船: 船名不詳 3檣スクーナー 貨物船 装帆図	57×115	ケント紙 黒墨	
16		裏面: 東京深川松下春吉様手船帆圖の 記述		ケント紙 黒墨	
17	棚1 008	木造帆船:「萬福丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	58×76継ぎ足し有り (最大横94)	ケント紙 鉛筆書	
18		裏面: 萬福丸帆圖の記述		ケント紙 黒墨	
19	棚1 009	木造帆船:「吉宝丸」 2檣トップスルス クーナー 貨物船 装帆図 甲板室平面 図	58×114	ケント紙 鉛筆書	
20		裏面: 吉宝丸 木造帆船:「吉宝丸」 2檣トップスルス クーナー 貨物船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	

21	棚1	010	<u>Sailing Ship Sail Plan</u> 木造帆船:船名不詳 ブリガンティン 貨物船 装帆船 船体線図の部分	59×76	ケント紙 鉛筆書	
22			裏面:木造帆船:船名不詳 ケッチ 装帆船 船体線図の部分		ケント紙 鉛筆書	
23	棚1	011	<u>Sailing Ship Sail Plan</u> 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 貨物船 装帆船	59×76	ケント紙 鉛筆書	
24			裏面: <u>Sailing Ship Sail Plan</u> 木造帆船:船名不詳 貨物船 ブリッグ 装帆船		ケント紙 鉛筆書	
25	棚1	012	<u>3-masted Barquentine</u> 木造帆船:船名不詳 3檣バーカンティン 貨物船 装帆船	59×76	ケント紙 鉛筆書	
26	棚1	013	<u>Sailing Ship Sail plan</u> 木造帆船:船名不詳 3檣パーク 貨物船 装帆船	59×76	ケント紙 鉛筆書	
27			裏面: <u>RIGGING PLAN OF SAILING SHIP</u> 木造帆船:船名不詳 3檣フルリグドシップ 貨物船 装帆船		ケント紙 鉛筆書	
28	棚1	014	木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 漁船 構造図	17×76	トレーシング紙 黒墨	
29	棚1	015	<u>三十トン〇〇丸</u> 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 漁船 装帆船	50×62	トレーシング紙 黒墨	
30	棚1	016	<u>SAIL PLAN 100-0 L.W.L. SCHOONER</u> 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 漁船 装帆船	56×78	トレーシング紙 黒墨	
31	棚1	017	機関付木造船:船名不詳 船体横断面図(2断面)	57×53	トレーシング紙 黒墨	大正後期から昭和初期(甲板室が鋼製)
32	棚1	018	木造汽船:船名不詳 デッキプラン(上甲板のみ)	33×132	トレーシング紙 黒墨、赤墨入れ	
33	棚1	019	木造帆船:船名不詳 船体中央横断面図 船首尾材構造図 外板構造	56×52	トレーシング紙 黒墨入れ	
34	棚1	020	<u>中央横断面圖</u> 木造帆船:船名不詳 船体中央横断面図	31×38	トレーシング紙 黒墨入れ	
35	棚1	021	木造帆船:船名不詳 船体中央横断面図 外板構造図	40×55	トレーシング紙 黒墨、赤墨、黄墨	
36	棚1	022	木造帆船:船名不詳 船首尾材構造図 外板構造図	56×56 (一部欠損)	トレーシング紙 黒墨	
37	棚1	023	<u>側面裁断面圖</u> 木造汽船:船名不詳 側面切断図	30×57	トレーシング紙 黒墨、赤墨	軸系のアライメント説明図
38	棚1	024	木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 縦断面構造図(キール部分のみ詳細)	33×136	トレーシング紙 黒墨、赤墨	
39	棚1	025	木造帆船:船名不詳 船首尾材構造図	24×56	トレーシング紙 黒墨	
40	棚2	001	<u>三重県水産試験場指導船配置図</u> 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図	66×117	ケント紙 鉛筆書	
41	棚2	002	富山県西井安太郎様漁船大北丸(40馬力) 木造補助機関付帆船:「大北丸」 船体線図	53×77	ケント紙 鉛筆書	大正13年7月進水
42	棚2	003	三重県漁業取締船 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図	77×59	ケント紙 鉛筆書	

43			裏面:機械製図		ケント紙 鉛筆書	
44	棚2	004	鮪及鯉釣漁船盛運丸 木造補助機関付帆船:「盛運丸」船体 線図	54×77	ケント紙 鉛筆書	大正14年8月2 日
45	棚2	005	田邊町豊鱒組鯉鮪釣漁船約60噸130馬 力ディーゼル機関附 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配 置図	59×77	ケント紙 鉛筆書	昭和2年1月
46	棚2	006	FISHING YACHT 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配 置図	57×76	ケント紙 鉛筆書	昭和6年2月13 日 新潟鐵鉄 工所品川址郎 氏ノ依頼ニテ 設計ス の記 載
47	棚2	007	配置図 木造機帆船:「第二宝照丸」 一般配置 図	59×77	ケント紙 鉛筆書	昭和3年9月起 工 御前崎第 二宝照丸 の 記載 鯉釣漁船
48	棚2	008	水産試験船一般配置図 木造機帆船:船名不詳 一般配置図	55×79	ケント紙 鉛筆書	樺太庁試験船 参考図 昭和 12年5月 の記 載 大和型船型
49	棚2	009	SPECIMEN OF A "DISPLACEMENT SHEET" 福岡県水産試験場「玄海丸」 排水量等 計算表	38×59	ケント紙 鉛筆書	
50	棚2	010	配置図 木造機帆船:「共和丸」 ケッチ 一般配 置図	107×66	ケント紙 鉛筆書	昭和9年11月 総噸数約110 噸加藤文吉様 鯉釣漁船共和 丸の記載
51	棚2	011	熊本県水産試験場不知火丸 明治43 年1月竣工 木造補助機関付帆船:「不知火丸」 船 体線図	76×58	ケント紙 鉛筆書	
52			裏面:船名不詳のラインズの書きかけ		ケント紙 鉛筆書	
53	棚2	012	中央横裁面図 木造機帆船:「第二宝照丸」 中央横断 面図	79×55	ケント紙 鉛筆書	昭和3年10月
54			裏面:「第二宝照丸」鋼製デッキハウス 図面		ケント紙 鉛筆書	
55	棚2	013	樺太庁水産試験船 木造機帆船:船名不詳 船体線図	59×77	ケント紙 鉛筆書	昭和12年3月 30日の記載 大和型船型
56	棚2	014	山口県水産試験場指導船長周丸完成 図 木造機帆船:「長周丸」 船体線図	92×39	ケント紙 鉛筆書。ス テーション、バトックラ イン、ウォーターライン は赤線墨入れ。左端傷 みあり。	昭和15年4月 の記載 大和型船型
57			裏面:ラインズの書きかけ。		ケント紙 鉛筆書。ス テーションは墨入れ。 左端傷みあり。	ステーション等 の黒墨入れま で。船体記入 はない。
58	棚2	015	沿海鯉釣漁業改良船 木造機帆船:船名不詳 中央横断面図 船体構造図	76×58	ケント紙 鉛筆書	多くの構造検 討の書き込み あり
59	棚2	016	昭和7年7月取締快速船 木造機帆船:船名不詳(「武相丸」と思わ れる) ケッチ 一般配置図	77×60	ケント紙 鉛筆書	神奈川県取締 快速艇
60			昭和7年7月100トン漁船 木造機帆船:船名不詳 キャット 一般 配置図		ケント紙 鉛筆書	

61	棚2	017	ARRANGEMENT(ママ) 木造機帆船:「宝照丸」一般配置図	78×59	ケント紙 鉛筆書	
62	棚2	018	配置図 横載面図 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図、中央横断面図	77×54	ケント紙 鉛筆書	漁船
63	棚2	019	昭和9年11月 総噸数約110噸 215馬力 ハンシンニイガタディーゼル機関据付 鰹釣漁船 木造機帆船:船名不詳 船体線図およ び中央横断面図	109×67 紙の傷みが激しい。	ケント紙 鉛筆書。一部朱記修正 あり。	
64	棚2	020	配置図 中央横載面図 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配 置図および中央横断面図	84×55	ケント紙 鉛筆書	鰹釣漁船と思 われる
65	棚2	021	大正12年4月福島県指導船 木造機帆船:船名不詳 スクーナー 船 体線図	107×64	ケント紙 鉛筆書	
66	棚2	022	大正12年4月福島県指導船 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 一般配置図および中央横断面図	108×65 上部左半分約40mm 強の切り取りあり。	ケント紙 鉛筆書	
67	棚2	023	昭和11年1月巾着網漁船 木造船:船名不詳 船体線図	95.2×57 上部右側三角形の 切り取りあり。左側 は切り方が杜撰。	ケント紙 鉛筆書	
68			裏面:昭和10年7月26日南賀200 木造船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
69	棚2	024	全羅南道水産会漁業指導船 木造機帆船:船名不詳(「南鵬丸」と思わ れる) 一般配置図	82×61	ケント紙 鉛筆書	昭3.8.の 記載
70	棚2	025	木造船:船名不詳 船体線図および中 央横断面図	75×60	ケント紙 鉛筆書	鰹釣漁船の船 型
71			裏面:三重県立志摩水産学校練習船咲 嶋丸 木造機帆船:「咲嶋丸」船体線図およ び一般配置図		ケント紙 鉛筆書	
72	棚2	026	小笠原島庁漁船中央横断面図 木造船:船名不詳 船体中央横断面図	48×40	ケント紙 鉛筆書	
73	棚2	027	一般配置図 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配 置図	76×60	ケント紙 鉛筆書	鰹釣漁船
74	棚2	028	木造機帆船:船名不詳 カッター 一般 配置図	59×38	ケント紙 鉛筆書	貨物船
75			裏面:A.木造機帆船:船名不詳 キャット 一般配置図(漁船) B.木造オール図面(長さ12尺5寸)		ケント紙 鉛筆書	
76	棚2	029	昭和3年9月起工 御前崎第二宝照丸 木造機帆船:「第二宝照丸」船体線図	77×59	ケント紙 鉛筆書	
77			裏面:一般配置図の書き始め		ケント紙 鉛筆書	
78	棚2	030	日本水産株式会社 両手廻巾着網漁 船 第一、第二新興丸 木造汽船:「第一、第二新興丸」一般配 置図	79.4×63.4	ケント紙 鉛筆書	昭和14年8月 の記載
79			裏面:一般配置図の書き始め		ケント紙 鉛筆書	表面とは別船
80	棚2	031	清津水産学校実習船機関室配置図 木造機帆船:船名不詳 機関室配置図	76×42	ケント紙 鉛筆書	昭和14年6月 の記載
81			裏面:横須賀工廠百屯曳船操舵機之図		ケント紙 鉛筆書	
82	棚2	032	南興水産 木造船:船名不詳 船体中央断面図	55×79	ケント紙 鉛筆書	昭和12年3月 12日の記載
83			裏面:ラインズの書き始め(大和型船型)		ケント紙 鉛筆書	

84	棚2	033	壽々丸 木造補助機関付帆船:「壽々丸」船体線図	77×47	ケント紙 鉛筆書	昭5.9.の記載
85			裏面: LAUNCH 木造汽艇: 船名不詳 一般配置図と船体線図		ケント紙 鉛筆書き	
86	棚2	034	御前崎光昭丸 装帆図 木造機帆船:「光昭丸」ケッチ 帆装図	77×59	ケント紙 鉛筆書	昭3.12.の記載
87	棚2	035	田辺町豊鱗組注文鯉釣漁船 木造機帆船: 船名不詳 船体線図と船体中央断面図	77×59	ケント紙 鉛筆書	昭和2年1月の記載
88			裏面: MIDHIP SECTION OF A GASOLIN(ママ) MOTORBOAT 木造汽艇: 船名不詳 中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
89	棚2	036	愛知県福江町杉浦太平氏 同 篠島折戸常次郎氏注文 木造補助機関付帆船: 船名不詳 3檣ラガー 一般配置図	76×58	ケント紙 鉛筆書	鯉釣漁船 大正9年3月の記載
90			裏面: 青峯丸 中央横断面 線図 木造補助機関付帆船:「青峰丸」中央横断面図 線図		ケント紙 鉛筆書	表面の船と類似であるが寸法が異なる
91	棚2	037	御前崎 海形丸 木造機帆船:「海形丸」ケッチ 一般配置図	76×58	ケント紙 鉛筆書	大正13年5月の記載
92			裏面: 折れ線グラフの下書き。「(大正拾四年度町会附議)大湊町等級割課●表 曲尺壹分ヲ以テ壹円ト仮定ス」との記述。		ケント紙 鉛筆書	
93	棚2	038	三重県遠洋漁業指導監督船 機関付木造船: 船名不詳 船体線図 附排水量計算表	78×59	ケント紙 鉛筆書	昭和3年5月11日の記載
94			裏面: 表面の船の中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
95	棚2	039	能美漁業株式会社 約19噸50馬力巾着船曳廻及一般曳船 木造機帆船: 船名不詳 キャット 一般配置図 船体中央横断面図	109×61	ケント紙 鉛筆書	昭和11年4月の記載
96			裏面: 公海興産株式会社約43噸巾着網漁船 機関付木造船: 船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	昭和11年4月の記載
97	棚2	040	昭和曹達会社タンク船 機関付木造船: 船名不詳 船体線図	79×55	ケント紙 鉛筆書	昭和11年11月3日の記載
98			裏面: 三重水産学校第二咲島丸 木造機帆船:「第二咲島丸」カッター 一般配置図と中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	昭和11年11月18日完成スの記載
99	棚2	041	日本水産株式会社冷蔵運搬船 木造汽船:「瑞祥丸」 一般配置図	90×75	ケント紙 鉛筆書	昭和17年7月の記載
100	棚2	042	清津公立水産学校実習船龍鳳丸 木造機帆船:「龍鳳丸」ケッチ 船体線図	95×40 上部一部欠損あり。	ケント紙 文字、曲線は鉛筆書。ウォーターライン、パトックライン、ステーションは赤墨入れ。	完成図 昭和14年10月の記載 大和型船型
101			裏面: 福岡県水産試験場指導船玄海丸 機関付木造船:「玄海丸」 船体線図		ケント紙 文字、曲線は鉛筆書。ウォーターライン、パトックライン、ステーションは赤墨入れ。	昭和15年9月の記載 大和型船型
102	棚2	043	米式巾着網漁船の木造ターンテーブル図面	77×54	ケント紙 鉛筆書	
103			裏面: キャンバス張りブリッジ構造図		ケント紙 鉛筆書	

104	棚2	044	清津公立水産学校実習船一般配置図 (完成図) 木造機帆船:「龍鳳丸」ケッチ 一般配置図	79×63 上部は切り取られている。	ケント紙 鉛筆書	昭和14年10月の記載 大和型船型
105			裏面:「長岡丸」機関室配置		ケント紙 鉛筆書	
106	棚2	045	愛知県水産試験場浅瀬利用調査船 木造汽船:船名不詳 一般配置図	77×59	ケント紙 鉛筆書	昭3.12の記載
107			裏面:木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図および船体中央断面図		ケント紙 鉛筆書	漁労物運搬船と思われる
108	棚2	046	片手廻巾着網漁船中央横断面図 機関付木造船:船名不詳 船体中央断面図	76×60	ケント紙 鉛筆書	昭9.3.11の記載
109			裏面:帆圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 帆装図		ケント紙 鉛筆書	貨客船と思われる
110	棚2	047	寿々丸 機関付木造船:「寿々丸」船体線図	70×55	ケント紙 鉛筆書きに黒墨入れの途中	昭5.9.の記載
111			裏面:木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図と船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	貨物船と思われる
112	棚2	048	機関付木造船:船名不詳 船体線図	79×55	ケント紙 鉛筆書	
113			裏面:木造船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	チェーン付き船型
114	棚2	049	檣柄浦濱田為吉殿注文盛運丸配置図 鮪及鰹釣漁船 木造機帆船:「盛運丸」ケッチ 一般配置図および船体中央断面図	77×59	ケント紙 鉛筆書	大正14年8月5日の記載
115	棚2	050	東京市丸ノ内共同漁業株式会社独航船 図 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図	55×56	ケント紙 鉛筆書	昭和11年10月の記載
116			裏面:木造水中展望船配置図(部分)		ケント紙 鉛筆書	
117	棚2	051	日本水産株式会社冷蔵運搬船 木造汽船:「瑞祥丸」船体中央横断面図	79×43	ケント紙 鉛筆書	昭和13年7月の記載
118	棚2	052	中川淳平殿大成丸 木造汽船:大成丸 船体線図	79×40	ケント紙 鉛筆書	
119			裏面:巾着網漁船 鋼製囲壁之圖 鋼製甲板室構造図		ケント紙 鉛筆書	大成丸 昭和12年3月の記載 昭和初期より木造船であっても甲板室を鋼製にする船が現れた。
120	棚2	053	太平洋漁業株式会社 桂丸 完成図 木造機帆船:「桂丸」2檣スクナー 船体線図	79×55	ケント紙 曲線は鉛筆書。ステーション、ウォーターライン、バトックラインは赤墨入れ。	(漁船協会73 屯型) 昭和16年3月5日の記載
121	棚2	054	函館海洋气象台観測船 夕汐丸 端艇 ノ図 木造端艇:艇名不詳 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図	79×55	ケント紙 鉛筆書	「夕汐丸」搭載艇



122			裏面:A.太平洋漁業株式会社 桂丸 木造機帆船 船体中央断面図 B.戦時標準型木造貨物船 300屯型 木造機帆船:船名不詳 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	戦時標準船 300屯型の図 面は他になく貴重。
123	棚2	055	第三共和丸 木造汽船:第三共和丸 船体線図	79 × 59	ケント紙 曲線は鉛筆 書き。ステーション、 ウォーターライン、バ トックラインは赤墨入 れ。	昭和13年8月 の記載 大和型船型
124			裏面:船体線図の基線のみ		ケント紙 バトックライ ンは赤墨入れ。	
125	棚2	056	約25噸曳船 日の丸 (南洋庁) 木造機帆船:「日の丸」 船体線図	106 × 69	ケント紙 鉛筆書	
126			裏面:装帆圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 帆装図		ケント紙 鉛筆書	鯨鯨釣漁船と 思われる
127	棚2	057	約25噸70馬力曳船(改正図面)船名 日 の丸 木造機帆船:「日の丸」 キャット 一般 配置図、中央横断面図	107 × 69	ケント紙 鉛筆書	昭和9年8月22 日の記載
128			裏面:約120噸鯨鯨釣漁船 機関付木造船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	昭和9年10月 14日の記載
129	棚2	058	KAIKATAMARU LINES 機関付木造船:「海形丸」 船体線図お よび船体中央断面図	108 × 64	ケント紙 鉛筆書	
130	棚2	059	南興水産 木造汽船:「瑞芳丸」? 3船艙貨物船 一般配置図	74 × 110	ケント紙 鉛筆書	昭和13年3月 12日の記載
131	棚2	060	太平洋漁業株式会社調査船 桂丸 完成図 木造機帆船:「桂丸」 2檣スクーター 一般配置図	79 × 55	ケント紙 鉛筆書	鯨鯨調査船
132			裏面:船体線図の書き始め		ケント紙 鉛筆書	
133	棚2	061	CONSTRUCTION OF 50 GROSS TON TWO-BOAT TRAWLER 木造汽船:「第3共和丸」? 船体構造図	55 × 79	ケント紙 鉛筆書	以西底引き網 漁船 第2回設計、 「第3共和丸、 大分県水産試 験場 遠洋業 業船」
134	棚2	062	第3共和丸 第2回設計 木造汽船:「第3共和丸」 船体中央断面 図	51 × 49	ケント紙 鉛筆書	
135			裏面:第3共和丸 第3回設計 木造汽船:「第3共和丸」 船体中央断面 図		ケント紙 鉛筆書	表面とほぼ同 設計であるが、 未完成の図面
136	棚2	063	第5共和丸 木造汽船:「第5共和丸」 船体中央断面 図 船体断面図	61 × 86	ケント紙 鉛筆書	「第5共和丸 宿浦 加藤文 吉」、鯨鯨釣漁船 昭和24年12月 SNO.1127の記 載
137	棚2	064	海南丸手繰網漁船ワイヤーリール之図	55 × 79	ケント紙 鉛筆書	「海南丸」
138			盛寶丸 機関付木造船:「盛寶丸」 船体中央断 面図		ケント紙 鉛筆書	昭和13年5月 の記載

139	棚2	065	木造汽船:「海南丸」船体線図 完成図	40×78	ケント紙 赤墨、鉛筆書	日水 手繰り網 漁船、(拓洋水 産-日水子会 社)
140			19型両手旋巾着網漁船(新興丸型) 機関付木造船:「第一、第二新興丸」船 体線図		ケント紙 赤墨、鉛筆書	昭和14年6月 の記載
141	棚2	066	木造機帆船:船名不詳 ケッチ 船体構 造図	61×86	ケント紙 鉛筆書	
142	棚2	067	第八海形丸 木造補助機関付帆船:「第八海形丸」 ケッチ 船体線図	55×79	ケント紙 赤墨、鉛筆書	大和型船型
143	棚2	068	第十八海形丸 木造機帆船:「第十八海形丸」ケッチ 一般配置図	61×86	ケント紙 鉛筆書	鯉釣漁船、赤 坂ディーゼル、 エアレス、 210HP 昭和21年12月 の記載
144	棚2	069	米式巾着網漁船 第八鹿島丸 木造汽船:「第八鹿島丸」一般配置図	86×61	ケント紙 鉛筆書	米式巾着網漁 船、23.00m× 6.20m×2.88 m、GT=98トン、 新潟ディーゼ ル 250HP、定 員15名 昭和23年12月 の記載
145	棚2	070	福岡県指導船 玄海丸 木造機帆船:「玄海丸」スループ 一般 配置図	60×79	ケント紙 鉛筆書	大和型船型
146			配置図 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配 置図		ケント紙 鉛筆書	貨物船、 200HP、29.90 m×7.50m× 3.20m
147	棚2	071	木造機帆船:「大分丸」(大分県試験船) ケッチ 一般配置図	60×79	ケント紙 赤墨、鉛筆書	魚槽と活魚槽 あり 昭和14年4月 の記載
148			85屯手繰り網漁船 ○艙防熱装置図 防熱構造図		ケント紙 鉛筆書	昭和14年6月 の記載
149	棚2	072	裏面に枇杷島新観音丸船尾変更原図 木造船:「新観音丸」船尾線図(変更原 図)	58×77	ケント紙 黒墨、赤墨	色を変えて2種 の船尾を書く
150			裏面:枇杷島新観音丸船尾変更原図		ケント紙 黒墨	
151	棚2	073	山見様 運搬船 木造機帆船:「皇国丸」船体線図	60×76	ケント紙 黒墨、赤墨	和歌山県古座 真珠貝採取船 昭和11年11月 の記載
152			裏面:機関付木造船:船名不詳 船体中 央横断面図		ケント紙 黒墨	未完の図面
153	棚3	001	大分県水産試験場遠洋漁業船構造図 木造帆船:「珍彦丸」ケッチ 構造図	57×70	ケント紙 黒墨、鉛筆	
154	棚3	002	大分県水産試験場遠洋漁業船整帆図 木造帆船:「珍彦丸」ケッチ 装帆図	55×67	ケント紙 鉛筆	
155			裏面:機械製図(一種の弁か?)		ケント紙 鉛筆	
156	棚3	003	木造帆船:「那智丸」ケッチ 和歌山県 水産試験場試験船 一般配置図 構造 図 中央横断面図	57×76	ケント紙 鉛筆	

157			和歌山県水産試験場那智丸 「那智丸」ケッチ 装帆図		ケント紙 鉛筆	
158	棚3	004	大分県水産試験場漁船装帆図 加藤 成一設計 大分県水試用鱧縄漁船 木造帆船:「珍彦丸」ケッチ 装帆図	43×62	トレーシング ペーパー 黒墨	筆にて加藤成 二の署名あり
159	棚3	005	Isami Maru 木造補助機関付帆船:「勇丸」ケッチ 船体線図 一般配置図 構造図を兼ね た検討図	66×97	ケント紙 黒墨、赤墨、鉛筆	汽付捕鯨母船 勇いさみ丸 M39-6月の記 載
160	棚3	006	遠洋漁船(補助機付) 勇丸装帆図 木造補助機関付帆船:「勇丸」ケッチ 装帆図	58×76	ケント紙 鉛筆	ケッチとスクー ナーの2種の帆 が書かれてお りスクーナー か勇丸ナリの 記載
161	棚3	007	第一南進丸 木造補助機関付帆船:「第一南進丸」 ケッチ 一般配置図 中央横断面図	61×102	ケント紙 鉛筆	昭和10年6月4 日の記載
162			真珠貝採取船 木造補助機関付帆船:鮮明不詳 ケッチ 一般配置図 ダイバーボート		ケント紙 鉛筆	昭和11年1月 27日の記載
163	棚3	008	大分県珍彦丸 大分県豊国丸 和歌 山県那智丸 木造帆船:「珍彦丸」、「豊国丸」、「那智 丸」いずれもケッチ 3隻分の装帆図、 船体線図、構造図、中央横断面図が纏 めて描いてある図面	69×122	ケント紙 鉛筆	図面下部欠損 あり
164	棚3	009	愛知県渥美郡福江町杉浦太平殿漁船 全 知多郡篠島折戸常次郎殿 機関付木造船:船名不詳 船体線図 船 体中央横断面図	58×76	ケント紙 鉛筆	大正9年3月注 文の記載
165			的矢村竹内三四郎様漁船青峰丸 鮪延 縄及鰹釣漁船配置帆装図 木造補助機関付帆船:「青峰丸」3檣ラ ガー 一般配置図 装帆図		ケント紙 鉛筆	三重県的矢渡 鹿野 竹内三 四郎氏注文の 記載
166	棚3	010	木造補助機関付帆船:船名不詳 2檣ラ ガー(3檣ラガーの図も併記) 打瀬舟漁 船 帆装図と構造図	59×76	ケント紙 鉛筆	船首を左に描 いているので 市川標準では 和船扱い。
167			第二第三市川丸 木造機帆船:「第二、第三市川丸」ス ループ 帆装図と一般配置図 尾張団 平船の船型		ケント紙 鉛筆	船首を左に描 いているので 市川標準では 和船扱い。
168	棚3	011	雑賀 熊の丸 木造補助機関付帆船:「熊の丸」ケッチ 貨物船 一般配置図	59×76	ケント紙 鉛筆	
169	棚3	012	日露漁業株式会社 綿貫覚氏ノ為メ ノ見積図面 木造補助機関付帆船:船名不詳 2檣ス クナー 一般配置図	59×76	ケント紙 鉛筆	大正5年11月 28日の記載
170			金物図面		ケント紙 鉛筆	

171	棚3	013	木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ帆装図と一般配置図	58×76	ケント紙鉛筆	General Arrangement of Gaga(ママ) Boatの記載 漁船と思われる
172			裏面:機関付木造船:船名不詳 船体線図 引き上げ舵		ケント紙鉛筆	
173	棚3	014	木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ帆装図と一般配置図(棚3-013表と同船)	46×78	ケント紙鉛筆	
174			木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ船体線図 (棚3-013表と同船)		ケント紙鉛筆	
175	棚3	015	木造帆艇:艇名不詳 木造帆艇 捕鯨艇 船体線図 センターボード付き	52×75	ケント紙鉛筆	Whaler Boatの記載
176	棚3	016	愛知県水産試験所設計圖 近海漁業船 木造帆艇:船名不詳 愛知型打瀬舟の形状 構造図 船首センターボード付	55×86	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	船首を左に描いているので市川標準では和船扱い。
177	棚3	017	木造補助機関付帆船:船名不詳 2本マスト 船体線図(ボディープランのみ) 一般配置図	57×72	ケント紙鉛筆	船首を左に描いており、長さを数長と表示しているため和船(改良和船)
178			裏面:鋼製デッキハウスの構造図(未完)		ケント紙鉛筆	
179	棚3	018	裏に海底電信局御用船 木造帆艇:船名不詳 1檣ラガー 檣付和船構造 作業艇	58×76	ケント紙鉛筆	ケント紙の上にトレーシングペーパーを継ぎ足し
180			裏面:木造帆船:船名不詳 2檣 船体線図		ケント紙鉛筆	和船船型の図も書かれており、あいこの船の検討図と思われる。
181	棚3	019	裏面に東京大正水産株式会社鱈漁船たこつく丸 木造帆船:「たこつく丸」2檣スクーナー 船体線図 船体中央横断面図	53×77	青焼	鱈漁船の特徴である船体の二重構造を持つ。
182			裏面:線図及び中央横断面図 東京大正水産株式会社鱈漁船たこつく丸の記載		黒墨	
183	棚3	020	裏面に装帆図 東京大正水産株式会社たこつく丸 木造帆船:「たこつく丸」2檣スクーナー装帆図	74×100	青焼	北洋向漁船のトップセール無し、マスト低め、ブーム長めの特徴
184			裏面:「装帆図 東京大正水産株式会社たこつく丸」の記載		黒墨	
185	棚3	021	三重県水産試験所遠洋漁船帆図 木造帆船:「三水丸」2檣スクーナー装帆図	47×62	青焼	初期計画時の純帆船の図面と思われる。
186			裏面:毛筆で三水の記述		黒墨	
187	棚3	022	三重県水産試験所遠洋漁船 木造帆船:「三水丸」2檣スクーナー 船体線図	32×72	青焼	初期計画時の純帆船の図面と思われる。
188			裏面:毛筆で三水の記述		黒墨	

189	棚3	023	大北丸 富山県西井氏(四十馬力) 木造機帆船:「大北丸」ケッチ 一般配置図と中央横断面図 釣漁船	54 × 77	ケント紙 鉛筆	大正13年7月 進水の記載
190			GENERAL ARRANGEMENT OF 30FEET MOTOR BOAT 木造機艇:船名不詳 一般配置図 船体 中央横断面図 船体線図 軽量構造の 高速交通艇	77 × 54 縦長	ケント紙 鉛筆	
191	棚3	024	木造補助機関付帆船:「豊漁丸」2檣ス クナー 一般配置図 帆装図 船体線 図 釣漁船	58 × 76	ケント紙 鉛筆	洋式船型である が竜骨は幅 の広い敷であ り、船尾は戸立 に似た構造。
192			裏面:一般配置図と中央横断面図の書 き始め(未完)		ケント紙 鉛筆	
193	棚3	025	木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図	59 × 76	ケント紙 鉛筆	西野時直氏の 分との記載 漁 船
194			裏面:木造カッター:船名不詳 船体線 図の下書き		ケント紙 鉛筆	
195	棚3	026	遠洋鱈縄漁船 木造帆船:「珍彦丸」2檣スクナー 装帆図、構造図、中央横断面図 船体 線図	75 × 103	青焼 赤字あり	明治36年7月 加藤成一設計 の記載 朱記 訂正あり 初期 設計段階の打 ち合わせ用図 面であり、実際 に建造された ケッチのスケッ チが右側中央 に朱記されて いる。
196			裏面:市川源吉氏によるものと思われる 打ち合わせメモが記されている		鉛筆書	
197	棚3	027	Body Plan of 100'-00" L.W.L. Schooner 木造帆船:船名不詳 2檣スクナー 船体線図(ボディープランのみ)	42 × 45	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
198	棚3	028	Lines of 92'-0" L.W.L. Schooner 木造帆船:船名不詳 2檣スクナー 船体線図	52 × 155	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
199	棚3	029	木造帆船:船名不詳 2檣スクナー 船体線図	78 × 152	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	棚3-027と同船 野本先生メモ ではグロスター スクナーの 模写ではとして いる。
200	棚3	030	ARRANGEMENT OF 20 HP "UNION" KEROSENE ENGINE IN DEEP SEA FISHING BOAT FOR THE TOKIO IMPERIAL UNIVERSITY 木造補助機関付帆船:「富士丸」米国 製エンジンの配置図 図番A21064	64 × 60	青焼	静岡県水産試 験場「富士丸」 (日本初の動 力付き漁船)建 造に当たって は東京帝国大 学が全面的に 支援した。
201	棚3	031	木造動力付漁船:「富士丸」ケッチ 装 帆図 裏面に西野時直氏へ送れの指 示書き	56 × 80	青焼	
202			裏面:西野時直氏へ送れの指示書き		黒墨	

203	棚3	032	ARRANGEMENT OF 20 HP "UNION" KEROSENE ENGINE IN DEEP SEA FISHING BOAT FOR THE TOKIO IMPERIAL UNIVERSITY 木造補助機関付帆船:「富士丸」米国製エンジンの配置図 図番5537 日本でトレースした図面	52 × 76	トレーシング ペーパー 黒墨	
204	棚3	033	ARRANGEMENT OF 20 HP "UNION" KEROSENE ENGINE IN DEEP SEA FISHING BOAT FOR THE TOKIO IMPERIAL UNIVERSITY 木造補助機関付帆船:「富士丸」米国製エンジンの配置図 図番5537 棚3-032と同内容図面であるが、図の配置が異なる。	64 × 59	青焼	
205	棚3	034	DIMENSIONS OF 20 HP KEROSENE DOUBLE CYLINDER "UNION" MARINE ENGINE 「富士丸」搭載の米国製エンジン寸法図および船尾管の船内側フランジ図面	52 × 76	トレーシング ペーパー 黒墨	
206	棚3	035	木造帆船: 船名不詳 船体線図	48.5 × 74	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	30トンの記載
207	棚3	036	補助機付遠洋漁船 木造補助機関付帆船: 船名不詳 ケッチ一般配置図 裏面に安藤氏手船との記載	48 × 56	青焼	
208			裏面: 18トン安藤氏手船の毛筆による記述		黒墨	
209	棚3	037	鯉釣漁船 木造補助機関付帆船: 船名不詳 2檣構造図 (側面、甲板平面、断面)	55 × 92	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
210	棚3	038	Lines of "Katsuo" Fishing Boat", Propelled by Sail and Petroleum motor 木造補助機関付帆船: 船名不詳 船体線図	55 × 100	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
211	棚3	039	木造帆船:「珍彦丸」ケッチ 構造図	55 × 75	トレーシング ペーパー 黒墨	
212	棚3	040	木造帆船: 船名不詳 船体横断面図 外板構造図 船首尾材構造	50 × 55	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
213	棚3	041	第弐号 木造帆船:「第弐号」(?) ケッチ 装帆図	39 × 61	トレーシング ペーパー 黒墨	
214	棚3	042	木造帆船: 船名不詳 船体線図	54 × 78	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
215	棚3	043	露国捕鯨船「ニコライ号」甲板図 汽船:「ニコライ号」一般配置図(甲板のみ)	38 × 48.5	青図	
216	棚3	044	静岡県水産試験場 小島孝近様へ提出 木造補助機関付帆船:「富士丸」ケッチ装帆図	56 × 64	青図	
217			裏面: 静岡小島様 未製の記述		黒墨	
218	棚3	045	木造檣樵艇: 船名不詳 4丁檣 和船一般配置図	29 × 65	トレーシング ペーパー 黒墨	
219	棚3	046	木造帆船: 船名不詳 2檣 愛知型打瀬舟の形状 一般配置図	36 × 77	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
220	棚3	047	安藤馬十二氏ノ分 ヤメ 木造補助機関付帆船: 船名不詳 ケッチ装帆図	52 × 65	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	遠洋漁船

221	棚3	048	船体縦横断面図、甲板平面図及び倉内平面図 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図 構造図	55 x 79	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	安藤馬十二氏 ノ分 ヤメの記 載
222	棚3	049	遠洋漁船構造図 故安藤馬十二氏ノ為 メニ設計セシモノナリ(裏面) 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 一般配置図 中央横断面図	55 x 104	トレーシング ペーパー 黒墨	棚3-047, -48, -49は同船
223	棚3	050	木造帆船:船名不詳 船体横断面図	51 x 44	トレーシング ペーパー 黒墨	
224	棚3	051	4翼組み立て式プロペラ図面 直径1370 mm、ピッチ1830 mm	56 x 80	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
225	棚3	052	四十二年四月出帆 伊勢丸 木造帆船:「伊勢丸」 2檣スクナー 獵虎獵漁船 船体線図 装帆図	46x130	ケント紙 鉛筆	鳥羽商船学校 4代校長 角利 助氏の持船
226			木造帆船:船名不詳 2檣(おそらくケッ チ) 漁船 一般配置図 船体中央横断 面図		ケント紙 鉛筆	補助動力として 6丁檣を持つ
227	棚3	053	鱧縄漁船線図 木造帆船:「珍彦丸」 ケッチ 船体線図 の検討図	58 x 77	ケント紙 黒墨、赤墨	船首甲板面積 の拡大を検討 か
228	棚3	054	漁船船体構造図 木造補助機関付帆船:船名不詳 2檣 愛知打瀬船の船型 船体構造図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	船首を左に描く 和船(改良型)
229			裏面:木造補助機関付帆船:船名不詳 船体線図(未完)		ケント紙 鉛筆書	
230	棚4	001	木造一坪積土運船設計図 木造艇:船名不詳 土砂運搬船 一般配 置図 船体中央横断面図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	
231			木造機帆船:「宝照丸」 ケッチ 釣漁船 船体線図 装帆図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
232	棚4	002	南洋庁サイパン支庁機艇 木造機艇:「おほとり」 船体線図 船体 中央横断面図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	昭和7年1月の 記載
233	棚4	003	木造機艇:船名不詳 船体線図 船体中 央横断面図	60 x 76	ケント紙 鉛筆書	
234	棚4	004	機械ヲ操舵室ニ於イテ操縦シ得ル装置 図面 南洋 45呎モーターボート 装置図面:「おほとり」	38x 58	ケント紙 鉛筆書	南洋庁サイパ ン支庁向け機 艇
235			裏面:機関付木造船:船名不詳 船体中 央横断面図 漁船		ケント紙 鉛筆書	
236	棚4	005	南洋庁サイパン支庁四十五呎機艇雨覆 之図 艇体カバー図面:「おほとり」	56 x 38	ケント紙 鉛筆書	
237			MIDSHIP SECTION 木造帆船:船名不詳 船体中央横断面 図		ケント紙 鉛筆書	
238	棚4	006	南洋庁パラオ運搬船 木造機艇:船名不詳 船体中央横断面 図	76x 58	ケント紙 鉛筆書	
239			三重県度会郡大湊町市川造船所平面 図 工場敷地1,425坪台 市川造船所工場平面図		ケント紙 鉛筆書	
240	棚4	007	木造艇:船名不詳 土砂運搬船 船体中 央横断面図	38x 59	ケント紙 鉛筆書	土砂崩れを防 止するための 逆台形船倉

241	棚4	009	MOTOR BOAT 三重県立志摩水産学校 木造機艇:船名不詳 一般配置図 船体 線図 船体中央横断面図	77 x 59	ケント紙 鉛筆書	
242			木造機艇:船名不詳 モーターボート 一般配置図 船体線図 船体中央横断 面図		ケント紙 鉛筆書	棚4-009表面と ほぼ同寸法の 艇であるが、船 型は全く異なる
243	棚4	010	GENERAL ARRANGEMENT OF A GASOLINE MOTOR BOAT 木造機艇:船名不詳 交通艇 一般配置 図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	
244			MIDSHIP SECTION OF A GASOLINE MOTOR BOAT 木造機艇:船名不詳 交通艇 船体中央 横断面図		ケント紙 鉛筆書	表面の艇の船 体中央横断面 図
245	棚4	011	木造ギグ(Gig):船名不詳 6人漕ぎ 一 般配置図 船体線図 船体中央横断面 図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	28呎6人漕ぎ 艇 外板が鎧 張りではなく カーベル張り
246	棚4	012	A 28ft. Motor boat 鳥羽町中世古代次 郎 様御注文 木造機艇:船名不詳 客船 一般配置図 船体線図	54 x 78	ケント紙 鉛筆書	大正11年4月 20日の記載
247	棚4	013	三重県永和村中一色 木造竿船:船名不詳 河川湖沼用作業 船平底船 船体構造図	55 x 79	ケント紙 鉛筆書	昭和20年9月 28日の記載
248			三二屯型漁船(橋本機革) 木造機帆船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	昭和21年1月 の記載
249	棚4	014	三重県志摩郡立水産学校注文二隻 木造カッター:船名不詳 12人漕 ケッチ 一般配置図 船体線図 船体中央横断 面図 装帆図	65 x 108	ケント紙 鉛筆書	長さ25呎で12 人漕ぎは珍し い 大正10年9 月(10月下旬 竣工)の記載
250	棚4	015	砂利吉坪積瀬取船 木造帆船:船名不詳 1檣ラガー 平底 船 一般配置図 船体中央横断面図	63 x 108	ケント紙 鉛筆書	
251			木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 貨物船 船体線図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
252	棚4	016	木造機艇:船名不詳 船首に機関を持 つ軽量構造の交通艇 船体線図 一般 配置図 船体中央横断面図	77x 59	ケント紙 鉛筆書	
253	棚4	017	木造櫓機和船:船名不詳 和船構造の 搭載艇大小2艇の一般配置図 船体中 央横断面図 大の側面には笠井丸との 表記	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	「笠井丸」搭載 艇
254			裏面:木造ボート:船名不詳 ダブルエン ダーのボート 救命艇		ケント紙 黒墨	
255	棚4	018	木造櫓機和船:船名不詳 和船構造の搭 載艇 船側に「笠井丸」との表記 一般 配置図 船体中央横断面図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	「笠井丸」搭載 艇 棚4-017表 面大艇と同艇
256			海陽丸付属13'-0" Boat 木造帆船:船名不詳 1檣ラガー ダブ ルエンダーの搭載艇 船体中央横断面 図 船体線図		ケント紙 鉛筆書	「海陽丸」搭載 艇
257	棚4	019	皇国丸端艇 木造端艇:船名不詳 スループ 船体線 図 一般配置図	38 x 57	ケント紙 鉛筆書	「皇国丸」搭載 艇



258	棚4	020	木造機艇:船名不詳 搭載艇 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図 ボートカバーの枠および展開図	56 x 81	ケント紙 鉛筆書	
259			木造機帆船:船名不詳 漁業関係官庁船 一般配置図(側面図のみ)		ケント紙 鉛筆書	
260	棚4	021	福岡県玄海丸付属艇 木造ボート:船名不詳 鎧張構造の搭載艇 船体線図 船体中央横断面図	54 x 72	ケント紙 鉛筆書	「玄海丸」搭載艇
261	棚4	022	旅客艇 木造汽船:船名不詳 一般配置図 船体中央横断面図	78 x 59	ケント紙 鉛筆書	
262			構造図 木造機帆船:船名不詳 貨物船 一般配置図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
263	棚4	023	A MOTOR BOAT 木造機艇:船名不詳 高グレードの軽量構造の交通艇 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図	78 x 54	ケント紙 鉛筆書	
264	棚4	024	台湾総督府水産講習所二十二尺機艇 木造機艇:船名不詳 角型船型軽量構造のモーターボート 船体線図 船体中央横断面図	44x 79	ケント紙 鉛筆書、赤字あり	13年1月25日の記載(大正昭和は不明)
265			裏面:動力伝達装置図面		ケント紙 鉛筆書、赤字あり	赤字で樺太廳の記載
266	棚4	025	樺太庁中央試験所水産部試験船海幸丸機関室並測深器ネットホーラ配置図 木造機帆船:「海幸丸」機関室配置図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	昭和13年3月の記載
267			裏面:汽罐室甲板間囲壁 鋼製甲板室間囲壁図面		ケント紙 鉛筆書	
268	棚4	026	南洋庁サイパン支庁用13.70m機艇舵及舵金物之圖 木造機艇:「おほとり」舵図面	41 x 42	ケント紙 鉛筆書	南洋庁サイパン支庁向け機艇
269			第弐振興丸 機関室補助動力伝達装置図面:「第弐振興丸」		ケント紙 鉛筆書	
270	棚4	027	木造ボート:船名不詳 ダブルエンダー8人漕ぎ 狛虎猟船「日東丸」搭載捕獲用ボート 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	外板がケーブル張
271	棚4	028	木造ボート:船名不詳 ダブルエンダー 狛虎猟船搭載艇と思われる センターボードケースあり 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図	54 x 92	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	棚4-027とは別艇 外板はダブルプランキング
272	棚4	029	台湾総督府水産講習所22尺機艇 木造機艇:船名不詳 交通艇 一般配置図	55 x 79	ケント紙 鉛筆書	13年1月25日の記載 棚4-024と同艇
273			ウインチ機構図		ケント紙 鉛筆書	
274	棚4	030	皇国丸モーターボート(第八アラフラ丸同型) 木造機艇:船名不詳 搭載艇 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図	51 x 55	ケント紙 鉛筆書	昭和12年3月の記載
275			第拾アラフラ丸ボート 木造ボート:船名不詳 船体線図 一般配置図		ケント紙 鉛筆書	昭和12年3月の記載
276	棚4	031	カナタ丸22 木造ドリー:船名不詳 構造図 船体中央横断面図 より小型の艇(ドリー)の図(忍路丸搭載艇と推測)も併記されている	58 x 74.8	ケント紙 鉛筆書	搭載艇 忍路丸付属18'-0"及び第2報効丸付属21'-0"の記載

277			裏面:機械図面 ネジを用いた移動装置		ケント紙 鉛筆書	
278	棚4	032	石炭運搬船 木造はしけ船:船名不詳 平底の河川 用石炭運搬船	43 x 61	ケント紙 鉛筆書	昭和19年7月 20日の記載
279			第2121号艇型官給品到着調査 記入用紙原紙(未完)		ケント紙 鉛筆書	
280	棚4	033	砂利積込船 バケットコンベアの図面	76 x 80	青焼の裏紙 鉛筆書	
281	棚4	034	木造ギグ:船名不詳 8人漕 船体線図 一般配置図 船体中央横断面図	61 x 76	ケント紙 黒墨、赤墨	鎧張り
282	棚4	035	九米カッターノ図 木造端艇:船名不詳 船体構造図 船体 中央横断面図 12人漕ぎ	77 x 109	ケント紙 鉛筆書	
283	棚4	036	第三志らぬひ丸 木造帆船:船名不詳 スループ ダブル エンダー「第三志らぬひ丸」搭載艇 船 体線図 装帆船	59 x 74	ケント紙 鉛筆書	43年5月の記 載
284			鋼製タンク及び倉庫の構造図と鋼板展 開寸法図、石炭庫、オイルタンク、水タン ク、船首槽等		ケント紙 鉛筆書	
285	棚4	037	木造ボート:船名不詳 ダブルエンダー の搭載艇 船体線図 船体中央横断面 図	59 x 70	ケント紙 鉛筆書	カーベル張
286	棚4	038	秋田丸付属短艇 木造端艇:船名不詳「秋田丸」搭載艇 船体線図 船体中央横断面図	59 x 70	ケント紙 鉛筆書	Moter(ママ) Boatの記載あ り 船外機を取 り付けたか? カーベル張
287			滑車組立図		ケント紙 鉛筆書	
288	棚4	039	FUJI MARU BOAT 木造ボート:船名不詳「富士丸」搭載艇 船体線図	54 x 78	ケント紙 鉛筆書	
289	棚4	040	木造機艇:船名不詳 軽量構造の船外 機付きモーターボート 一般配置図 船 体線図 船体中央横断面図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	使用木材名が ローマ字表記
290			三重県水産試験所五十鈴丸漁艇 木造帆船:船名不詳 スループ「五十 鈴丸」搭載艇 船体線図 船体中央横断 面図		ケント紙 鉛筆書	Sealer Boatの 記載あり アザ ラン獵艇を参 考としたか 大正14年3月 製造の記載
291	棚4	041	小型漁船設計図 木造機帆船:船名不詳 改良和船構造 の漁船 一般配置図 船体中央横断面 図	47x 77	白焼付け	舵取り外し式 プロペラ引き上 げ構造
292	棚4	042	木造ボート:船名不詳 クラッチ4個 二 人こぎ 構造図 船体線図 船体中央横 断面図	38x 57	ケント紙 鉛筆書	
293	棚4	043	薄くGENERAL ARRANGEMENT OF A GASOLINE MOTOR BOAT 木造機艇:船名不詳 高速の船倉付交 通艇 一般配置図 船体線図	75 x 67	ケント紙 鉛筆書	
294			モーターボート諸金物之図 クロスビット、フェアリーダー、落し窓用 金物、屋根上面手摺支柱、船首/船尾用 旗竿金物		ケント紙 鉛筆書	

295	棚4	044	20ft Speed Boat 木造機艇:船名不詳 船首エンジンの モーターボート 船体線図 一般配置図 船体中央横断面図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	
296			金物図 目的種類不明		ケント紙 鉛筆書	
297	棚4	045	昭和七年七月取締快速船改修図 木造機帆船:武相丸 3機3軸の取締船 船体線図 船体中央横断面図	58 x 77	ケント紙 鉛筆書	神奈川県取締 快速艇
298	棚4	046	愛知県浅海利用調査船二〇馬力一〇 噸 木造汽船:船名不詳 船体線図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	昭3 12の記載
299	棚4	047	榎田川砂利採取機船工業株式会社20 馬力石油発動機船 木造汽船:船名不詳 船体線図	58 x 77	ケント紙 鉛筆書	大正15年5月5 日注文の記載
300	棚4	048	木造汽船:船名不詳 貨客船 一般配置 図 船体中央横断面図	57x 76	ケント紙 鉛筆書	
301	棚4	049	福岡県門司水警察署所属おほたか 木造機艇:「おほたか」 一般配置図 船 体線図 船体中央横断面図	77 x 54	ケント紙 鉛筆書	トン数等を記し た用紙が添付
302			警察署マークとマーク取付図		ケント紙 鉛筆書	
303	棚4	050	木造ギグ:船名不詳 6人漕ギグ 一般 配置図 船体中央横断面図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	外板は鎧張 艇尾旗あり
304	棚4	051	南洋庁サイパン支庁機艇 木造機艇:「おほとり」 木造ランチ 一般 配置図	57x 77	ケント紙 鉛筆書	昭和7年1月の 記載
305	棚4	052	三重県水産試験場漁業試験調査艇 木造機艇:船名不詳 角型モーターボ ート船型 船体線図	60 x 77	ケント紙 鉛筆書	昭和5年2月4 日の記載
306	棚4	053	三重県救命艇千鳥丸 木造機艇:「千鳥丸」 改良和船構造 一 般配置図 船体中央横断面図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	昭和6年8月竣 工の記載
307	棚4	054	合同電気株式会社山田出張所事務所 河村政喜氏ノ依頼アリタル巡航船 木造汽船:船名不詳 旅客船 一般配置 図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	昭和2年3月19 日の記載
308	棚4	055	A.福島県指導船〇丸ソファー 居室ソファー配置図 士官室、操舵室、 無線室 B.30呎モーターボート客室ソファー ソファー図面	54 x 76	ケント紙 鉛筆書	
309			福島県指導船 内装配置図とベッド、カーテン寸法図		ケント紙 鉛筆書	
310	棚4	056	三重県警察庁保安課水難救護船八丁 櫓 木造櫓船:船名不詳 改良和船構造 2 櫓ラガー 8丁櫓+艫櫓	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	大正8年11月9 日の記載
311	棚4	057	配置圖 木造汽船:船名不詳 客船 一般配置図	60x 76	ケント紙 鉛筆書	
312			木造舢舨:船名不詳 無動力の貨物運搬 用舢舨 平底の河川用 一般配置図 船 体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
313	棚4	058	32Feet Pinnacle (as filled) 木造ピンネース:船名不詳 一般配置図 船体中央横断面図	61 x 78	トレーシング ペーパー 墨入(黒)	習作としてのト レースと思われ る

314	棚4	059	沖縄向9米カッター帆装圖 木造カッター:船名不詳 ケッチ 12人漕装帆圖	54x 84	トレーシング ペーパー 黒墨	昭和35年9月1 日の記載
315	棚4	060	東京商船大学9米カッター諸金物 カッター金物図面	59 x 83	トレーシング ペーパー 鉛筆書	昭和35年5月 16日の記載
316	棚4	061	東京商船大学9米カッター艀装圖 木造カッター:船名不詳 2檣スクーナー 6席12人漕ぎ 艀装圖	58 x 105	トレーシング ペーパー 鉛筆書	
317	棚4	062	木造無動力台船:船名不詳 バケットコ ンペア砂利取り船 47バケット 平底 一 般配置圖	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	
318	棚4	063	木造機艇:船名不詳 丸底トンネル型船 尾 一般配置圖 船体線圖 船体中央 横断面圖 プロペラ図面	59x 76	ケント紙 鉛筆書	
319			裏面:木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 一般配置圖		ケント紙 鉛筆書	
320	棚4	064	取締艇 木造機艇:船名不詳 改良和船構造 一 般配置圖 船体中央横断面圖	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	
321	棚4	065	砂利採取船 木造無動力台船:船名不詳 バケットコ ンペア砂利取り船平底 一般配置圖	77x 108	ケント紙 鉛筆書	
322			砂利採取船機械部品圖 ギヤローラー、 バケット詳細圖、砂利積出部圖、等		ケント紙 鉛筆書	
323	棚4	066	第貳四七号船ライフボート 木造無動力ライフボート:船名不詳 一 般配置圖	40x 101	青焼	KAWASAKI DOCK YARD CO. LTD. Sno. 247の記 載
324	棚5	001	木造帆船:船名不詳 3檣ブリガント 装帆圖	70 x 91	ケント紙 鉛筆書	右下隅に三本 マストスクナー ブリガント の記載
325			木造帆船:船名不詳 3檣スクーナー 装帆圖		ケント紙 鉛筆書	
326	棚5	002	船尾天龍艦艀積材 木造軍艦:「天龍」 船尾材図面	27 x 38	トレーシング ペーパー 黒墨	
327	棚5	003	木造汽船:船名不詳 船体線圖	55 x 139	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨、青墨	
328	棚5	004	木造汽船:船名不詳 船体線圖	39 x 126	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	設計者市川竹 次郎の記載
329	棚5	005	木造汽船:船名不詳 船体線圖	55 x 155	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	計画者市川源 吉の記載
330	棚5	007	Villars - Boisage De Larrière (Woodenwork of Aft Part) 木造汽船:船名不詳 船尾部構造圖(6 断面)	29 x 72	トレーシング ペーパー 鉛筆書、赤インク	技術習得のた めの習作
331	棚5	008	木造補助機関付帆船:船名不詳 船体 線圖	40 x 103	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	技術習得のた めの習作
332	棚5	009	木造補助機関付帆船:船名不詳 中央 断面圖 2軸	35 x 40	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
333	棚5	010	機械図面 鑄造歯車(平面、断面圖)	33 x 55	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	
334	棚5	011	Cross Tree 帆船マストのクロスツリー 断面圖付き	18 x 47	トレーシング ペーパー 鉛筆書	
335	棚5	012	機械図面 ウインチと思われる歯車機構 圖 断面圖と平面の一部	47 x 59	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨	

336	棚5	013	機械図面 手動ポンプ 断面図と平面の一部	54 x 26	トレーシング ペーパー 黒墨	
337	棚5	014	機械図面 部品図	30x 41	トレーシング ペーパー 黒墨	
338	棚5	015	<u>The Steam Launch Tsuru Maru</u> 木造汽船:「鶴丸」 一般配置図 船体線 図 船体中央横断面図	54 x 109	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨、青墨	
339	棚5	017	<u>ANCHOR(ママ)</u> ストックアンカー図面 2方面図	58 x 74	トレーシング ペーパー 黒墨、赤墨、青墨	T. Ichikawa のサイン(市川 竹次郎)あり
340	棚5	018	<u>Midship Section, Steel Twin Screw Steamer</u> 鋼製汽船:船名不詳 船体中央横断面 図	76 x 58	厚ケント紙 黒墨	技術習得のため の習作 詳細な 説明書きあり S. Ichikawaのサイン (市川仙太郎)あり
341	棚5	019	<u>船渠用木造扉船阻止弁之図</u> 機械図面 スルースバルブ 600φ dia	61 x 79	ケント紙 鉛筆書	名古屋造船所 向け船渠扉船 部品 昭和12 年10月の記載
342	棚5	020	機械部品図 溶接構造	61 x 80	ケント紙 鉛筆書	
343	棚5	021	木造帆船:船名不詳 3檣フルリグドシ ップ 装帆図	57 x 76	ケント紙 黒墨	
344	棚5	022	<u>WORTHINGTON PUMP</u> ウォーシントンポンプ(蒸気駆動往復ポ ンプ)図面	69 x 101	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
345	棚5	023	ウォーシントンポンプ(蒸気駆動往復ポ ンプ)図面 蒸気部 部品図 (3面図)	69 x 102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
346	棚5	024	ウォーシントンポンプ(蒸気駆動往復ポ ンプ)図面 蒸気部 部品図 (3面図)	69 x 102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
347	棚5	025	<u>VALVE DIAGRAM</u> ウォーシントンポンプ(蒸気駆動往復ポ ンプ) バルブ開閉図	69 x 102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. Ichikawa のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
348	棚5	026	<u>DYNAMO</u> 発電機図面 (3面図)	68.5 x 102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
349	棚5	027	<u>TENONING MACHINE</u> 木工機械 ほぞ取り盤	68.5 x 102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
350	棚5	028	<u>GANG SAW</u> 木工機械 鋸盤	68.5 x 102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
351	棚5	029	鉄道有蓋2軸貨車図面 側面図 断面図 平面図	68.5 x 102	ケント紙 鉛筆書	

352	棚5	030	<u>HORIZONTAL STEAM ENGINE</u> 蒸気機関図面 ウォーシントンポンプ (蒸気駆動往復ポンプ)用 40馬力	73.2 x 102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
353	棚5	031	<u>Midship Section of Composite SLoop</u> 鉄骨木皮帆船:船名不詳 船体中央横 断面図 外板は2層張	72 x 83	厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. Ichikawa のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
354	棚5	032	<u>Crank Shaft &amp; Stern Tubes</u> 三連蒸気機関のクランクシャフト 推進 軸 船尾管	58 x 76	厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
355	棚5	033	<u>Arrangement of Steering Gear Sno.259</u> 鋼船:船名不詳 船尾操舵機まわりの図 面	76 x 104	厚ケント紙 黒墨	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
356	棚5	034	<u>MIDSHIP SECTION OF IRON SCREWSTEAMER</u> 鉄製汽船:船名不詳 鉄船 船体中央横 断面図 デッキは木製	59 x 77	厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
357	棚5	035	<u>HAND LIFT PUMP</u> 手動ポンプ図面 組立図、配置図、構造 図	71x102	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. ICHIKAWA のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
358	棚5	041	<u>OIL TANK</u> 鋼製油槽図面 2種	53 x 77	ケント紙 鉛筆書	
359			裏面:鋼製補強材(用途不明) リベット 配置図		ケント紙 鉛筆書	
360	棚5	045	<u>H.M.S. Jupiter Sno.273 Sketch of Building up Forward for Launch</u> 英国軍艦進水用船首部抱台 金物図	58 x 76	厚ケント紙 鉛筆書	技術習得のため の習作
361	棚5	046	<u>Hand Steering Gear on Upperdeck</u> 上甲板手動操舵機図面	58 x 75.8	厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
362	棚5	047	<u>Ship Arrangement with Controlling Gear Leads from Bridge to Steering Gear Aft</u> 鋼製汽船の操舵索導設図	52 x 75	厚ケント紙 黒墨、赤墨	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
363	棚5	048	<u>Scheme of Rivetting.</u> 鋼船リベット配置の解説図	58 x 76	厚ケント紙 黒墨	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
364	棚5	049	鋼製汽船の操舵索導設図(棚5-047と同 図。未完)	53 x 76	厚ケント紙 黒墨、赤墨	
365	棚5	050	<u>ドック扉船</u> 木造扉船 名古屋造船向ドック扉船 構 造図 船体中央横断面図	68 x 78	厚ケント紙 鉛筆書	昭和13年7月 17日の記載
366	棚5	051	<u>Lines of 28ft Steam Launch</u> 木造機艇:船名不詳 船体線図	51 x 132	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	T. Ichikawa のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作

367	棚6	001	木造補助機関付帆船:「長保丸」 2橋ブリガンチン 蒸気機関 捕鯨船 装帆船	62 x 65.4	ケント紙 黒墨	『船舶百年史』に掲載されている市川建造の捕鯨船「長保丸」(3橋バーク)とは別船
368	棚6	002	木造機帆船:「○勢丸」 ケッチ 貨物船 一般配置図	64 x 79	ケント紙 鉛筆書	
369	棚6	003	寶栄丸帆船 木造帆船:「寶栄丸」 2橋スクーナー あいのご船 装帆船	71 x 113	ケント紙 鉛筆書	尾張名古屋下堀川町、筒井芳太郎様之手船 原型となった弁才船形状も併記
370	棚6	004	ZENRA NANDO ARRANGEMENT OF CARGO & PASSENGER BOAT 木造汽船:「第二莞島丸」 貨客船 一般配置図 船体中央横断面図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	大正14年7月 全羅南道庁御注文 貨客巡航船の記載
371	棚6	007	木造帆船:船名不詳 2橋スクーナー 装帆船	55x 70	トレーシング ペーパー 黒墨	
372	棚6	011	第二号帆船 木造帆船:「虎丸」 2橋 貨物船 船体構造図 デッキプラン	61 x 113	ケント紙 黒墨	明治36年4月 起工の記載
373			虎丸工事圖 木造帆船:「虎丸」 船体線図 (中央部と船尾部)		ケント紙 鉛筆書	38年6月17日 進水の記載
374	棚6	012	木造帆船:船名不詳 2橋スクーナー 装帆船	57 x 73	ケント紙 黒墨	
375	棚6	013	木造帆船:船名不詳 2橋スクーナー 装帆船	48 x 61	トレーシング ペーパー 黒墨	
376	棚6	014	木造帆船:船名不詳 2橋スクーナー 装帆船	56 x 76	トレーシング ペーパー 黒墨	
377	棚6	015	木造帆船:「糸満丸」 2橋スクーナー 装帆船	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	上側、右側に用紙継ぎ足し
378	棚6	017	木造帆船:船名不詳 2橋ブリガンティン 装帆船	74 x 102	厚ケント紙 鉛筆書	
379	棚6	018	帆船武蔵丸船尾内室平面圖 木造帆船:「武蔵丸」 船尾配置図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書、赤インク	
380	棚6	020	No3. Tea 木造帆船:船名不詳 3橋 船体線図	57 x 113	ケント紙 鉛筆書、赤インク	
381	棚6	023	木造帆船:船名不詳 2橋スクーナー 装帆船	58 x 72	ケント紙 鉛筆書	船首が左に描かれている
382			裏面: 木造帆船:船名不詳 2橋スクーナー 装帆船 各セールの面積記入		ケント紙 鉛筆書	
383	棚6	026	木造帆船:船名不詳 3橋スクーナー 装帆船	67 x 113	ケント紙 鉛筆書	
384	棚6	027	中央横断面圖 機関付木造船:船名不詳 貨物船 頑丈なセンターピラー付 船体中央横断面図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	
385			裏面: 木造汽船:船名不詳 高速船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
386	棚6	028	DECK PUMP デッキポンプ外形図	59 x 76	厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨、黄墨	T. ICHIKAWAのサイン(市川竹次郎)あり 技術習得のための習作
387	棚6	029	木造帆船:船名不詳 船体線図	51 x 119	厚ケント紙 鉛筆書	

388	棚7	001	(南賀)約式百噸式百馬力貨物船 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図 船体中央横断面 図	73 x 110	ケント紙 鉛筆書	昭和10年5月 25日の記載
389			裏面:船〇〇網漁〇口 機関付木造船:船名不詳 一般配置図 (平面)		ケント紙 鉛筆書	昭10_6の記載 表面とは別船
390	棚7	002	昭和曹達会社タンク船 木造機帆船:船名不詳 ケッチ タンク船 一般配置	71 x 55	ケント紙 鉛筆書	昭和13年11月 の記載
391			裏面:南洋廳モーターボート シピース 型図 シューピース図面		ケント紙 鉛筆書	
392	棚7	003	瑞芳丸操舵機ノ圖 船橋に備える操舵装置組立図	80 x 62	ケント紙 鉛筆書	
393		003	裏面:〇會 青海丸 第三鳳丸 船主ヨリ 図面来リ此ノ図中止ス 木造機帆船:「青海丸」、「第三鳳丸」 キャット 網漁船 一般配置図		ケント紙 鉛筆書	
394	棚7	004	山見様運搬船 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図	80 x 62	ケント紙 鉛筆書	昭和11年11月 の記載
395			裏面:三重水産学校第二咲島丸 木造機帆船:「第二咲島丸」 船体線図		ケント紙 鉛筆書	昭和11年11月 18日の記載
396	棚7	005	木造機帆船:「武相丸」と思われる 3機3 軸の取締船 船体線図 船体中央横断 面図	57 x 72	厚ケント紙 鉛筆書	
397	棚7	006	木造帆船:「第二虎丸」 2檣スクーナー 装帆図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	
398	棚7	007	倉内装置圖 木造帆船:「第二虎丸」 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	
399	棚7	008	南洋廳パラオ運搬船 機関付木造船:船名不詳 船体線図	58 x 77	厚ケント紙 鉛筆書	
400	棚7	009	機関付木造船:船名不詳 船体線図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	棚7-008と似た 線型であるが 僅かに寸法が 異なる
401	棚7	010	機関付木造船:船名不詳 外板展開図 と甲板図 木材配置のための図	56 x 110	ケント紙 鉛筆書	
402	棚7	011	山見様運搬船 木造機帆船:船名不詳 船体中央横断 面図 船尾油槽配置図	48 x 79	ケント紙 鉛筆書	昭和11年11月 の記載
403			裏面:樺太廳試験船参考圖 機関付木造船:船名不詳 船体中央横 断面図		ケント紙 鉛筆書	昭和12年5月 の記載
404	棚7	012	Side View of SS Steamer 鋼製汽船:船名不詳 側面図	57 x 69	ケント紙 鉛筆書	
405	棚7	013	木造汽船:船名不詳 船体線図	50 x 89	厚ケント紙 鉛筆書	
406	棚7	014	GENERAL ARRANGEMENT 南洋廳パ ラオ運搬船 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 貨物船 一般配置図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	
407	棚7	015	木造機帆船:船名不詳 ケッチ 官庁船 と思われる 搭載艇2艇 一般配置図	64 x 80	ケント紙 鉛筆書	



408	棚7	016	配置圖 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	
409			裏面:中央横載面圖 機関付木造船:船名不詳 船体中央横 断面図		ケント紙 鉛筆書	
410	棚7	017	揚荷機据付圖 機械図面 揚荷機据付図	55 x 79.	ケント紙 鉛筆書	
411			裏面:工廠曳船甲板梁配置 木造汽船:船名不詳 機銃台あり 甲板 梁配置図		ケント紙 鉛筆書	昭和16年の記 載
412	棚7	018	GENERAL ARRANGEMENT 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	
413	棚7	019	MIDSHIP SECTION 南洋興発株式会 社 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 棚7-018と同船 船体中央横断面図	57 x 72	ケント紙 鉛筆書	昭8. 4. の記 載
414			裏面:SAIL PLAN 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー 棚7-018と同船 装帆図		ケント紙 鉛筆書	
415	棚7	020	第一妙見丸 木造機帆船:「第一妙見丸」 2檣スクー ナー装帆図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	
416	棚7	021	南洋興発繩田様ノ紹會ニテ設計ス 補 助帆船用○○ 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 貨物船 一般配置図	64 x 47	方眼紙 鉛筆書	昭和11年5月 の記載
417			裏面:木造機帆船:船名不詳 船体中央 横断面図		方眼紙 鉛筆書	
418	棚7	022	木造機帆船:船名不詳 ケッチ 貨物船 一般配置図 船体中央横断面図	47 x 64	方眼紙 鉛筆書	昭和10年2月 13日設計の記 載
419	棚7	023	木造機帆船:「第二海勢丸」 船体線図	55 x 79	ケント紙 鉛筆書、赤インク	昭和16年9月 13日完の記載
420	棚7	024	標準型貨物船 第一回設計 100屯型 木造機帆船:100屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体線図	43 x 64	ケント紙 鉛筆書、赤インク	昭和15. 10. 24. の記載 木 造標準型貨物 船
421			裏面:標準型貨物船100屯型 第二回設 計 木造機帆船:100屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体線図		ケント紙 鉛筆書、赤インク	16-2-3の記載 木造標準型貨 物船
422	棚7	025	LINES 木造機帆船:船名不詳 船体線図	60 x 84	厚ケント紙 鉛筆書	
423	棚7	026	第二めかり丸原図 木造機帆船:「第二めかり丸」 ケッチ 貨物船 一般配置図	73 x 80	ケント紙 鉛筆書	
424	棚7	027	大平商店六十五噸大洋丸 木造機帆船:「大洋丸」 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図	67 x 99	厚ケント紙 鉛筆書	昭和8年の記 載
425			裏面:木造機帆船:船名不詳 ケッチ 貨物船 一般配置図 船体中央横断面 図		厚ケント紙 鉛筆書	
426	棚7	028	総噸數約百式拾噸貨物船 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 貨物船 一般配置図 船体中央横断面図	66 x 102	ケント紙 鉛筆書	昭和10年4月 10日の記載

427	棚7	029	配置圖 木造機帆船:船名不詳 キャット 漁船 (魚艙4) 一般配置図	58 x 76	厚ケント紙 鉛筆書	
428			裏面:二百噸貨物船 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 一般配 置図 中央中央横断面図		厚ケント紙 鉛筆書	昭和7年8月5 日の記載
429	棚7	030	SAIL PLANE(ママ) 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 装帆船	51 x 75	青焼	
430	棚7	031	SAIL PLANE(ママ) 木造機帆船:船名不詳 2橋スクーナー 装帆船	67 x 92	青焼	
431	棚7	032	木造補助機関付帆船:船名不詳 船体 線図	89 x 105	青焼	
432	棚7	033	大分縣指導船活魚艙換水口金物之図 金物図面	60 x 79	ケント紙 鉛筆書	
433			裏面:活魚艙断熱構造図 立面断面、平 面、横断面		ケント紙 鉛筆書	
434	棚7	034	タンク船 昭和曹達 木造機帆船:船名不詳 2橋スクーナー 鋼製タンク4個 一般配置図 中央横断 面図	94 x 80	ケント紙 鉛筆書	
435	棚8	001	GENERAL ARRANGEMENT FOR WOODEN SINGLE SCREW STEAMER 愛知縣水上警察用巡邏船約百噸型 木造汽船:船名不詳 警備船 一般配置 図 船体中央横断面図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	愛知県水上警 察用巡邏船約 100トン型
436	棚8	002	榎田川砂利機船工業株式会社注文曳 船 木造汽船:船名不詳 曳船 一般配置図 船体中央横断面図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	大正15年5月5 日注文の記載
437	棚8	003	山口縣指導船長周丸機関室配置圖 機関付木造船:「長周丸」機関室配置 図	55 x 77	ケント紙 鉛筆書	
438			裏面:A:長周丸傳馬船5馬力揚下シ装置 同装置のカップリング図面 B:長周丸ラインホーク傳動軸 同装置のユニバーサルジョイント図面		ケント紙 鉛筆書	
439	棚8	004	A:鳥羽商船学校練習船 木造汽船:船名不詳 練習船 一般配置 図 B:木造機帆船:船名不詳 網漁船 一般 配置図	38 x 80	ケント紙 鉛筆書	A:昭和15年7月 17日の記載 B:大和型船型
440			裏面:機関付木造船:船名不詳 釣漁船 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
441	棚8	005	A:木造汽船:船名不詳 旅客船 一般 配置図 B:木造機帆船:船名不詳 漁船 一般配 置図のスケッチ	81 x 57	ケント紙 鉛筆書	
442		005	裏面:機関付木造船:船名不詳 機関室 配置図 清水タンク容積計算		ケント紙 鉛筆書	
443	棚8	006	四日市築港提出 配置図 木造汽船:船名不詳 木造通船 一般配 置図 船体中央横断面図	38 x 57	ケント紙 鉛筆書	昭和7年10月 設計の記載
444	棚8	007	PASSENGER BOAT 木造汽船:船名不詳 旅客船 一般配置 図	55 x 77	ケント紙 鉛筆書	フラッグに宍の 文字

445			裏面:木造機艇:船名不詳 船外機付き モータボート 2種の艇の船体線図 その 片方の船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
446	棚8	008	鋼製汽船:「誠丸」鳥羽商船学校練習 船誠丸への改造図面 一般配置図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	佐世保海軍工 廠建造の曳船 353を払い下げ 練習船とした (昭和7年)
447			裏面:鋼製汽船:「誠丸」鳥羽商船学校 練習船誠丸への改造図面 船体線図 中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
448	棚8	009	配置圖 木造汽船:船名不詳 客船(ランチ) 一 般配置図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	
449	棚8	010	No.1 NOSEI-MARU TAKASU 木造汽船:「第壹濃勢丸」桑名一大垣 航路(揖斐川)の外輪客船 船体線図	61 x 114	ケント紙 鉛筆書	
450			裏面:木造汽船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
451	棚8	011	福岡縣廳漁業取締船 木造機帆船:船名不詳 スループ 一般 配置図 船体線図 船体中央横断面図	73 x 108	ケント紙 鉛筆書	大正12年11月 の記載
452	棚8	012	約拾壹噸曳船(全長五拾尺)五十馬力 木造汽船:船名不詳 曳船 船体線図	60 x 70	ケント紙 鉛筆書	昭和11年8月 の記載
453			裏面:木造汽船:船名不詳 鋼製甲板室 構造図 鋼製油槽・水槽構造図		ケント紙 鉛筆書	木造船であつ ても昭和初期 より甲板上の 構造物を鋼製 化するのが一 般的となった。
454	棚8	013	木造汽船:船名不詳 機関室配置図 機 関室船底部部材配置図	63 x 73	ケント紙 鉛筆書	
455			裏面:配置圖 木造汽船:船名不詳 蒸気機関 通船 一般配置図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
456	棚8	014	志摩航運株式会社旅客船 配置圖 木造汽船:船名不詳 旅客船 一般配置 図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	昭和4.4の記 載
457	棚8	015	志摩航運株式会社旅客艇 木造汽船:船名不詳 角型船型の高速 旅客船 船体線図 船体中央横断面図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	昭和4年4月の 記載 棚8-014 と同船
458	棚8	016	三重縣四日市臨港検疫船曳船小蒸気 改正装置圖 木造汽船:船名不詳 検疫船兼曳船 一 般配置図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	
459	棚8	017	四日市港臨港検疫船曳船小蒸気 木造汽船:船名不詳 検疫船兼曳船 一 般配置図 船体線図 船体中央横断面 図	58 x 76	ケント紙 鉛筆書	大正7年8月17 日の記載
460	棚8	018	19 Tons Salvage Boat 三重縣水難救護 會支部ノ照會ニテ製圖ス 木造機帆船:船名不詳 キャット サル ベージ船 一般配置図 船体中央横断 面図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	大正9年4月20 日の記載

461			裏面:明治漁業株式会社注文宝山丸用 八馬力石油発動機十二海里 木造機艇:船名不詳「宝山丸」搭載艇 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
462	棚8	019	標準型貨物船 150屯型 木造機帆船:150屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体線図	45 x 79	ケント紙 鉛筆書	16-1-31の記 載 木造標準 型貨物船
463	棚8	020	A: 標準型貨物船 200屯型 木造機帆船:200屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体中央横断面図 B: 標準型貨物船 250屯型 木造機帆船:250屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体中央横断面図	80 x 38	ケント紙 鉛筆書	木造標準型貨 物船
464			裏面:100噸曳船 機関室天井 木造汽船:船名不詳 機関室鋼製天井 構造図		ケント紙 鉛筆書	
465	棚8	021	標準型貨物船 70屯型 第一回設計 木造機帆船:70屯型 ケッチ 戦時標準 船の原型設計 貨物船 一般配置図	43 x 53	ケント紙 鉛筆書	木造標準型貨 物船
466			裏面:100屯標準型貨物船 木造機帆船:100屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	木造標準型貨 物船
467	棚8	022	標準型貨物船 200屯型 木造機帆船:200屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体線図	46 x 80	ケント紙 赤墨、鉛筆	16-1-30の記 載 木造標準 型貨物船
468	棚8	023	100屯標準型貨物船 木造機帆船:100屯型 ケッチ 戦時標 準船の原型設計 貨物船 一般配置図	57 x 79	ケント紙 鉛筆書	昭和15年10月 の記載 木造 標準型貨物船
469			裏面:100屯標準型貨物船 木造機帆船:100屯型 ケッチ 戦時標 準船の原型設計 貨物船 一般配置図		ケント紙 鉛筆書	16-4の記載 表面より新しい 設計 木造標 準型貨物船
470	棚8	024	標準型貨物船250屯型 木造機帆船:250屯型 戦時標準船の原 型設計 貨物船 船体線図	46 x 28	ケント紙 赤墨、鉛筆	16-1-27の記 載 木造標準 型貨物船
471	棚8	025	標準型貨物船150屯型 木造機帆船:150屯型 ケッチ 戦時標 準船の原型設計 貨物船 一般配置図	61 x 80	ケント紙 鉛筆書	16-4の記載 木造標準型貨 物船
472	棚8	026	標準型貨物船200屯型 木造機帆船:200屯型 ケッチ 戦時標 準船の原型設計 貨物船 一般配置図	62 x 79	ケント紙 鉛筆書	16-4完成の記 載 木造標準 型貨物船
473	棚8	027	船体線図 機関付木造船:船名不詳 船体線図	56 x 80	ケント紙 黒墨	
474	棚8	028	標準型貨物船 70屯型 第一回設計 木造機帆船:70屯型 ケッチ 戦時標準 船の原型設計 貨物船 船体線図	36 x 53	ケント紙 赤墨、鉛筆	木造標準型貨 物船
475			裏面:70屯標準型貨物船 木造機帆船:70屯型 ケッチ 戦時標準 船の原型設計 貨物船 船体中央横断 面図		ケント紙 鉛筆書	木造標準型貨 物船
476	棚8	029	標準型貨物船 70屯型 木造機帆船:70屯型 ケッチ 戦時標準 船の原型設計 貨物船 船体線図	37 x 64	ケント紙 鉛筆書	16-2-5の記載 木造標準型貨 物船
477			裏面:標準型貨物船150屯型 木造機帆船:150屯型 ケッチ 戦時標 準船の原型設計 貨物船 船体中央横 断面図		ケント紙 鉛筆書	木造標準型貨 物船

478	棚8	030	第二海勢丸 木造機帆船:「第二海勢丸」貨物船 船体中央横断面図	74 x 48	ケント紙 鉛筆書	
479	棚8	031	巾着網漁船 一般配置圖 築城丸 木造汽船:「築城丸」巾着網漁船 一般配置図 船体中央横断面図	61 x 70	ケント紙 鉛筆書	昭和11年1月の記載
480			裏面:能美漁業株式会社五拾馬力約拾九噸巾着網廻船及一般曳船 木造汽船:船名不詳 巾着網網船兼曳船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	昭和11年4月の記載
481	棚8	032	木造汽船:船名不詳 デッキプラン	30 x 90	ケント紙 赤墨、鉛筆	右端に黒墨および朱書きで記載あるが判別不可能
482	棚8	033	船渠用木造扉船(第二回目)水室用スルースバルブ之図 木造扉船(名古屋造船)用バルブ図面	55 x 80	ケント紙 鉛筆書	昭和14年1月の記載
483			裏面:大分丸 木造汽船:「大分丸」漁業指導船 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
484	棚8	034	船體線圖 総噸数約百貳拾噸貨物船 紀勢丸 木造機帆船:「紀勢丸」貨物船 船体線図	66 x 104	ケント紙 鉛筆書	昭和10年4月10日の記載
485	棚8	035	General Arrangement of Hopper Barge 鋼製汽船:船名不詳 石運搬用バージ船 石倉には下部にホッパー開閉扉有り 一般配置図	63 x 87	青焼	
486	棚8	036	木造台船:船名不詳 小型のバケット式浚渫船(非自走) 一般配置図 船体中央横断面図	63 x 78	ケント紙 鉛筆書	
487			裏面:木造機帆船 スクーター 米式巾着網漁船 船尾に網回転用のターンテーブル 一般配置図 網揚ドラム図面		ケント紙 鉛筆書	
488	棚8	037	第十八海形丸 中央横断面図 機関付木造船:「第十八海形丸」漁船 船体中央横断面図	54x 80	ケント紙 鉛筆書	図面の汚れ激しい
489	棚8	038	船主明治製糖株式会社 線圖 木造汽船:船名不詳 貨物船 船体線図	43 x 80	ケント紙 鉛筆書	昭和12年9月19日の記載
490			裏面:船主明治製糖株式会社 中央横断面圖 木造汽船:船名不詳 貨物船 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	表面と同船
491	棚8	039	第二振興丸機関室配置圖 木造汽船:「第二振興丸」漁船 機関室配置図 各種タンク寸法図 居室配置図(側面図)	79 x 55	ケント紙 鉛筆書	昭和12年7月の記載
492	棚8	040	配置圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 貨物船 一般配置図	57 x 83	ケント紙 鉛筆書	
493	棚8	041	勢栄丸三宅栄吉ノ舟 木造機帆船:「勢栄丸」ケッチ 貨物船 船体線図 船体中央横断面図	58 x 77	ケント紙 鉛筆書	
494	棚8	042	木造機帆船:船名不詳 ケッチ まき網漁船 一般配置図	51 x 70	ケント紙 黒墨、鉛筆	
495			裏面:木造機帆船:船名不詳 まき網漁船の網関係装置配置図			

496	棚8	043	線圖 尾鷲築港曳船三〇馬力発動機 (新潟鉄工所製) 木造汽船:船名不詳 船体線図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	
497	棚8	044	第四第五市川丸 木造機帆船:「第四、第五市川丸」2檣 ラガー 一般配置図 船体線図 船体中 中央横断面図	54 x 77	ケント紙 鉛筆書	
498			裏面:盛運丸 木造機帆船:「盛運丸」ケッチ 鯉釣漁 船 船体線図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
499	棚8	045	配置圖 南洋興発株式会社御注文 木造機帆船:船名不詳 スクナー 貨 物船 一般配置図	70 x 106	ケント紙 鉛筆書	昭8. 5の記載
500	棚8	046	中央気象臺海洋気象観測船 親潮丸 木造機帆船:「親潮丸」2檣スクナー 気象観測船 船体線図	69 x 97	ケント紙 鉛筆書	昭和10年12月 29日の記載 中央気象台気 象観測船 最 初期の海洋観 測船
501			裏面:木造機帆船:船名不詳 2檣ス クナー 補給船 一般配置図 船体中 中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
502	棚8	047	約式拾八噸発動機汽船曳船 木造機帆船:船名不詳 スループ 曳船 一般配置図 船体中央横断面図	68 x 107	ケント紙 鉛筆書	昭和9年7月30 日の記載
503	棚8	048	見嶋炭鉱 第二めかり丸 木造機帆船:「第二めかり丸」2檣ス クナー 石炭運搬船 船体線図	59 x 80	ケント紙 鉛筆書	
504			裏面:木造機帆船:「第二めかり丸」2 檣スクナー 石炭運搬船 船体中央 横断面図		ケント紙 鉛筆書	
505	棚8	049	配置圖 中川淳平殿 大成丸 木造汽船:「大成丸」まき網漁船 一般 配置図 船体中央横断面図	67 x 80	ケント紙 鉛筆書	
506	棚8	050	気象台観測船 木造機帆船:「夕汐丸」2檣スクナー 一般配置図	62 x 79	ケント紙 鉛筆書	16. 2の記載 中央気象台気 象観測船 最 初期の海洋観 測船
507	棚8	051	気象台観測船 木造機帆船:「夕汐丸」2檣スクナー 船体線図	56 x 79	ケント紙 鉛筆書	中央気象台気 象観測船
508			裏面:夕汐丸機艇之圖 木造機艇:船名不詳 搭載艇 一般配置 図 船体線図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
509	棚9	001	大栄丸帆圖 木造帆船:「大栄丸」2檣スクナー 貨物船 第3世代あいの子船 装帆図	56 x 77	ケント紙 黒墨、赤墨	あいの子船へ の改造図面は 貴重
510	棚9	002	第一宝丸 第二宝丸 第三宝丸 木造帆船:「第一宝丸」、「第二宝丸」、 「第三宝丸」2檣スクナー 尾張ダン ベ型 貨物船 第二世代あいの子船 側 面図 装帆図	57 x 154	ケント紙 黒墨、鉛筆書	三河佐久鳥 筒井善衛郎様 手船 S. Ichikawa(市 川仙太郎)の サインあり
511	棚9	003	木造帆船:船名不詳 弁才船 船側図	47 x 105	薄紙 黒墨	あいの子船へ の改造のため の図面と推定
512	棚9	004	木造帆船:船名不詳 2檣スクナー 尾張ダンベ船 貨物船 第二世代あい の子船 装帆図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	

513	棚9	005	<u>Kiunmaru</u> 木造帆船:「紀運丸」2檣スクーナー ダンベ船 貨物船 第二世代あいのこ船 構造図	57 x 76	ケント紙 鉛筆書	あいのこ船の 構造図は貴重
514	棚9	006	<u>臨時検査出願付圖 伊勢丸構造変更圖</u> 木造帆船:「伊勢丸」2檣スクーナー 第三世代あいのこ船 貨物船 構造図	57 x 77	ケント紙 鉛筆書	薄く原型のダン ベ船の構造も 描かれており、 あいのこ船へ の改造の具体 構造がわかる 貴重な図面。
515	棚9	007	木造帆船:「伊勢丸」2檣スクーナー 第三世代あいのこ船 貨物船 装帆図	57 x 77	ケント紙 鉛筆書	
516	棚9	008	木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 弁財船ベースの第三世代あいのこ船 貨物船 装帆図	57 x 76	ケント紙 黒墨、鉛筆書	
517	棚9	009	<u>神徳丸畧圖</u> 木造帆船:「神徳丸」2檣スクーナー ダンベ船ベースの第三世代あいのこ船 貨物船 構造図	58 x 76	ケント紙 鉛筆書	明治25年10月 30日の記載
518	棚9	010	<u>國富丸</u> 木造帆船:「国富丸」2檣スクーナー 弁財船ベースの第二世代あいのこ船 貨物船 装帆図	57 x 84	ケント紙 黒墨、鉛筆書	相州浦賀 三 浜(又は次)六 兵衛様の手船 和寸五十分一 ノ圖の記載 諸 寸法は和尺
519	棚9	013	<u>Sail Plan of Daiun-Maru</u> 木造帆船:「大運丸」2檣スクーナー 尾張ダンベベースの第三世代あいのこ 船 貨物船 装帆図	59 x 108	ケント紙 鉛筆書	明治39年11月 との記載
520	棚9	014	木造帆船:船名不詳 2檣 ダンベ船 貨物船 一般配置図 構造図 船体中 央横断面図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	
521	棚9	015	木造帆船:「大栄丸」2檣 弁才船ベー スの第三世代あいのこ船 貨物船 船 体線図	57 x 129	ケント紙 黒墨、赤墨	原型の弁才船 と改造後の両 船型が描かれ た貴重な図面
522	棚9	016	木造機帆船:船名不詳 スループ ダン ベ機帆船 貨物船 一般配置図	56 x 76	ケント紙 鉛筆書	
523	棚9	017	<u>舩船設計圖</u> 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 改良和船構造 貨物船 一般配置図 船体中央横断面図 排水量等曲線図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	
524			<u>舩船設計圖</u> 木造舩船:船名不詳 改良和船構造 貨 物船 一般配置図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
525	棚9	018	木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 弁才船ベースの第3世代あいのこ船 貨 物船 船体線図	57 x 121	ケント紙 黒墨	改造後のあいの こと船の線 図は貴重
526	棚10	001	<u>Sail Plan of Holaimaru</u> 木造帆船:「蓬莱丸」3檣スクーナー 貨物船 装帆図	76 x 59	ケント紙 鉛筆書	
527	棚10	002	<u>北海道函館酒谷小三郎様御舩手北輪 丸帆図</u> 木造帆船:「北輪丸」2檣スクーナー 貨物船 装帆図	52 x 78	ケント紙 鉛筆書	明治29年4月 吉日出帆の記 載

528	棚10	003	北海道函館〇町 田中仙太郎様手船 祥風丸 木造帆船:「祥風丸」 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図 船体中央横断面 図	71 x 114	ケント紙 黒墨	裏面に神風丸 及真一丸の記 載 同型船?
529	棚10	004	平洋丸船尾改造用線図 木造帆船:「平洋丸」 船尾のみの船体 線図	59 x 76	ケント紙 黒墨、赤墨	乾舷の変更 (高低どちらが 改造後かは不 明)
530	棚10	005	新潟寿福丸 装帆圖 木造帆船:「寿福丸」 3檣スクーナー 貨物船 装帆圖	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	
531			表面:木造補助機関付帆船:船名不詳 3檣スクーナー 蒸気機関 貨物船 装 帆圖		ケント紙 鉛筆書	
532	棚10	006	遠州新居幸福丸帆圖 木造帆船:「幸福丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆圖	57 x 77	ケント紙 鉛筆書	明治27年の記 載
533	棚10	007	宝栄丸 尾張名古屋下堀川町 筒井様 手船 木造帆船:「宝栄丸」 弁才船ベースの 第三世代あいのご船 船尾改造線図	59 x 76	ケント紙 黒墨、赤墨	第3世代あいの ご船の船型改 造が判る貴重 な図面
534	棚10	008	八星丸 原圖(裏面に記載) 木造帆船:「八星丸」 2檣スクーナー 貨物船 一般配置図 船体線図 船体 中央横断面図	59 x 121	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
535			横浜元濱町高木回漕店 船名八号原 圖 木造船:「八号」 船体線図 船 体中央横断面図		ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
536	棚10	009	壽榮丸帆装図 木造帆船:「壽榮丸」 3檣スクーナー 貨物船 装帆圖	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	
537		009	木造補助機関付帆船:「三水丸」 ケツチ 漁労試験船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
538	棚10	010	Zinpomaru Midship Section 木造帆船:「神風丸」 船体中央横断面 図	58 x 76	ケント紙 黒墨	
539	棚10	011	第一回注文分 博丸 木造汽船:「博丸」 貨物船 船体線図	31 x 76	ケント紙 鉛筆書	3"/8二引延バ サレタシとの記 載 図面を 1"/4(1/48)から 3"/8(1/32)へ 変更の指示
540	棚10	012	後藤様 栄丸 赤線ノ如ク改圖 木造帆船:「栄丸」 2檣スクーナー 貨 物船 装帆圖 船体中央横断面図	54 x 74	青焼 朱記あり	裏面に40年2月 の記載 朱記 訂正は装帆圖 のみ
541			裏面:四十年二月 柏崎中那須賀 後藤 源助様 栄丸帆圖		黒墨	
542	棚10	013	中那須賀村 後藤源助様手船 栄丸 木造帆船:「栄丸」 2檣スクーナー 貨 物船 船体線図(構造図も書込) 船体 中央横断面図 装帆圖	46 x 154	ケント紙 黒墨、鉛筆書	明治40年2月 進水の記載
543			裏:木造帆船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
544	棚10	014	永田丸 木造帆船:「永田丸」 船体線図	59 x 102	ケント紙 黒墨	
545	棚10	015	遠江 林(欠損) 豊(欠損)(裏面注記) 木造帆船:船名不詳 3檣スクーナー 貨物船 装帆圖	66 x 100	ケント紙 黒墨	



546	棚10	016	加賀國増谷様手船栄徳丸構造(欠損) 木造帆船:「栄徳丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体構造図 船体中央横断面 図	57 x 137	ケント紙 黒墨、赤墨	
547	棚10	017	八星丸 木造帆船:「八星丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	59 x 77	ケント紙 鉛筆書	帆寸法の検討 図面
548	棚10	018	八号帆図 木造帆船:「八号」 2檣スクーナー 貨 物船 装帆図	57 x 69	ケント紙 黒墨	棚10-008裏面 の八号解船と は別船
549	棚10	019	八号構造圖 木造帆船:「八号」 2檣スクーナー 貨 物船 構造図	58 x 76	ケント紙 鉛筆書	棚10-018と同 船
550	棚10	020	盛慶丸帆圖 木造帆船:「盛慶丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	
551	棚10	021	盛慶丸修繕之圖 木造帆船:「盛慶丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図(大幅な船型変更の 図面)	58 x 113	ケント紙 鉛筆書	42年5月1日起 工の記載
552	棚10	022	平洋丸 木造帆船:「平洋丸」 3檣スクーナー 貨物船 装帆図	59 x 95	ケント紙 鉛筆書	
553	棚10	023	木造帆船:「得梅丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	58 x 98	ケント紙 黒墨	
554	棚10	024	壽丸船尾十呎続ギ足及二呎増深原圖 木造帆船:「寿丸」 2檣スクーナー 貨 物船船尾尾部延長工事図 船体線図	54 x 111	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	大幅な船型変 更
555	棚10	025	大阪府丹保様 御手船自在丸 木造帆船:「自在丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	59 x 96	ケント紙 鉛筆書	明治29年4月 吉日の記載 裏面には北海 道岩田金蔵手 船自在丸の記 載
556	棚10	026	加賀 長福丸 木造帆船:「長福丸」 貨物船 船体線図 外板構造図 防蝕用銅板配置図	57 x 118	ケント紙 鉛筆書、赤インク	水線下に貼る 防蝕用銅板の 寸法、配置を 示している。
557	棚10	027	中央載圖 遠州掛塚 池田公孫七 木造帆船:船名不詳 貨物船 船体中央 横断面図	40 x 57	ケント紙 黒墨	
558	棚10	028	木造帆船:「永福丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	50 x 114	ケント紙 鉛筆書	
559			裏面:木造ボート:船名不詳 細身のダ ブルエンダーの鎧張ボート 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
560	棚10	029	遠州新居 豊招丸 木造帆船:「豊招丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	57 x 78	ケント紙 黒墨	
561	棚10	030	木造帆船:船名不詳 船体線図	57 x 93	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
562	棚10	031	北海道函館 西村利光様 御船 二見 丸 木造帆船:「二見丸」 2檣スクーナー 貨客船 装帆図	57 x 77	ケント紙 黒墨、黄色彩色	明治29年3月 下旬出帆の記 載
563	棚10	032	遠州掛塚安全丸原圖(裏面) 木造帆船:「安全丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図	43 x 84	ケント紙 黒墨、赤墨	明治33年3月 の大阪朝日新 聞で包装
564	棚10	033	大(○に大)安全丸装帆圖 木造帆船:「安全丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆図	59 x 77	ケント紙 黒墨、赤墨	黒線、赤線2種 の帆が示され ている
565	棚10	034	木造帆船:「二見丸」 2檣スクーナー 貨客船 船体線図	57 x 123	ケント紙 黒墨、鉛筆書	棚10-031と同 船

566	棚10	035	栄福丸(裏面) 木造帆船:「栄福丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図	45 x 125	ケント紙 黒墨、赤墨	
567		035	裏面:木造帆船:船名不詳 貨物船 船 体線図		ケント紙 黒墨、赤墨	
568	棚10	036	東京南洋貿易合資会社手船武蔵丸(裏 面に記載) 木造帆船:「武蔵丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆船	68 x 125	ケント紙 黒墨、赤墨	
569			裏面:船名不詳 木造帆船 船体中央横 断面図 外板構造図		ケント紙 黒墨	
570	棚10	037	No.3 Sailing Plan 裏面に第三号船兄弟 丸帆船 木造帆船:「兄弟丸」 3檣スクーナー 貨物船 装帆船	57 x 76.1	ケント紙 黒墨	
571	棚10	038	裏 北海道 北輪丸 木造帆船:「北輪丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図	42 x 119	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	電子化は製図 時の裏表と反 対になっている
572			裏面:表 新居幸福丸 木造帆船:「幸福丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図		ケント紙 黒墨	同上
573	棚10	039	加賀國江沼郡 増谷平七様手船 木造帆船:「栄徳丸」 2檣スクーナー 貨物船 装帆船	68 x 97	ケント紙 黒墨	
574	棚10	040	大阪府丹保様手船 自在丸 原圖 木造帆船:「自在丸」 2檣スクーナー 貨物船 船体線図 デッキプラン 船体 中央横断面図 外板構造図	63 x 125	ケント紙 黒墨、赤墨	明治26年5月 計畫者 市川 源吉の記載
575	外1	001-1	パーチェースホキール 直径貳尺三寸 甲板機械部品 ウンドラス部品 ラ チェットホイール	58 x 153	ケント紙 黒墨、青インク、赤イン ク	明治35年4月 の記載
576	外1	001-2	甲板機械部品 ウンドラス部品 ラ チェット詳細図	58 x 76	ケント紙 鉛筆書	
577	外1	002	木造大型汽船 國引丸 木造汽船:「国引丸」 貨物船 船体線図	63 x 153	ケント紙 鉛筆書	
578			裏面:國引丸 木造汽船:「国引丸」 貨物船 一般配置 図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
579	外1	003	General Arrangement of Salvage Boat 木造汽船:「魁丸」サルベージ船 一般 配置図 船体中央横断面図 排水量等 曲線図	62 x 153	ケント紙 鉛筆書	
580			裏面:サルベージ船魁丸 木造汽船:「魁丸」サルベージ船 船体 線図		ケント紙 鉛筆書	
581	外1	004-1	紀の国丸 木造汽船:「紀の国丸」 蒸気機関 1000 トン級貨物船 一般配置図 中央横断面 図 船橋配置図 船首隔壁横断面図 船 台据付要領	55 x 153	ケント紙 鉛筆書	
582			裏面:1000T汽船 紀の国丸 木造汽船:「紀の国丸」 蒸気機関 1000 トン級貨物船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
583	外1	004-2	General arrangement of S.S.S. 木造汽船:「紀の国丸」 蒸気機関 1000 トン級貨物船 一般配置図	51 x 93	トレーシングペーパー 墨入れ	

584	外1	004-3	MIDSHIP SECTION 木造汽船:「紀の国丸」 蒸気機関 1000 トン級貨物船 船体中央横断面図	41 × 32	トレーシングペーパー 墨入れ	
585	外1	005	General arrangement of S.S.S. 木造汽船:「晴光丸」 蒸気機関 貨物船 一般配置図 船体中央横断面図	63 × 153	ケント紙 鉛筆書	
586			裏面:木造汽船晴光丸 木造汽船:「晴光丸」 蒸気機関 貨物船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
587	外1	006	博丸 木造機帆船:「第二博丸」 2橋スクー ナー 貨物船 船体線図 船首デリック クレーン図面	56 × 154	ケント紙 鉛筆書	大正5年10月 の記載
588			裏面:第二博丸 木造機帆船:「第二博丸」 2橋スクー ナー 貨物船 一般配置図 構造図 船 体中央横断面図 装帆図		ケント紙 鉛筆書	大正5年12月 進水の記載
589	外1	007	前 博丸 木造機帆船:「第二博丸」 2橋スクー ナー 貨物船 船体線図	58 × 154	ケント紙 鉛筆書	「第二博丸」の 初期段階設計 と思われる 前 は以前の設計 の意?
590			裏面:博丸 木造機帆船:「第二博丸」 2橋スクー ナー 貨物船 一般配置図 構造図 装 帆図		ケント紙 鉛筆書	同上
591	外1	008	木造補助機関付帆船:「博丸」? ケッチ 貨物船 一般配置図 装帆図	51 × 154	ケント紙 鉛筆書	スクーナーの 検討跡が見ら れる(マスト位 置が異なる)
592			裏面:相良運輸株式会社六十噸帆船 木造補助機関付帆船:「博丸」? ケッチ 貨物船 船体線図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	大正6年1月の 記載
593	外1	009	熊野丸 木造補助機関付帆船:「熊野丸」 船体 線図 船体中央横断面図	46 × 154	ケント紙 鉛筆書	
594			裏面:木造補助機関付帆船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
595	外1	010	南島丸 Aux. Sail Fisherman 山本新之助 様 木造補助機関付帆船:「南島丸」 ケッチ 漁船 船体線図 装帆図 船体中央横 断面図	51 × 153	ケント紙 鉛筆書	
596			裏面:木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 一般配置図 船体中央横 断面図		ケント紙 鉛筆書	表面の南島丸 とは船体断面 が異なる
597	外1	011	動力付木造船:船名不詳 船体線図 オ フセット寸法表	54 × 154	ケント紙 鉛筆書	図面修正多数
598			裏面:機関付木造船:船名不詳 船体線 図 船体中央横断面図			
599	外1	012	片手廻巾着網漁船 山口縣能美様約卅 七噸 木造機帆船:船名不詳 スループ 片手 廻巾着網漁船 一般配置図 船体線図	64 × 154	ケント紙 鉛筆書	昭和9年3月11 日の記載 船 型改良後の図 面
600			裏面:能美様 約二十噸漁獲物運搬船 木造機帆船:船名不詳 キャット 漁獲 物運搬船 一般配置図 船体線図(ナッ クル型船型) 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	昭和9年4月22 日の記載
601	外1	013	第式番船 木造汽船:船名不詳 蒸気機関 貨物船 船体線図 船体中央横断面図	50 × 155	ケント紙 黒墨、赤墨	

602			裏面:木造汽船:船名不詳 貨物船 船体線図		ケント紙 黒墨	右下隅に一號二號の記載 表面とは別船
603	外1	014	大洋商店約六十五噸貨物船 機関付木造船:船名不詳 貨物船 船体線図 船体中央横断面図	60 × 154	ケント紙 鉛筆書	昭和8年3月26 日の記載
604			裏面:木造カッター2艇:共に船名不詳 左側:22呎8人こぎ帆走ガフスルー 一般配置図 右側:24呎8人こぎカッター 船体線図		ケント紙 鉛筆書	左側:カッター でバウスプリット 付きは珍しい
605	外1	015	木造機帆船:船名不詳 ケッチ 官庁船 (取締船?) 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図	69 × 153	ケント紙 鉛筆書	
606			裏面:鋼製汽船:船名不詳 漁船 船体線図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	
607	外1	016	MIDSHIP SECTION OF WOODEN SHIP 木造帆船:船名不詳 船体中央横断面 図 外板構造図 (共に彩色)	61 × 133	厚ケント紙 墨入れ、淡彩	21th june 1892(ママ)の 記載 技術習得 のための習作
608	外1	017	General Arrangement of Steam Launch 鋼製汽船:船名不詳 蒸気動力のランチ (搭載艇) 一般配置図 5断面の構造 図	61 × 151	厚ケント紙 墨入れ、水線水色、補 助線赤色	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
609	外1	018	Sheer Draught of Iron Ship 鉄製汽船:船名不詳 貨物船 船体線図	52 × 153	厚ケント紙 墨入れ(垂線黒色、水 線青色、バトックライン 赤色)、上部構造物鉛 筆	T. Ichikawa のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
610	外1	019	SHEER DRAUGHT OF STEEL CRUISER. 鋼製軍艦:船名不詳 巡洋艦(ラム付き) 船体線図	61 × 151	厚ケント紙 墨入れ(垂線黒色、水 線青色、バトックライン 赤色)	17th june 1892 の記載 T. Ichikawa のサイン(市川 竹次郎)あり 技術習得のため の習作
611	外1	020-1	MIDSHIP SECTION 木造帆船:船名不詳 船体中央横断面 図(彩色) 使用木材名をローマ字で表記	76 × 58	厚ケント紙 墨入れ、淡彩	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
612	外1	020-2	Inside View of Framing 木造帆船:船名不詳 外板構造図(彩色) 金属製(鉄または鋼)補強材付き	76 × 58	厚ケント紙 墨入れ、淡彩	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
613	外1	021	Lines of SSs "Bellara", "Bellena" "Bellenden" "Bellanock" "Bellucis", "Bellova" "Bellarden" "Milton" 鋼製汽船:「Bellora」他 貨物船 船体線 図	75 × 22	厚ケント紙 墨入れ(垂線黒色、水 線青色、バトックライン 赤色)	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり 技術習得のため の習作
614	外1	022-1	木造機帆船:船名不詳 蒸気機関つき 客船(2檣トップスルスクーナー、2軸1 舵) 船体線図 (4枚組の1)	36 × 153	トレーシングペーパー 墨入れ(水線水色、補 助線赤色)	技術習得のため の習作
615	外1	022-2	木造機帆船:船名不詳 蒸気機関つき 客船(2檣トップスルスクーナー、2軸1 舵) 上甲板諸室配置図 (4枚組の2)	36 × 119	トレーシングペーパー 墨入れ(寸法線赤色)	技術習得のため の習作
616	外1	022-3	木造機帆船:船名不詳 蒸気機関つき 客船(2檣トップスルスクーナー、2軸1 舵) 装帆図 (4枚組の3)	36 × 85	トレーシングペーパー 墨入れ(水線など青 色、ガラス薄青色、 オープンレール赤色)	技術習得のため の習作

617	外1	022-5	木造機帆船:船名不詳 蒸気機関つき客船(2檣トップスルスクーナー、2軸1舵) 構造図(4枚組の4)	52 × 126	トレーシングペーパー 墨入れ(オープンレー ル、スタンションなど青 色、中心線赤)	技術習得のため の習作
618	外1	023	木造帆船:船名不詳 2檣 構造図(未完)	51 × 69	トレーシングペーパー 黒墨	
619	外1	024	明丸 木造帆船:「明丸」 船体中央横断面図 (彩色)	57 × 76	ケント紙 墨入れ、淡彩	
620	外1	025	木造機帆船:船名不詳 ケッチ 鯉鮪釣 漁船 一般配置図 船体線図 船体中 央横断面図	69 × 153	厚ケント紙 鉛筆書	
621	外1	026	田曾浦喜鶴丸 木造機帆船:「喜鶴丸」 ケッチ 鯉鮪釣 漁船 一般配置図 船体線図	67 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	昭和6年9月1 日の記載
622	外1	027	○寿々丸 木造機帆船:「寿々丸」 ケッチ 鯉鮪釣 漁船 一般配置図 船体中央横断面図 船体線図	67 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	昭5.11.1.の 記載
623	外1	028	木造機帆船:船名不詳 ケッチ 鯉鮪釣 漁船 一般配置図 船体中央横断面図	70 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	
624	外1	029-1	菊池長右エ門様手船 日東丸 木造帆船:「日東丸」 2檣スクーナー 獵虎獵船 船体線図 船体中央横断面 図	52 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	明治40年4月 出帆の記載
625			裏面:木造帆船:船名不詳 船体線図 船体中央横断面図		厚ケント紙 鉛筆書	
626	外1	029-2	磐手縣菊池長右エ門様手船 九〇ト 一級船 木造帆船:「日東丸」 2檣スクーナー 獵虎獵船 一般配置図 装帆図	51 × 153	厚ケント紙 鉛筆書	
627			裏面:七〇ト一級船 志摩鳥羽 角利 助様手船 木造帆船:「旭丸」 or 「三重丸」 2檣ス クーナー 獵虎獵船 船体線図 装帆図		厚ケント紙 鉛筆書	船主の角利助 氏は鳥羽商船 学校第四代校 長
628	外1	029-3	日東丸 航海奨励金下附申請附属圖 木造帆船:「日東丸」 2檣スクーナー 獵虎獵船 一般配置図 上部に内容不 詳の機械図面	74 × 58	厚ケント紙 鉛筆書	
629			裏面:木造帆船:船名不詳 長さ幅が異 なる2隻の外板、甲板配置図 マスト は2檣と3檣 船体拡張の検討用と推定		厚ケント紙 鉛筆書	
630	外1	030	日魯第一号 木造補助機関付帆船:「日魯第一号」 2 檣スクーナー 貨物船 船体線図 船体 中央横断面図	51 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	
631			裏面:木造補助機関付帆船:「日魯第一 号」 2檣スクーナー 貨物船 一般配置 図 装帆図		厚ケント紙 鉛筆書	
632	外1	031	木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 遠洋漁船 漁労物処理用大釜2口 船 体線図 船体中央横断面図	50 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	
633			裏面:遠洋漁船構造圖 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 遠洋漁船 漁労物処理用石炭焚大釜2 口 一般配置図 装帆図		厚ケント紙 鉛筆書	表面と同船

634	外1	032	向井元輔氏 ○○丸 木造補助機関付帆船:「○○丸」ケッチ 釣漁船 船体線図 一般配置図 船体 横断面図(2断面)	46 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	
635			裏面:Auxiliary Sail Fisherman 木造補助機関付帆船:「○○丸」ケッチ 釣漁船 船体横断面図(機関室) 装帆 図		厚ケント紙 鉛筆書	
636	外1	033	Nakoso 奈古曾丸 木造補助機関付帆船:「奈古曾丸」ケッ チ 漁業指導船 船体線図 装帆図	46 × 154	厚ケント紙 鉛筆書	
637			裏面:右側:福島縣工○○ 奈古曾丸 木造補助機関付帆船:「奈古曾丸」ケッ チ 漁業指導船 一般配置図 左側:宮崎縣 ○○ 高千穂丸 木造動力付帆船:「高千穂丸」スクー ナー 漁業指導船 船体線図		厚ケント紙 鉛筆書	
638	外1	034	RIGGING PLAN OF A SAILING SHIP 木造帆船:船名不詳 フルリグドシップ 貨物船 装帆図	66 × 146	ケント紙 黒墨、枠赤線、ビニー ル入り	William John Macquorn Rankine, Isaac Watts 著 “Shipbuilding, Theoretical and Practical”, Mackenzie, 1866中の図面 の模写(国旗 は日の丸に書 き換え) 技術 習得のための 模写
639	外1	035	山本丸(裏面に記載) 木造帆船:「山本丸」2檣スクーナー 貨物船 装帆図	58 × 76	ケント紙 黒墨	
640	外1	036	明丸 改正 木造帆船:「明丸」船体線図	54 × 126	厚ケント紙 赤墨、青墨、黒墨	赤線が修正船 型と思われる
641			裏面:木造汽船:船名不詳 船体線図		厚ケント紙 黒墨	
642	外1	037	加賀 富栄丸(裏面に記載) 木造帆船:「富栄丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図 デッキプラン 船体 中央横断面図 外板構造図	66 × 125	ケント紙 赤墨、黒墨	明治26年9月 上旬の記載 計畫者 市川 の記載
643	外1	038	太平丸帆圖 木造補助機関付帆船:「太平丸」4檣 パーカントイン 貨物船 装帆図	79 × 109	普通紙 鉛筆書	T6 4 cylinder aux. の記載
644	外1	039	Sail Plan カロリン丸改正帆圖 木造補助機関付帆船:「カロリン丸」ブ リガントイン 貨物船 装帆図	59 × 76	ケント紙 黒墨	南洋貿易(株)に よる南洋諸島 離島間航路 (マーシャル離 島線、ギル バート線)に従 事
645	外1	040	相模國三浦郡浦賀 臼井様御手船 武 丸帆圖 船長森田福次郎様 木造帆船:「武丸」2檣スクーナー 貨 物船 装帆図	57 × 112	ケント紙 黒墨	明治28年10月 吉日の記載
646	外1	041	No.1 紀州丸 木造補助機関付帆船:「第一紀州丸」 ケッチ 漁船 船体線図 装帆図	49 × 154	厚ケント紙 黒墨	

647			裏面: No.1 KISHUMARU 木造補助機関付帆船:「第一紀州丸」 ケッチ 漁船 一般配置図 船体横断面 図(3断面)		厚ケント紙 黒墨。鉛筆の線を消し た跡あり	
648	外1	042	木造補助機関付帆船:「富士丸」ケッチ 漁業指導船 船体線図(2種) 装帆図 (マスト配置2種)	56 × 152	厚ケント紙、墨入れ(鉛 筆書きを墨で修正) 書込多く、詳細な検討 が伺える	「富士丸」は静 岡県水産試験 所が建造した 日本初の動力 付き漁船
649			裏面: 富士丸 木造補助機関付帆船:「富士丸」ケッチ 漁業指導船 一般配置図 船体中央横 断面図		厚ケント紙、墨入れ(鉛 筆書きを墨で修正)	
650	外1	043	東京品川市川栄吉様手船 宝吉丸(裏 面に墨書き) 木造帆船:「宝吉丸」貨物船 船体線図 船体中央横断面図	57 × 153	ケント紙 バットラインのみ赤 墨、その他は黒墨	
651	外1	044	宮勢丸 中央截断面 木造帆船:「宮勢丸」貨物船 船体中央 横断面図	38 × 57	ケント紙 黒墨。赤字と鉛筆にて 材料寸法あり	
652	外1	045	木造帆船:船名不詳 貨物船 船体線図	58 × 155	ケント紙 黒墨	
653	外1	046	大分縣 豊國丸 木造補助機関付帆船:「豊國丸」ケッチ 大分県水産試験場漁業指導船 一般配 置図 船体線図 船体中央横断面図	57 × 153	厚ケント紙 黒墨、鉛筆メモ多数あ り。	
654			裏面: 大分縣水産試験場 豊國丸 木造補助機関付帆船:「豊國丸」ケッチ 大分県水産試験場漁業指導船 装帆図 (ミズンセールはラグセール) 排水量等 曲線図		厚ケント紙 黒墨、鉛筆メモ多数あ り。	
655	外1	047	木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 装帆図 船体線図	46 × 153	厚ケント紙 黒墨	漁業指導船 か?
656			裏面: 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 船体中央横断面図 一般 配置図		厚ケント紙 黒墨	
657	外1	048	木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 装帆図 船体線図 一般配置図 (構造図) 船体中央横断面図	46 × 153	厚ケント紙 黒墨	
658			裏面: 木造補助機関付帆船:船名不詳 船体線図(ボディプラン以外は前半分の み)		厚ケント紙 黒墨	表面とは別船
659	外1	049	木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 装帆図 船体線図	60 × 154	厚ケント紙 墨入れ(ラインズ3色)	
660	外1	050	糸満丸構造図 木造帆船:「糸満丸」2檣スクーナー 沖縄県漁業指導船 構造図	57 × 77	厚ケント紙 黒墨	
661	外1	051	沖縄 糸満丸線図(裏面に記載) 木造帆船:「糸満丸」2檣スクーナー 沖縄県漁業指導船 船体線図	56 × 154	厚ケント紙 黒墨	
662			裏面: 北洋丸構造図 木造帆船:「北洋丸」2檣スクーナー 獵虎獵漁船 一般配置図 船体中央横 断面図		厚ケント紙 黒墨	
663	外1	052	木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 鯉釣漁船 船体線図 船体中央横断面 図	46 × 154	厚ケント紙 黒墨	
664			裏面: 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 鯉釣漁船 一般配置図		厚ケント紙 黒墨	表面と同船

665	外1	053	Sail Plan of Bosomaru No.2. 木造帆船:「第二房総丸」2檣スクーナー 獵虎獵漁船 一般配置図 装帆図 排水量等曲線図	66 × 96	厚ケント紙 黒墨、鉛筆	
666			裏面:木造帆船:「第二房総丸」2檣スクーナー 獵虎獵漁船 水面下防蝕銅板配置図		厚ケント紙 黒墨、鉛筆	
667	外1	054	第二房総丸 ラッコ獵 木造帆船:「第二房総丸」2檣スクーナー 獵虎獵漁船 船体線図 船体横断面図(2断面) 外板構造図 舵構造	62 × 153	厚ケント紙 黒墨、鉛筆	M39-2月の記載
668	外1	055	木造補助機関付帆船:「忍路丸」ブリガントイン 練習船 船体線図(補助機関搭載後)	54 × 150	厚ケント紙 黒墨、鉛筆	北海道帝国大学水産学部練習船「忍路丸」(初代)後の「義勇和爾丸」
669			裏面:Sail Plan 木造補助機関付帆船:「忍路丸」ブリガントイン 練習船 装帆図(ブリガントインへの改造後) マスト、ヤード詳細図(前檣)		厚ケント紙 黒墨、鉛筆	同上 竣工時は2檣スクーナー 1年後に改造
670	外1	056	Lines of 92'0" L.W.L. Schooner 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 船体線図	63 × 150	厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
671	外1	057	吉岡丸帆圖 木造帆船:「吉岡丸」2檣スクーナー 貨物船 装帆装図	72 × 120	厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
672			裏面:木造帆船:船名不詳 3檣バーカントイン 貨物船 装帆図		厚ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
673	外1	058	木造帆船:「東洋丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図	72 × 155	厚ケント紙 黒墨、青墨、鉛筆	
674	外1	059	相州浦賀臼井儀兵衛様御手船 武丸帆圖 木造帆船:「武丸」3檣スクーナー 貨物船 装帆図	57 × 116	ケント紙 黒墨、青墨、赤墨	明治28年10月1日の記載
675	外1	060	掛塚津倉様手船 寶生丸(裏面) 木造帆船:「寶生丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図	49 × 124	ケント紙 黒墨、鉛筆	明治27年3月の記載
676	外1	061	木造補助機関付帆船:「大進丸」3檣スクーナー 貨物船 一般配置図 船体中央横断面図 装帆図	61 × 154	ケント紙 鉛筆書	表面の船体線図とは主要寸法が僅かに異なる
677			裏面:大進丸 木造補助機関付帆船:「大進丸」3檣スクーナー 貨物船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
678	外1	062	(第二)館山丸 木造帆船:「第二館山丸」2檣ブリガントイン 貨物船 装帆図 マスト、ヤード詳細図 船体中央横断面図 外板構造図	59 × 154	ケント紙 鉛筆書	
679			裏面:第二館山丸 木造帆船:「第二館山丸」2檣ブリガントイン 貨物船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	
680	外1	063	加賀 長保(裏目に記載) 木造帆船:「長保丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図	50 × 154	ケント紙 黒墨、赤墨	『船舶百年史』に掲載されている市川建造の捕鯨船「長保丸」(3檣バーク)とは別船
681			裏面:木造帆船:船名不詳 船体線図(船体後部の船型検討図)		ケント紙 黒墨、赤墨	表面とは別船



682	外1	064	650 tons Sailing Ship Arrangement, Sail Plan 木造補助機関付帆船:「太平丸」4檣 バーケンチン 貨物船 一般配置図 装 帆図	56 x 154	ケント紙 鉛筆書	
683			裏面:木造補助機関付帆船:「太平丸」 4檣バーケンチン 貨物船 船体線図 船体横断面図(中央および機関室)		ケント紙 鉛筆書	
684	外1	065	鳥取商船様分トシテ計畫スの横に訂正 として鳥羽商船様ノ分トシテ計畫ス 木造補助機関付帆船:船名不詳 3檣 パーク 練習船 装帆図	64 x 154	ケント紙 鉛筆書	鳥取商船学校 は計画も含め て存在せず 鳥羽商船練習 船「あまき」の 代船計画の一 つ
685			裏面:木造補助機関付帆船:船名不詳 3檣パーク 練習船 一般配置図 船体 線図		ケント紙 鉛筆書	表面と同船
686	外1	066	木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 船体線図	57 x 151	ケント紙 黒墨、赤墨	
687	外1	067	北海道千島国択捉島羣取 駒井弥平様 手船 宮古丸(裏面に記載) 木造帆船:「宮古丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図 船体中央横断面図 デッキプラン	53 x 125	ケント紙 黒墨、赤墨	
688	外1	068	一匁駒井弥平様手船 宮古丸帆圖 木造帆船:「宮古丸」2檣スクーナー 貨物船 装帆図	57 x 76	ケント紙 黒墨	明治36年6月 の記載
689	外1	069	増谷様手船 富栄丸 木造帆船:「富栄丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図 船体中央横断面図	59 x 125	ケント紙 黒墨、赤墨、鉛筆	計畫者 市川 源吉の署名あ り 明治26年11 月の記載
690	外1	070	構造圖 第二館山丸 木造帆船:「第二館山丸」2檣ブリガン ティン 貨物船 一般配置図(構造図)	59 x 76	ケント紙 鉛筆書	2檣と3檣の2 種類のマストが 描かれている
691			裏面:木造帆船:船名不詳 船体中央横 断面図 ボイラー台座図		ケント紙 鉛筆書	表面とは別船
692	外1	071	木造帆船:船名不詳 3檣 船体線図	65 x 122	ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
693			裏面:パーチェース直径式尺三寸 分解 圖現尺 機械図面 揚錨機ラチェット部分		ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	
694	外1	072	東洋丸 木造帆船:「東洋丸」3檣バーケンチン 貨物船 一般配置図(構造図)	56 x 125.2	ケント紙 黒墨、赤墨	M29-8の記載
695	外1	073	東洋丸 木造帆船:「東洋丸」3檣バーケンチン 貨物船 装帆図	64 x 125	ケント紙 黒墨、青墨	M29の記載
696	外1	074	相模國浦賀町紺屋 臼井儀兵衛様手船 豊丸整帆圖 木造帆船:「豊丸」2檣スクーナー 貨 物船 装帆図	57 x 76.4	ケント紙 黒墨、青墨、赤墨	明治36年6月 の記載
697	外1	075	東京松下様 播航丸 原圖(裏面に記 載) 木造帆船:「播航丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図	53 x 125	ケント紙 黒墨	
698			裏面:木造帆船:船名不詳 船体線図		ケント紙 鉛筆書	表面とは別船
699	外1	076	宮本丸 原圖 木造帆船:「宮本丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図 船体中央横断面図	67 x 125	ケント紙 黒墨、赤墨	

700	外1	077	木造帆船:「宮本丸」 2橋スクーナー 貨物船 装帆船	57 x 105	ケント紙 黒墨	進水式(竣工式?)の祝 事および写真 撮影のメモ(船 首バウスプリッ ト下)あり
701	外1	078	遠州掛塚杉屋辰五郎様手船 寶徠丸 木造帆船:「寶徠丸」 2橋スクーナー 貨物船 装帆船	57 x 74.5	ケント紙 黒墨	
702	外1	079	石川県加賀国江沼郡橋立村一ノ塚 酒 谷小三郎様手船 小勢丸(裏面に記載) 木造帆船:「小勢丸」 2橋スクーナー 貨物船 装帆船	57 x 75	ケント紙 黒墨	
703	外1	080	神吉丸と豊栄丸 両船 御船主 知多郡 月東清四郎様手船(裏面に記載) 木造帆船:「神吉丸」と「豊栄丸」 貨物 船 船体線図	46 x 125	ケント紙 黒墨、赤墨、鉛筆書	
704	外1	081	Yoshiokamaru 木造帆船:「吉岡丸」 2橋スクーナー 貨物船 デッキプラン 船体縦構造図 船体中央横断面図	58 x 76	ケント紙 黒墨、赤墨	
705	外1	082	東京武蔵 第壹遠洋丸 木造帆船:「第壹遠洋丸」 3橋パーク 貨物船 船体線図 トランサム船名表記	51 x 130	ケント紙 鉛筆書	M40の記載
706			裏面: 木造帆船:「第壹遠洋丸」 3橋 パーク 貨物船 装帆船		ケント紙 鉛筆書	
707	外1	083	SHEER DRAUGHT OF SAILING SHIP 裏面に加賀長保改正圖 木造補助機関付帆船:「長保」 2橋ス クーナー 貨物船 船体線図(機関搭載 のための改造図面)	53 x 154	ケント紙 黒墨、赤墨	S. Ichikawa のサイン(市川 仙太郎)あり
708			裏面:ウルクツ丸修繕圖 木造帆船:「ウルクツ丸」 貨物船 構造 図		ケント紙 赤墨、鉛筆	船体延長工事 の構造図
709	外1	084	木造帆船:船名不詳 3橋スクーナー 貨物船 装帆船 一般配置図	59 x 154	ケント紙 鉛筆書	側面図のみ大 きな甲板室が 書かれている
710			裏面: 木造補助機関付帆船: 船名不詳 貨物船 船体線図 船体中央横断面図		ケント紙 鉛筆書	表面とは別船
711	外1	085	マスト、ヤード、ブーム図面	56 x 155	ケント紙 黒墨、赤墨	
712			木造汽船:船名不詳 船体線図		ケント紙 黒墨、赤墨	
713	外1	086	木造補助機関付帆船:「グアム丸」 2橋 スクーナー 貨物船 装帆船 一般配置 図 船体中央横断面図 機関室配置図	47 x 154	ケント紙 鉛筆書	
714			裏面: 木造補助機関付帆船:「グアム丸」 2橋スクーナー 貨物船 船体線図		ケント紙 鉛筆書	計画段階のも のと思われ、右 側上部に船型 修正の指示書 きあり
715	外1	087	右半分:カロリン丸 木造補助機関付帆船:「カロリン丸」 2 橋ブリガントイン 貨物船 装帆船 ス パー詳細図 左半分:大岡様 補助機関付 木造機帆船:「カロリン丸」 2橋 貨物船 機関を大型化した改造	58 x 154	ケント紙 鉛筆書	
716			裏面: 第5寿福丸 市川丸 南鵬丸 木造補助機関付帆船:「第5寿福丸」、 「市川丸」、「南鵬丸」 貨物船 船体線 図		ケント紙 鉛筆書	

717	外1	088	下瀬重太郎様手船 吉岡丸 原圖 木造帆船:「吉岡丸」3檣 貨物船 船 体線図	65 x 120	ケント紙 鉛筆書	外1-081では2 檣
718			裏面:武蔵丸原圖 木造帆船:「武蔵丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図		ケント紙 黒墨	
719	外1	089	伊勢丸改造原圖(表面)常滑町 陶栄株 式会社手船 伊勢丸改造二関ル圖面 (裏面に記載) 木造帆船(第3世代あいのご船):「伊勢 丸」2檣スクーナー 貨物船 構造図	57 x 154	ケント紙 鉛筆書	弁才船からあ いのご船への 改造内容が判 る貴重な図面
720			裏面:萬宝丸 木造帆船(第3世代あいのご船):「伊勢 丸」2檣スクーナー 貨物船 船体線図 (後半部のみ詳細)		ケント紙 黒墨、赤墨	同上
721	外1	090	龍骨長七十八尺 凡百五十噸船(裏面 に記載) 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 貨物船 船体線図	61 x 120	ケント紙 黒墨、赤墨、鉛筆書	船型に関する 指示書き(右 上) 鉛筆で図 面が消されて いる
722			裏面:木造帆船(第3世代あいのご船): 船名不詳 貨物船 船体線図(後半部 のみ原型の弁才船も描かれている)		ケント紙 黒墨、赤墨、青墨	弁才船からあ いのご船への 改造内容が判 る貴重な図面
723	外2	001	日本丸 構造図(寸法は実船寸法)	76 x 11.8	ケント紙 鉛筆	九鬼嘉隆建造 の太閤秀吉の 安宅船「日本 丸」復元模型
724	外2	002	「日本丸」側面図(寸法記入なし)	77 x 107	青焼	原紙は外2- 016
725	外2	003	「日本丸」側面図 構造図(寸法は実船 寸法)	76 x 117	ケント紙 鉛筆	
726	外2	004	造船界の変遷消長圖 古代から大正期に至る日本の船舶の変 遷を解説した図	77 x 107	ケント紙 鉛筆	
727	外2	005	「日本丸」側面図(寸法記入なし)	76 x 115	ケント紙 黒墨	
728	外2	006	「日本丸」側面図(寸法記入なし)	79 x 110	青焼	外2-002と同図
729	外2	007	「日本丸」側面図 構造図(寸法は実船 寸法)	79 x 110	青焼	原紙は外2- 015
730	外2	008	造船界の変遷消長圖 古代から大正期に至る日本の船舶の変 遷を解説した図	78 x 106	トレーシングペーパー(厚紙) 黒墨	外2-004を元図 とした原図
731	外2	009	千石船(弁才船)船首側側面図および航 (かわら)、水押(みおし)平面図	76 x 104	トレーシングペーパー(厚紙) 黒墨	千石船
732	外2	010	千石船(弁才船)船尾側側面図および航 (かわら)、戸立(とだて)平面図	76 x 102	トレーシングペーパー(厚紙) 黒墨	千石船
733	外2	011	千石船積形ノ圖 千石船(弁才船)側面図 舵、伝馬船図 面付	44 x 116	トレーシングペーパー(厚紙) 黒墨	千石船
734	外2	012	DECK PLAN OF 40 TON CUTTER 木造帆船:船名不詳 カッター デッキプ ラン	36 x 98	トレーシングペーパー(厚紙) 彩色	技術習得のた めの模写
735	外2	013	SHEER SECTION 40 TON CUTTER 木造帆船:船名不詳 カッター 船体縦 断面図	39 x 100	トレーシングペーパー(厚紙) 彩色	同上
736	外2	014	「日本丸」平面図 船体横断面図(3断 面)(寸法は実船寸法)	77 x 105	トレーシングペーパー(厚紙) 黒墨	
737	外2	015	「日本丸」側面図 構造図(寸法は実船 寸法)	77 x 105	トレーシングペーパー(厚紙) 黒墨	元図は外2- 003

738	外2	016	「日本丸」側面図(寸法記入なし)	78 × 106	トレーシングペーパー(厚紙) 黒墨	元図は外2-005
739	外2	017	「日本丸」関連と思われる雉の絵	58 × 150	ケント紙 彩色	
740	外2	018	「日本丸」関連と思われる飾り模様の絵	47 × 108	トレーシングペーパー 彩色	
741	外2	019-01	木造補助機関付帆船:「第二報効丸」3 檣スクーナー 鱈漁船 一般配置図 装 帆図 排水量等曲線図	62x150	厚手の製図用紙 鉛筆書	北方探検の郡 司大尉の報効 義會建造後に 売却されて白 瀬中尉の南極 探検船「開南 丸」となる。
742	外2	019-02	木造補助機関付帆船:「第二報効丸」3 檣スクーナー 鱈漁船 船体線図 船体 中央横断面図 外板構造図	62x150	厚手の製図用紙 鉛筆書	同上

電子化造船図面一覧表(平成30年度電子化分)

資料番号		資料名	寸法(縦×横)cm	材質	備考
1	外3 1	拾噸混泥土方塊運搬船之圖 三重縣四日市築港事務所 木造帆船:船名不詳 キャット 船体構造図	79×109	青焼	
2	外3 2	自三十五至三十八號船艙装之図 木造帆船:「三十五～三十八號船」スループ 特殊な輸送船(専用荷役装置らしきものが描かれている) 一般配置図	70×99	青焼	志摩國鳥羽町合資会社島羽造船所の楕円判が押されている
3	外3 3	船體線圖 木造帆船:船名不詳 船体線図	37×52	青焼	
4	外3 4	四拾七號船々体線圖 機関付木造船:船名不詳 船体線図	97×108	青焼	
5	外3 5	一般配置圖 木造機関付帆船:船名不詳 3檣ラガー活魚運搬船 一般配置図	65×109	青焼	改良和船構造
6	外3 6	帆装圖 木造機関付帆船:船名不詳 3檣ラガー活魚運搬船 装帆図	68×100	青焼	外3-5と同船
7	外3 7	重量參拾噸積石材運搬船之圖 木造帆船:船名不詳 2檣 一般配置図 船体横断面図(4断面)	56×92	青焼	
8	外3 8	General Arrangment of Single Screw Spar Deck Steel Steamer(一軸輕甲板鋼汽船) 鋼製汽船:船名不詳 貨物船 一般配置図	70×98	青焼	OSAKA IRON WORKS Nob. 1899.の記載(大阪鐵工所後の日立造船)
9	外3 9	七拾五呎木造單暗車汽船側面及平面艙装之圖 木造汽船:船名不詳 交通船 一般配置図	73×93	青焼	大阪鐵工所の図面
10	外3 10	Sail Plan 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ貨物船 装帆図	55×67	青焼	
11	外3 11	Sail Plan 木造帆船:船名不詳 ケッチ 装帆図 マスト起倒装置	48×73	青焼	起倒装置の作動状態の図示あり
12		裏面:起倒装置の試し書きの図あり			
13	外3 12	装帆圖 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー 装帆図	46×63	青焼	朱記書込あるが滲んで判別不能
14	外3 13	構造圖 船体中心線縦截断面圖 甲板平面及艙内平面圖 木造帆船:船名不詳 3檣 貨物船 構造図	79×55	青焼	
15	外3 14	MIDSHIP SECTION 機関付木造船:船名不詳 おそらく漁船 船体横断面図(2断面)	48×57	青焼	
16	外3 15	機関付木造船:船名不詳 漁船 船体横断面図(2断面)	40×60	青焼	
17	外3 16	MIDSHIP SECTION 木造帆船:船名不詳 貨物船 船体中央横断面図	46×66	青焼	

18	外3	17	装帆圖 木造帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 装帆圖	37×49	青焼	
19	外3	18	線圖 木造補助機関付帆船:船名不詳 船体線圖	38×81	青焼	
20	外3	19	中央横截面圖 装帆圖 木造帆船:船名不詳 2檣スクーナー貨物船 船体中央横断面圖 装帆圖	35×72	青焼	
21	外3	20	配置圖 中央横断面圖 木造機帆船:船名不詳 2檣スクーナー貨物船 一般配置圖 船体中央横断面圖	55×79	青焼	
22	外3	21	BOAT 木造ギグ:艇名不明 6人漕ぎギグ 一般配置圖	54×79	青焼	
23	外3	22	船体構造圖及装帆圖 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ漁船 一般配置圖(構図圖) 装帆圖	47×59	青焼	
24	外3	23	西洋型帆装遠洋漁船圖 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ漁船 一般配置圖(構図圖) 船体中央横断面圖	30×61	青焼	禧(?)藤造船鉄工所之印の印影あり
25	外3	24	西洋型帆装遠洋漁船圖 木造補助機関付帆船:船名不詳 漁船 船体線圖	33×43	青焼	遠藤造船所の印影あり
26	外3	25	西洋型帆装遠洋漁船圖 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ漁船 装帆圖	44×46	青焼	禧(?)藤造船鉄工所之印の印影あり
27	外3	26	MIDSHIP SECTION OF A GASOLINE MOTORBOAT 木造機艇:船名不詳 軽構造の交通艇 船体横断面圖(2断面)	47×37	青焼	
28	外3	27	LINES 木造機艇:船名不詳 軽構造高速の角型船型モーターボート 船体線圖	44×70	青焼	
29	外3	28	CONSTRUCTION PROFILE & DECKPLAN OF SAILING YACHT 木造ヨット:艇名不詳 スコー(平底)タイプの小型ヨット 船体縦断面圖及甲板平面の構造圖	43×79	青焼	
30	外3	29	RIGGING PLAN OF SAILING YACHT 木造ヨット:艇名不詳 スコー(平底)タイプの小型ヨット スループ 装帆圖	79×54	青焼	外3-28と同艇
31	外3	30	拾五馬力石油發動機据付圖 新潟鐵工所造船部 木造船への石油發動機据付圖	39×65	青焼	明治42年7月の記載
32	外3	31	參拾五馬力三圓筒石油發動機据付圖 新潟鐵工所造船部 木造船への石油發動機据付圖	44×72	青焼	明治42年7月の記載
33	外3	32	船用石油發動機装置圖 8, 12, 15馬力發動機の機関および軸系寸法表	55×80	青焼	池貝鐵工所の楕円判押印あり
34	外3	33	船用五馬力石油發動機 船内装置圖 5馬力石油發動機船内配置圖 プロペラ昇降式(ごく初期のもので珍しい図面)	55×98	青焼	池貝鐵工所の楕円判押印あり 明治43年1月の記載

35	外3	34	Single Ended Marine Boiler 片面船用ボイラー	53x79	青焼	頼田鉄工所の 会社印あり 裏 焼きになっている
36	外3	35	釜.五呎六吋 長.五呎五吋 マリンボイ ラー之圖 楠木製作所設計部 ボイラー図面	51x79	青焼	大正7年9月9日 の記載
37	外3	36	General Drawing of a Compound Surface Condensing Engine 表面復水器付二連蒸気機関組立一般 図	55x78	青焼	頼田鉄工所の 会社印あり
38	外3	37	参聯式表面冷汽々機之圖 表面復水器付三連蒸気機関組立一般 図	55x79	青焼	
39	外3	38	MIDSHIP SECTION 木造帆船:船名不詳 船体中央横断面 図	47x48	青焼	使用木材名が ローマ字で記さ れている
40	外3	39	LINES 木造補助機関付帆船:船名不詳 船体 線図	56x77	青焼	
41	外3	40	壹百拾七呎木製土運船之圖 木造船:船名不詳 角型船型 船体中 央横断面図	32x49	青焼	荷崩れを防ぐ ために土砂運 搬部側面には 傾斜がつけて ある。
42	外3	41	壹百拾七呎木製土運船之圖 木造船:船名不詳 一般配置図	34x68	青焼	外3-40と同船
43	棚11	1	LINES 木造帆船:「日東丸」2檣スクナー 獵虎獵漁船 船体線図	41x103	トレーシングペーパー 黒墨	
44	棚11	2	構造圖 木造帆船:「日東丸」2檣スクナー 獵虎獵漁船 一般配置図(構造図)	53x77	トレーシングペーパー 黒墨	
45	棚11	3	装帆圖 木造帆船:「日東丸」2檣スクナー 獵虎獵漁船 装帆図	56x80	トレーシングペーパー 黒墨	
46	棚11	4- (1/2)	hand winch 巖手懸 「岩手丸」用手動ウインチ図面 漁業指 導船	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	明治43年12月 の記載
47	棚11	4- (2/2)	六分チエン用コントローラー現尺 アンカーチェーンストッパー ポラード	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	
48	棚11	5- (1/2)	hand winch 熊本縣不知火丸据付 「不知火丸」手動ウインチ図面 漁業指 導船	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	明治43年6月の 記載
49	棚11	5- (2/2)	ビット架台及滑車図	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	
50	棚11	6	少年團日本聯盟練習船忍路丸構造圖 GENERAL ARRANGEMENT PLAN 木造補助機関付帆船:「忍路丸」ブリガ ンティン 練習船 一般配置図(構造図)	62.5x92.6	原紙 黒墨	「忍路丸」は北 海道帝国大学 水産学部初代 練習船 後に 少年団連盟に 払い下げられ 「義勇和爾丸」 となる。
51	棚11	7	少年團日本聯盟練習船忍路丸構造圖 GENERAL ARRANGEMENT PLAN 木造補助機関付帆船:「忍路丸」ブリガ ンティン 練習船 一般配置図(構造図)	59.3x84.5	青焼	棚11-6の青焼

52	棚11	8	GENERAL ARRANGEMENT PLAN 木造補助機関付帆船:「忍路丸」ブリガ ンティン 練習船 一般配置図(構造図)	64.4x93.3	トレーシングペーパー 黒墨	棚11-6と同図 であるが墨字 による書込なし
53	棚11	9	GENERAL ARRANGEMENT PLAN 木造補助機関付帆船:「忍路丸」ブリガ ンティン 練習船 一般配置図(構造図)	59.5x84	青焼	棚11-8の青焼
54			GENERAL ARRANGEMENT PLAN 木造補助機関付帆船:「忍路丸」ブリガ ンティン 練習船 一般配置図(構造図)		青焼	棚11-9と同図 (焼きの程度が 異なる)
55	棚11	10	少年団日本聯盟練習船忍路丸・義勇和 爾丸 構造圖 株式会社 市川造船所 GENERAL ARRANGEMENT PLAN 木造補助機関付帆船:「忍路丸」、「義勇 和爾丸」ブリガンティン 練習船 一般 配置図(構造図)	47x65.5	第二原紙	図11-6と同図 であるが、墨字 の書込が異なる。戦後の乾 式電子複写機 による複写。
56	棚11	11	SAIL PLAN 少年団日本聯盟練習船 和爾丸 木造補助機関付帆船:「義勇和爾丸」 ブリガンティン 練習船 装帆図	50x65	トレーシングペーパー 鉛筆書	
57	棚11	12	MIDSHIP SECTION 少年団日本聯盟 練習船 忍路丸 義勇和爾丸 木造補助機関付帆船:「義勇和爾丸」 ブリガンティン 練習船 船体中央横断 面図	54.5x58.5	トレーシングペーパー 鉛筆書	
58	棚11	13	木造カッター:艇名不詳 スループ 8人 漕ぎ 「義勇和爾丸」搭載艇 一般配置 図	55x64	トレーシングペーパー 黒墨	「義勇和爾丸」 改造工事失注 の代償として市 川造船所に発 注された搭載 艇
59	棚11	14	少年団和爾丸ボート 木造カッター:艇名不詳 スループ 8人 漕ぎ 「義勇和爾丸」搭載艇 一般配置 図 船体線図 船体中央横断面図	59.7x67	トレーシングペーパー 黒墨	同上
60	棚11	15	GENERAL ARRANGEMENT OF A GASOLINE MOTOR BOAT 木造機艇:艇名不詳 軽量構造のモー ターボート 一般配置図 船体中央横断 面図	65x51	トレーシングペーパー 黒墨	
61	棚11	16	艀装圖 木造補助機関付帆船:「忍路丸」(二世) 3橋バーカントイン 一般配置図(艀装 図)	79x68	トレーシングペーパー 黒墨	神戸製鋼所鳥 羽造船所建造 の「忍路丸」(二 世)図面。一 世改造の参考 図と思われる。
62	棚11	17- (1/2)	忍路丸用サイドスカイトル真中製 ガラス 5分×6寸5分 「忍路丸」船窓図面	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	
63	棚11	17- (2/2)	忍路丸 Long chain pipe Bilge pump 「忍路丸」用チェーンパイプ図面 ビルジ ポンプ図面	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	
64	棚11	18- (1/2)	忍路丸バワァー現尺	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	
65	棚11	18- (2/2)	「忍路丸」搭載装置 用途不明	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	ターンバックル 的使い方をす るもの
66	棚11	19- (1/2)	Windlass 忍路丸 「忍路丸」ウインドラス(揚錨装置)	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	
67	棚11	19- (2/2)	「忍路丸」チェーンストッパー	58.5x76	ケント紙 鉛筆書	



68	棚11	20	角利助様漁船(朱書) 木造船:「北洋丸」2檣スクーナー 獺虎獺漁船 構造配置図 船体中央横断面図	40×89	青焼	角利助氏は鳥羽商船学校第4代校長
69	棚11	21	改良遠洋漁船 三重縣度會郡大湊町市川造船所 大分県珍彦丸 大分県豊国丸 和歌山県那智丸 木造船:「珍彦丸」、「豊国丸」、「那智丸」いずれもケッチ 初期の水産試験場洋式帆船3隻分の装帆船、船体線図、構造図、中央横断面図が纏めて描いてある図面	71×129	青焼	元図は棚3-008
70	棚11	22	和歌山大分縣水産試験場 那智豊国丸 装帆船 木造船:「豊國丸」ケッチ 漁業指導船 装帆船	49×59	青焼	
71	棚11	23	Metacentric Diagram of Toyokunimaru 木造船:「豊國丸」ケッチ 漁業指導船 排水量等曲線図	37×43	青焼	
72	棚11	24	MIDSHIP SECTION 木造船:船名不詳 船体中央横断面図	55×40	トレーシングペーパー 黒墨 (原紙)	
73	棚11	25	装帆船 木造補助機関付帆船:船名不詳 ケッチ 漁船 一般配置図 船体線図 船体中央横断面図 装帆船	70×110	青焼	市川造船所の角印印影あり
74	棚12	1	MIDSHIP SECTION 木造機帆船:「金鷄丸」2檣スクーナー 農林省水産局試験船 船体中央横断面図	45×48	トレーシングペーパー 黒墨	市川造船所のスタンプ印影あり
75	棚12	2	LINES 木造機帆船:「金鷄丸」2檣スクーナー 農林省水産局試験船 船体線図	49×83	トレーシングクロス 黒墨	同上
76	棚12	3	SAIL PLANE 木造機帆船:「金鷄丸」2檣スクーナー 農林省水産局試験船 装帆船	73×93	トレーシングペーパー 黒墨	同上
77	棚12	4	GENERAL ARRANGEMENT 木造機帆船:「金鷄丸」2檣スクーナー 農林省水産局試験船 一般配置図	76×94	トレーシングペーパー 黒墨	同上
78	棚12	5	中央横断面図 木造機帆船:「銀鷗丸」ケッチ 広島県水産試験所試験船 船体中央横断面図	44×47	トレーシングペーパー 黒墨	
79	棚12	6	LINES 木造機帆船:「銀鷗丸」ケッチ 広島県水産試験所試験船 船体線図	54×84	トレーシングクロス 黒墨	
80	棚12	7	艀装図 木造機帆船:「銀鷗丸」ケッチ 広島県水産試験所試験船 一般配置図(艀装図)	94×76	トレーシングペーパー 黒墨	
81	棚12	8	GENERAL ARRANGEMENT 木造機帆船:「銀鷗丸」ケッチ 広島県水産試験所試験船 一般配置図	98×81	トレーシングクロス 黒墨	棚12-7をトレーシングクロスに写したもの
82	棚12	9	MIDSHIP SECTION 木造機帆船:「秋田丸」ケッチ 秋田県漁業試験船 船体横断面図(2断面)	46×64	トレーシングペーパー 黒墨	

83	棚12	10	秋田縣漁業試験船秋田丸 SAIL PLANE(ママ) 木造機帆船:「秋田丸」ケッチ 秋田県漁業試験船 装帆図	51×68	トレーシングペーパー 黒墨	
84	棚12	11	中央横断面圖 木造機帆船:「魁丸」ケッチ 青森県水産試験場試験船 船体横断面図(2断面)	46×60	トレーシングペーパー 黒墨	
85	棚12	12	配置圖 木造機帆船:「魁丸」ケッチ 青森県水産試験場試験船 一般配置図	76×101	トレーシングペーパー 黒墨	
86	棚12	13	MIDSHIP SECTION GENERAL ARRANGEMENT 木造補助機関付帆船:「喜々美丸」2橋スクーター 米式巾着網漁船 一般配置図 船体横断面図(2断面)	76×101	トレーシングペーパー 黒墨	
87	棚12	14	米式巾着網漁船の網回転テーブル詳細圖 木造補助機関付帆船:「喜々美丸」	51×77	トレーシングペーパー 黒墨	
88	棚12	15	LINES 木造機帆船:「磐城丸」2橋スクーター 福島県水産試験場試験船 船体線図	55x101	トレーシングクロス 黒墨	
89	棚12	16	MIDSHIP SECTION GENERAL ARRANGEMENT 木造機帆船:「磐城丸」2橋スクーター 福島県水産試験場試験船 一般配置図 船体横断面図(2断面)	81x107	トレーシングクロス 黒墨	
90	棚12	17	MIDSHIP SECTION GENERAL ARRANGEMENT 木造機帆船:「磐城丸」2橋スクーター 福島県水産試験場試験船 一般配置図 船体横断面図(2断面)	81x107	トレーシングクロス 黒墨	棚12-16をトレーシングクロスに写したもの
91	棚12	18	MIDSHIP SECTION 木造機帆船:「海形丸」ケッチ 鯉鮪釣漁船 船体横断面図(2断面)	42x59	トレーシングクロス 黒墨	
92			裏面:墨塗り部分の裏側「海形丸」の記載			
93	棚12	19	GENERAL ARRANGEMENT 木造機帆船:「海形丸」ケッチ 鯉鮪釣漁船 一般配置図	67x84	トレーシングクロス 黒墨	
94			裏面:墨塗り部分の裏側「海形丸」の記載			
95	棚12	20	LINES 木造機帆船:「海形丸」ケッチ 鯉鮪釣漁船 船体線図 オフセット表	71x106	トレーシングクロス 黒墨	
96			裏面:墨塗り部分の裏側「海形丸」の記載			
97	棚12	21	慥柄浦濱田為吉殿盛運丸鮪及鯉釣漁船五〇馬力 LINES 木造機帆船:「盛運丸」3橋ラガー 鯉鮪釣漁船 船体線図	51x76	トレーシングペーパー 黒墨	大正14年8月2日起工の記載
98	棚12	22	盛運丸 配置圖 中央横断面圖 木造機帆船:「盛運丸」3橋スクーター(フォアとミズンはラガー) 鯉鮪釣漁船 一般配置図 船体横断面図(2断面)	51x76	トレーシングペーパー 黒墨	大正14年8月起工の記載
99	棚12	23	線圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 水産学校実習船 船体線図	33×49	トレーシングクロス 黒墨	

100	棚12	24	配置圖 中央横断面圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 水産学 校実習船 一般配置図 船体横断面図 (2断面)	41×49	トレーシングクロス 黒墨	棚12-23と同船
101	A148	2	GENERAL ARRANGEMENT 木造機帆船:「琉球丸」ケッチ 沖縄県 漁労指導船 一般配置図	51×77	トレーシングペーパー 黒墨	昭和2年6月21 日付けの市川 造船所楕円判 印影あり
102			裏面:墨塗り部分の裏側「沖縄県漁撈 指導船」と主要寸法の記載			
103	A148	3	沖縄県漁撈指導船 丸 MIDSHIP SECTION 木造機帆船:「琉球丸」ケッチ 沖縄県 漁労指導船 船体横断面図(2断面)	38×51	トレーシングペーパー 黒墨	
104	A148	4	木造機帆船:「琉球丸」ケッチ 沖縄県 漁労指導船 船体線図	33×76	トレーシングペーパー 黒墨	
105	A148	5	SAIL PLAN 木造機帆船:「琉球丸」ケッチ 沖縄県 漁労指導船 装帆図	42.5×64	トレーシングペーパー 黒墨	
106	A152	3	船体構造圖 木造機帆船:「富士丸」(二世) 2檣ス クナー 静岡県水産試験場試験船 一般配置図(船体構造図)	76×83	和紙 黒墨	
107			裏面:マスキング部分の裏側「静岡県 水産試験場試験船」の記載			
108	A152	4	MIDSHIP SECTION 木造機帆船:「富士丸」(二世) 2檣ス クナー 静岡県水産試験場試験船 船体横断面図(2断面)	38×45	和紙 黒墨	
109			裏面:マスキング部分の裏側「静岡県 水産試験場試験船」の記載			
110	A152	5	静岡県水産試験場試験船 木造機帆船:「富士丸」(二世) 2檣ス クナー 静岡県水産試験場試験船 船体線図	51×76	トレーシングペーパー 黒墨	
111	A152	6	静岡県水産試験場試験船 SAILING PLAN 木造機帆船:「富士丸」(二世) 2檣ス クナー 静岡県水産試験場試験船 装帆図	39×49	トレーシングペーパー 黒墨	
112	A152	7	木造船:船名不詳 船首部ステム詳細 寸法図	51×50	トレーシングペーパー 鉛筆	
113	A152	8	18FT HYDROPLANE BOAT 木造機艇:艇名不詳 角型船型 軽量構 造の船外機付モーターボート 船体線図 平面図 船体中央横断面図	55×79	和紙 黒墨	船外機は米国 製エピンロード 社製
114	A152	24	主機械臺及推力軸承臺配置圖 木造船:船名不詳 主機関台と軸系配 置図	78×108	和紙 黒墨	
115	A277	1-2	機関付木造船:船名不詳 漁船 船体横 断面図(2断面)	42×55	トレーシングペーパー 黒墨	
116	A277	1-4	木造機帆船:船名不詳 2檣スクナー 漁船 一般配置図	72×78	和紙 鉛筆	A277 1-2と同 船
117	棚13	1	第二寶照丸 中央横断面圖 木造機帆船:「第二寶照丸」ケッチ 鯉 鮪釣漁船 船体横断面図(2断面)	56×61	トレーシングペーパー 黒墨	昭3. 10の記載
118	棚13	2	装帆圖 木造機帆船:「第二寶照丸」ケッチ 鯉 鮪釣漁船 装帆図	52×79	トレーシングペーパー 黒墨	

119	棚13	3	御前崎第二寶照丸 線圖 木造機帆船:「第二寶照丸」ケッチ 鯉 鮪釣漁船 船体線図 オフセット表	61x78	トレーシングペーパー 黒墨	昭和3年9月起 工の記載
120	棚13	4	御前崎第二寶照丸 配置圖 木造機帆船:「第二寶照丸」ケッチ 鯉 鮪釣漁船 一般配置図	61x86	トレーシングペーパー 黒墨	昭3.10の記載
121	棚13	5	中央横截面圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 鯉鮪釣 漁船 船体横断面図(2断面)	41x48	トレーシングペーパー 黒墨	
122	棚13	6	線圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 鯉鮪釣 漁船 船体線図	38x73	トレーシングペーパー 黒墨	棚13-5と同船
123	棚13	7	一般配置圖 木造機帆船:船名不詳 ケッチ 鯉鮪釣 漁船 一般配置図	69x70	トレーシングペーパー 黒墨	棚13-5と同船
124	棚13	8	SAIL PLANE(ママ) 木造機帆船:「昭栄丸」ケッチ 鯉鮪釣 漁船 装帆図	33x40	トレーシングペーパー 黒墨	
125	棚13	9	MIDSHIP SECTION 木造機帆船:「昭栄丸」ケッチ 鯉鮪釣 漁船 船体横断面図(2断面)	34x42	トレーシングペーパー 黒墨	
126	棚13	10	LINES 木造機帆船:「昭栄丸」ケッチ 鯉鮪釣 漁船 船体線図	58x77	トレーシングペーパー 黒墨	
127	棚13	11	ARRANGEMENT 木造機帆船:「昭栄丸」ケッチ 鯉鮪釣 漁船 一般配置図	65x78	トレーシングペーパー 黒墨	
128	棚13	12	福井縣漁業取締船 中央横断面圖 木造機帆船:「若越丸」ケッチ 漁業取 締船 船体横断面図(2断面)	39x43	トレーシングペーパー 黒墨	
129	棚13	13	福井縣漁業取締船 線圖 木造機帆船:「若越丸」ケッチ 漁業取 締船 船体線図 オフセット表	51x76	トレーシングペーパー 黒墨	
130	棚13	14	福井縣漁業取締船 一般配置圖 木造機帆船:「若越丸」ケッチ 漁業取 締船 一般配置図	66x83	トレーシングクロス 黒墨	
131	棚13	15	中央氣象臺氣象觀測船 親潮丸 中央 横截面圖 木造機帆船:「親潮丸」ケッチ 氣象觀 測船 船体横断面図(2断面)	51x64	和紙 黒墨	中央氣象台の 最初期の氣象 觀測船の1隻。 昭和11年4月の 記載
132	棚13	16	中央氣象臺氣象觀測船 親潮丸 船體 線圖 木造機帆船:「親潮丸」ケッチ 氣象觀 測船 船体線図 オフセット表	49x73	トレーシングペーパー 黒墨	同上
133	棚13	17	中央氣象臺氣象觀測船 親潮丸 一般 配置圖 木造機帆船:「親潮丸」ケッチ 氣象觀 測船 一般配置図	72x79	トレーシングペーパー 黒墨	同上
134	棚13	18	中央氣象臺氣象觀測船 黒潮丸 中央 横截面圖 木造機帆船:「黒潮丸」ケッチ 氣象觀 測船 船体横断面図(2断面)	45x56	和紙 黒墨	同上
135	棚13	19	中央氣象臺氣象觀測船 黒潮丸 船體 線圖 木造機帆船:「黒潮丸」ケッチ 氣象觀 測船 船体線図 オフセット表	51x87	トレーシングペーパー 黒墨	同上

136	棚13	20	中央氣象臺氣象觀測船 黒潮丸 一般配置圖 木造機帆船:「黒潮丸」ケッチ 氣象觀測船 一般配置圖	74x90	トレーシングペーパー 黒墨	同上
137	棚13	21	中央横断面圖 木造機帆船:「早池峰山丸」ケッチ 岩手県漁業取締船 船体横断面図(2断面)	44x34	トレーシングペーパー 黒墨	
138	棚13	22	一般配置圖 木造機帆船:「早池峰山丸」ケッチ 岩手県漁業取締船 一般配置圖	65x71	トレーシングペーパー 黒墨	
139	棚13	23	外板外面線圖(線図) 木造機帆船:「早池峰山丸」ケッチ 岩手県漁業取締船 船体線図(外面)	44.5x72	トレーシングペーパー 黒墨	
140	棚13	24	機関室配置圖 無線電信電話室配置圖 木造機帆船:「早池峰山丸」ケッチ 岩手県漁業取締船 機関室、通信室配置圖	54.5x69	トレーシングペーパー 黒墨	
141	棚13	25	第三鳳丸及青海丸 一般配置圖 木造機帆船:「第三鳳丸」、「青海丸」ケッチ 巾着網漁船 一般配置圖	65x74	トレーシングペーパー 黒墨	
142	棚13	26	ARRANGEMENT 木造機帆船:「大王丸」ケッチ 三重県漁業監督船 一般配置圖	69x61	トレーシングペーパー 黒墨	
143	棚13	27	LINES 木造機帆船:「大王丸」ケッチ 三重県漁業監督船 船体線図	53x80	トレーシングペーパー 黒墨	
144	棚13	28	巾着網漁船 昭和丸 一般配置圖 木造機帆船:「昭和丸」ケッチ 巾着網漁船 一般配置圖	73x81	トレーシングペーパー 黒墨	13.3.20.の記載
145	棚13	29	南洋廳サイパン支廳用機艇 船尾管後部座金 正面圖 船尾管部品	40x28	和紙 黒墨	
146	棚13	30	南洋廳サイパン支廳用機艇 船尾管後部座金 側面圖 船尾管部品	40x28	和紙 黒墨	棚13-29とセット
147	棚13	31	南洋廳サイパン支廳用一三・七〇米機艇 舵及金物之圖 木造機艇:「みづほ」 南洋庁サイパン支庁交通艇 舵図面	44x34	トレーシングペーパー 黒墨	単板舵で最終的なものではない
148	棚13	32	ソルピース之圖 木造機艇:「みづほ」 南洋庁サイパン支庁交通艇 シューピース図面	45x47	トレーシングペーパー 黒墨	最終図面に近い形状
149	棚13	33	MIDSHIP SECTION 木造機艇:「おほとり」 南洋庁サイパン支庁交通艇 船体横断面図(2断面)	40x32	トレーシングペーパー 黒墨	
150	棚13	34	南洋廳内火艇 木造機艇:「おほとり」 南洋庁サイパン支庁交通艇 排水量等曲線図	41x54	トレーシングペーパー 黒墨	
151	棚13	35	南洋廳サイパン支廳四十五呎機艇用雨覆之圖 木造機艇:「おほとり」 南洋庁サイパン支庁交通艇 オーニングカバー図面	51x59	トレーシングペーパー 黒墨	
152	棚13	36	南洋廳サイパン支廳用機艇 GENERAL ARRANGEMENT 木造機艇:「おほとり」 南洋庁サイパン支庁交通艇 一般配置圖	55x77	トレーシングペーパー 黒墨	昭和7年1月の記載 完成図(棚13-38)とは細部が異なる

153	棚13	37	南洋廳サイパン支應用機艇 LINES 木造機艇:「おほとり」南洋庁サイパン 支庁交通艇 船体線図 オフセット表	52x73	トレーシングペーパー 黒墨	昭和7年1月の 記載
154	棚13	38	南洋廳サイパン支應用機艇 GENERAL ARRANGEMENT 木造機艇:「おほとり」南洋庁サイパン 支庁交通艇 一般配置図	52x73	トレーシングペーパー 黒墨	完成図
155	棚13	39	南洋廳十三、七〇米機艇みづほ 舵及 舵金物之圖 木造機艇:「みづほ」南洋庁サイパン支 庁交通艇 舵図面	46x38	トレーシングペーパー 黒墨	流線舵で採用 設計と思われ る
156	棚13	40	南洋廳十三、七〇米機艇みづほ 中央 横断面圖 木造機艇:「みづほ」南洋庁サイパン支 庁交通艇 船体横断面図(2断面)	39x48	トレーシングペーパー 黒墨	
157	棚13	41	南洋廳十三、七〇米機艇みづほ 船體 線圖 木造機艇:「みづほ」南洋庁サイパン支 庁交通艇 船体線図 オフセット表	43x74	トレーシングペーパー 黒墨	
158	棚13	42	南洋廳十三、七〇米機艇みづほ 一般 配置図 木造機艇:「みづほ」南洋庁サイパン支 庁交通艇 一般配置図	49x79	トレーシングペーパー 黒墨	棚13-43とは船 尾形状が異なる。船体線図と 同じ。採用設計 と推察。
159	棚13	43	南洋廳十三、七〇米機艇 一般配置図 圖 木造機艇:「みづほ」南洋庁サイパン支 庁交通艇 一般配置図	48.5x77.5	トレーシングペーパー 黒墨	棚13-42とは船 尾形状に差が ある
160	棚13	44	砂利採取船 木造作業船:船名不詳 バケットタイプ 砂利採取船 一般配置図	59x91	青焼	昭和19年7月10 日の記載
161	棚14	1	全羅南道水産試験場御注文 ARRANGEMENT OF CARGO & PASSENGER BOAT 木造機帆船:「海陽丸」スループ 貨客 船 一般配置図 船体中央横断面図	51x76	トレーシングペーパー 黒墨	大正14年8月の 記載
162	棚14	2	全羅南道水産會漁業指導船 木造機帆船:「南鵬丸」ケッチ 漁業指 導船 装帆図	31x52	トレーシングペーパー 黒墨	
163	棚14	3	全羅南道水産會漁業指導船 木造機帆船:「南鵬丸」ケッチ 漁業指 導船 船体横断面図(2断面)	51x76	トレーシングペーパー 黒墨	昭3.8.の記載
164	棚14	4	全羅南道水産會漁業指導船 木造機帆船:「南鵬丸」ケッチ 漁業指 導船 船体線図	51x76	トレーシングペーパー 黒墨	同上
165	棚14	5	全羅南道水産會漁業指導船 木造機帆船:「南鵬丸」ケッチ 漁業指 導船 一般配置図	73x83	トレーシングペーパー 黒墨	同上
166	棚14	6	慶尚南道水産指導船 構造圖 木造機帆船:「鵬丸」(?) ケッチ 水産 指導船 一般配置図(構造圖)	49x73	青焼	市川建造船で はない(?)
167	棚14	7	慶尚南道試験船 中央横断面圖 木造機帆船:「鵬丸」(?) ケッチ 水産 指導船 船体横断面図(2断面)	38x49	青焼	

168	棚14	8	慶尚南道水産指導船 装帆圖 木造機帆船:「鵬丸」(?) ケッチ 水産 指導船 装帆図	45x59	青焼	
169	棚14	9	慶尚南道水産指導船 線圖 木造機帆船:「鵬丸」(?) ケッチ 水産 指導船 船体線図	47x71	青焼	

## 主要文献に記述された市川造船所建造船

### 1 日本造船史での記述

日本船舶海洋工学会は我国に近代造船学が導入された明治期より、その組織、名称を変更しながら 2017 年には創立 120 周年を迎える、世界的にも高く評価されている権威ある学会である。

同学会では、各時代の区切りにその時代時代における日本の造船を総合的に記録する造船史を刊行してきた。すなわち、

- (1) 造船協会 編：日本近世造船史、弘道館、明治 44 年(1911)
- (2) 造船協会 編：日本近世造船史 大正時代、造船協会、昭和 10 年(1935)、2 冊
- (3) 日本造船学会 編：昭和造船史 第 1 巻 (戦前・戦時編)、明治百年史叢書、原書房、昭和 52 年(1977)
- (4) 日本造船学会 編：昭和造船史 第 2 巻 (戦後編)、明治百年史叢書、原書房、昭和 48 年(1973)
- (5) 日本造船学会 編：日本海軍艦艇図面集、明治百年史叢書昭和造船史別冊、原書房、昭和 50 年(1975)

この内、(1)、(2)については昭和造船史刊行にあわせて復刻版が刊行されている。

- (6) 造船協会 編：日本近世造船史 明治時代、明治百年史叢書 (弘道館明治 44 年刊の複製)、原書房、昭和 48 年(1973)、2 冊 (別冊付図共)
- (7) 造船協会 編：日本近世造船史 大正時代、明治百年史叢書 (造船協会昭和 10 年刊の複製)、原書房、昭和 48 年(1973)、2 冊 (付図共)

いずれも質・量共堂々たる大著であり、日本における造船の「正史」といえるものである。

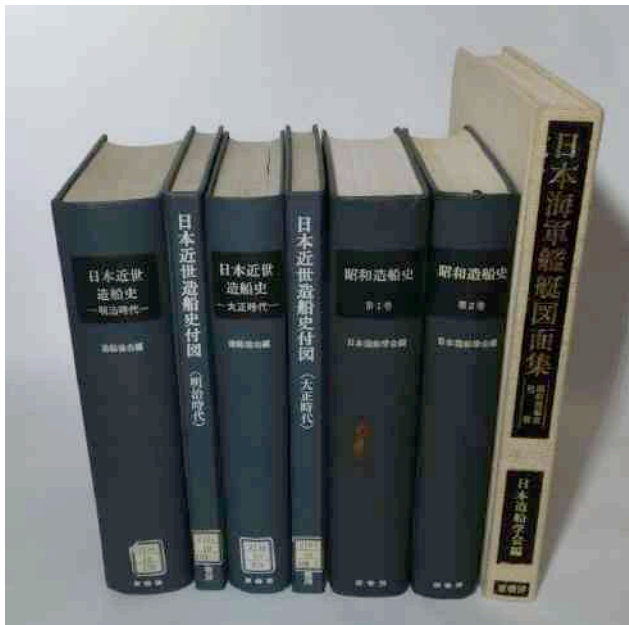


写真 1 日本近世造船史および昭和造船史

#### 1. 1 日本近世造船史 (明治時代)<sup>(1)</sup>における記述

明治期の我国の造船は富国強兵の国策により、艦艇、外国航路用の大型商船の建造に注力し、



大きな成果をあげた。日本近世造船史（明治時代）においてもこのような分野の記述が多いが、その中にあっても本書においては大湊に関連する記述が多数なされている。木造船を主とする造船地は多数存在したにもかかわらず、大湊については破格の扱いがなされている。

まず、我国の開国以前の造船を述べた、「第1編 海外交通と其影響及結果、第2章 開国以前に於ける造船業の消長と航海術の進歩」において、

(p.43)

「内国航路に於いては、伊勢の大湊は、本邦中部の要津として、船舶大いに輻輳せり。大湊は、宮川河口にありて、水利の便多く、紀伊・大和の国境には、森林鬱蒼せるを以て、造船材料を搬出するの便多し。これによりて、古来造船術は、比較的発達したりしが如し。鎌倉時代には、諸国廻船の支配をなし、南北朝時代に於いて、大湊は、南朝の勢力範囲に属し、以て東西連絡の鎖輪となれり。戦国時代に於いては、伊勢船と称するものありて、関東地方の航運を掌れり。秀吉の征明の役を起すや、志摩鳥羽城主九鬼嘉隆に命じて、兵艦をつくらしめしも、其大部分は、大湊に於いて製造したり。また第五期の初に於いては、角屋七郎次郎といえるものあり、盛んに航海を営みたり。」

として古くからの造船地としての大湊を紹介し、さらに豊臣秀吉の命により建造した「日本丸」については。

(p.45)

「是に於いて、我造船界は、未曾有の盛況を呈せり。即ち日本丸（第八図）（原図は、九鬼公釜山船柵の図家祖伝来の写と称し、九鬼氏家臣野津氏の所有したるものなり。本船は、天正十九年（西暦千五百九十一年）の頃、九鬼嘉隆、太閤秀吉の命を受け製造せしものにして、征韓の役終わるや、鳥羽に係留せり。其後多少改造して、大龍丸と称せり。安政三年（西暦千八百五十六年）頃、腐朽に垂んとせしを以て、解撤せられたりという。）と称する一大船舶を首として、多数の新造をなせり。

（中略）

日本丸の大きさについては、明細なる記録を欠くと雖も、或記に、秀吉此船に於いて、能を催したるに、十八畳敷の座敷三室ありしよりて、狭隘を感じることなかりしと云う。之を以て、大凡其大きさを想像すべし、京都高台寺の秀吉の廟の天井、及び其の他の材は、秀吉征韓の時の御座船の材を用いたるものと伝う。」

と詳細に記している。

次に、「第3編 帝国海商、第2章 造船業の進歩、第4節 特殊船、第3項 漁船」において、**市川造船で建造された原動機付漁業指導船「富士丸」について、大きく記述**されていて、本船が日本漁業においていかに画期的存在であったかを認識することができる。

(p.659)

「釣漁業

釣漁業中に就き、最も発達し、尚益々改善せらんとするものは、鯉釣漁業なりとす。近来鯉の好漁場は、漸次陸地に遠かるの傾向あり。就中静岡・金川両地方鯉漁船の如きは、従来伊豆沖三四十海里に出漁するを例とせしが、最近数年間に、漁場著しく南下し、八丈島及び小笠原島付近に移動せるを以て、在来の小大和形船にて出漁するの危険なるを認むるに至れり。加之、其漁期

は、四月より十月に及び、盛夏の候に際し遠隔の地より、漁獲物運搬に、長時間を要し、往々腐敗を招くことあるを以て、鯉漁船の改良は、此の地方に於ける緊急問題となりたり。然るに、会々三十六年、大阪市に、第五回内国勲業博覧会開催せらるるや、仏・米両国の出品せし、船用石油発動機は、一般漁業者の注意を喚起し、静岡県水産試験場は、明治三十八年、農商務省水産局の設計に基づきて、純然たる西洋形船（木造、「ケッチ」形二十五噸）に補助機関として、石油発動機を据え付け、且つ餌料用の生洲をも備えたる新式鯉漁船を建造し、之れを富士丸（第百六十四図）（付図第五十二図同形最新の鯉釣漁船駒形丸なり、）と命名し、以て当業者の実験用に供したり。

かくて理想的に構造せられたる富士丸は、頗る好成績を挙げ、大いに人気に投じたり。其の故は、実際の経験上、先ず魚群を発見するに、便且つ速やかなること、並びに之と絶えず接触を保ちて航走し得るを以て、短時間に多大の収穫をなし得ること、時を移さずして新鮮なる漁獲物を市場に齊し、其の市価を騰貴せしめたる等、数多くの利益あるを以てなり。終に漁師はかかる新式漁船にあらざれば出漁するを肯ぜざるに至れり。

富士丸の挙げたる好成績は、全国当業者の覚醒を促し、その結果石油発動機を備えたる鯉漁船は、続々製造せられ、我が漁業界の面目は、之によりて全く一新せられたり。かくて富士丸は、現今（四十年末日の調査）に於いても、数十を以て算せられ、又近き将来に於いては、尚増加して、数百隻に達せんとする新式鯉漁船の先駆者たるの名誉を荷なえり。然れども、純然たる西洋形船は、之を製造するに、多少の経験を要すると、船体重に失し、海岸へ曳揚るに便ならざると、又従来の大和形漁船に比して、動揺し易き等の非難ありて、当業者は、和洋折衷形を歓迎するの傾向あり。」

富士丸の成功に啓発され、漁船の動力化を図った漁業者の動きの例として、静岡県御前崎の船主で市川造船所に駒形丸を始め数隻の漁船を発注している下村勝次郎について書かれた、

(36) 川原崎次郎：民間動力漁船建造の先駆者 下村勝次郎傳、下村茂、自費出版、平成 14 年 (2002)

が詳しい。

さらに p.668 での、「著名漁船重要事項表」には 9 隻の漁船要目が示されているが、その内、市川造船建造船は 3 隻を占める。（その他の大湊建造船はなし）

日東丸 獵虎漁船

勇丸 漁網兼延縄漁船

富士丸 鯉釣漁船

これらの記述により明治期の漁船の分野において大湊造船業に対する高い評価がなされたことが判る。さらに、この時代の造船資料が存続していることの重要性が改めて確認できる。

続いて、大湊造船業についても独立して記述されている。「第 3 編 帝国海商、第 3 章 船舶造修所、第 2 節 民設工場、第 7 項 伊勢大湊地方の造船所」として、以下のように記されている。

(p.817)

「大湊は宮川の河口にありて、天然の良港を成し、北には伊勢海を扣え、水利の便多し。而して宮川の流域には、造船用良材に富める大台ヶ原山、大杉谷等の森林有り。此の地はかかる形勝の地を占むるを以て、古来造船術発達し、今に至るも、尚我国有数の木船製造地たるを失わず。

大湊町古代の歴史は、之を知るに由なきも、既に鎌倉幕府の頃に、諸国廻船の支配をなししが如く。頼朝の命に依りて、軍船を造り、賞状を受けしことありて、今に至る迄、右府御朱印と称し、之を保存せりと云う。

降りて、天正年間、織田信長の為に、数隻の軍艦を造り、又秀吉の朝鮮を征せんとするや、志州鳥羽城主九鬼嘉隆に命じて、兵船数百隻を造らしめたるが、其の大部分は、大湊に於いて製造せられしと云う。以後徳川幕府も屢々此の地に軍船の調達を命じたることありあるが如し。

大湊に於いては、又盛んに商船を建造し、之に依りて、内外の航海を業とせしもの多し。松阪の人角屋七郎兵衛の如きは、数度安南に渡航したり。当時製造の船舶は、親船・台船等より伝馬船の小型に及び、千石以上の大船を製造せしことも亦少なからず。寛永庚午年、徳川家光が伊豆国伊東に於いて製造せし大船安宅丸の船匠内田三郎右衛門は、大湊の産にして、多く同地方の造船工を使役せしが如き。又以て大湊が、当時造船技術に於いて、全国に冠たりしを知るべし。

寛永十三年、幕府が大船建造を禁止してより、此の地も亦其の影響を受けたるも、内地沿岸航海用船舶の製造は、依然として衰えず、諸藩若しくは諸国よりの注文を受けて造船せしもの、其の数極めて多かりき。

嘉永以降、幕府が再び大船製造を奨励するに及んで、同地造船業は、其の面目を一新し、二千石内外の大船の新造を見るに至れり。明治維新に及びては、西洋形船の製造を開始し、明治十年、市川造船所（元禄十五年創立。）に於いて、**一百八十噸の西洋形帆船松阪丸を新造し**、二十一年、大湊造船所に於いて、汽船宇賀浦丸（総噸数二一五）の進水を見るに至れり。

爾来同地の造船業は、益々盛況に向かい、明治三十四年六月、同地方有志者は、株式会社大湊造船所を設立し、其他個人の経営に係る市川・松崎（萬治二年設立）、吉川（寶曆九年設立）、内田・西川等の諸造船所も、逐年其の規模を拡張し、小形汽船及び帆船の製造に従事し、殊に三十八年、**市川造船所が、静岡県水産試験場の為に、改良鯉釣船富士丸を製造してより、此の地に於いて、各種漁船の製せらるるもの頗る多く、一時改良漁船製造を独占せるが如きの觀ありき**。此の地職工賃金の低廉なると、木材の豊富なるとに依りて、船価の低廉なるは其の特徴とする所なり。然れども、此の地には、一鉄工所（二十九年創立の合名会社菊川鉄工場）あるのみにして、蒸気機関を製造すること能わざるを以て、汽船は、進水後大阪に回航して、機関を装備するを常とす。

三十二年四月、造船徒弟学校を設立して、造船職工に必要な学科を教授し、今や百有余名の卒業生を出し、同地造船業の改良進歩を助くるに至れり。之れ本邦に於ける唯一の造船徒弟学校なりとす。

此の地古來製釘を業となすもの多く、徳川時代に於いては、二百戸以上に達せしことありしも、近來洋釘の輸入盛なるに及んで、其の販路縮小せられ、現今之を業とするもの、僅かに三十余戸に過ぎずして、唯造船用釘及び錠等の製造に従事するのみなり。」

大湊造船業の歴史上の活躍および明治期以降の動静、洋釘の輸入による製釘業の衰退が記されている。松坂丸、富士丸については船名を上げて特記してあることは、これらの船の日本造船史上の重要性を示すものである。

大湊の造船における大きな成果である大湊造船徒弟学校についてもわざわざ1項を取って紹介されている。

(p.927)

「第4編 造船教育、第2章 普通教育、第2節 明治維新以降、第6項 大湊造船徒弟学校」  
において、

「同校は、造船地として、古来著名なる伊勢国大湊町に在りて、明治二十九年、同地造船所主  
等の協力を以て、設立せられたるものなり。初めは工業補習学校と称せしが、三十二年に至り、  
学校の組織稍稍変更せられしと共に、徒弟学校と改称せられたり。同校は、創立の当時より、国  
庫の補助を受けたり。是蓋し其の設立が、造船界を裨益すること、少からざるを認められたるに  
よるなり。同校は、義務教育を終わらしたるものを收容し、晝間は各造船所に於いて、年季奉公の  
勤に服せしめ、夜間は簡易なる造船学、及び普通学を授け、その修業年限を三ヶ年とす。三十九  
年に至るまで、卒業生の数は六十八名に達せり。此等は、多くは該地方の造船所に奉職し、其の  
発達を資すること少なからず。」

徒弟学校としては唯一の扱いであることから、同校の評価が高いことがうかがえる。

## 1. 2 日本近世造船史（大正時代）<sup>(2)</sup>における主な大湊関係記述

大正時代は日本の国力が大幅に増加し、造船分野においても欧米先進国と比肩する実力をつけ  
た時代である。先進的な艦艇、優秀な大型商船が多数建造されるようになり、それを建造する大  
型造船所が各所で建設された。その中で大湊造船業は主として地理的事情により大型化に十分対  
応できなかったため、建造量は増加したものの日本造船界における相対的な位置は低下した。中  
大型商船がほとんど鋼船となったため、木造船を主とする大湊の造船業は木船建造所の一つとし  
ての評価になっている。唯一、第一次世界大戦中に世界的に鉄が不足し、主な鉄供給国である米  
国が鉄輸出を停止した際に、大型木造として日本最大の 1400 総トンの貨物船を建造したことが  
特記されている。

伊勢大湊の造船業については、「第2編 帝国海商、第2章 造船業、第19節 伊勢大湊地方  
船舶造修所」として独立した節として示されている。

(p.332)

「伊勢大湊地方は夙に造船業発達し、既に鎌倉時代に軍船を造りたる記録有り。爾来引き続き  
本邦有数の木船建造地にして、材料豊富に、工事熟練なるを以て名あり。

世界大戦中船舶の急需其の極に達し、造船用鐵・鋼材の供給困難に陥りたる際本邦木船建造業  
者は米国に倣い大型木船の建造に力を盡くしたるが、大湊地方の造船業者も亦其の一なりき。

大正六年八月中の調査に依れば、大湊町及び之に接する神社町に於ける造船所十個所に於いて  
建造中及び建造計畫中の大型木船は、

建造中のもの	一四隻	五、五〇四噸
建造計畫中のもの	一〇	六、五〇〇
合計	二四	一二、〇〇四

にして何れも汽船（発動機船をも含む）又は機関付帆船なり。其の各造船所別は左表に示す如し。

伊勢大湊地方に於ける建造中及び建造計畫中の大型木船調（大正六年八月中調）

造船所名	所在	建造中	計畫中	合計
------	----	-----	-----	----

		隻数	総噸数	隻数	総噸数	隻数	総噸数
松本造船所	大湊町	1	200	-	-	1	200
山口造船所	〃	2	750	-	-	2	750
内田造船所	〃	2	400	1	200	3	600
大橋造船所	〃	1	990	4	4,900	5	5,890
吉川造船所	〃	1	234	1	200	2	434
合同造船所	〃	1	400	-	-	1	400
市川造船所	〃	3	1,050	-	-	3	1,050
松崎造船所	〃	2	580	2	600	4	1,180
森井造船所	〃	-	-	2	600	2	600
中井造船所	神社町	1	900	-	-	1	900
合計	10 箇所	14	5,504	10	6,500	24	12,004

右の中大橋造船所に於いて建造したる三菱商事會社の計畫総噸数千四百噸・六百四十馬力（池貝鐵工所製三百二十馬力二臺）の発動機船三隻の如きは近年本邦に於いて建造せられたる木船中最大のものなり。

大橋造船所は明治四十一年創業以来大湊に於ける有数の造船所として活躍し、世界大戦中には前記の如き大型木船を建造したるが其の後事業の不振其の他の事由に依り廃業するに至れり。

昭和二年末現在大湊町及び神社町に於ける主な造船所は左表に示す十二箇所なりとす。

名称	所在	設立年	所有者
松崎造船所	大湊町	萬治二年	松崎與治兵衛
市川造船所	〃	元禄十五年	市川仙太郎
吉川造船所	〃	宝曆九年	吉川重吉
内田造船所	〃	文政元年	内田文六
松本造船所	〃	嘉永元年	松本岩吉
山口造船所	〃	明治二〇年	山口忠吉
南平造船所	〃	明治四二年	南平安吉
強力造船所	〃	大正六年	強力善次
中井造船所	神社町	大正七年	中井甚吉
松本造船所	〃	大正八年	松本勝蔵
辰也造船所	〃	明治一〇年	森 楠平
濱島造船所	〃	明治四四年	井上四郎助

」

近代化が艦艇、商船より遅れた漁船の分野では、大正時代にあっても木造船の比率は高く、特に漁船動力化の嚆矢となった富士丸については、「第2編 帝国海商、第3章 造船術の進歩、第4節 漁船、第2項 推進動力の変遷」(p.435)において触れられている。

大湊造船徒弟学校については、造船関係教育機関が増加したにもかかわらず1節を設けて記述がなされている。「第3編 造船教育及び研究機関、第2章 普通教育、第4節 大湊町立造船徒弟学校」として、以下のように記されている。

(p.625)

「明治三十五年文部大臣の認可を受け大湊町立造船徒弟学校と改称せし以来、造船に関する職工に必要な教育をなすを目的とせり。

入学者の資格は尋常小学校卒業若しくは之と同等以上の学力ありと認めたる者にして修業年限は三カ年とし、実習の他は夜間授業なり。明治四十年より昭和二年迄の卒業生数造船科百十四名、機械科百二名にして、該地方の造船所に奉職せるもの大部分を含む。」

大湊造船業についてはその扱いが小さくなったとはいえ、日本造船界にあってまだそれなりの特記されるべき存在があったことが判る。

### 1. 3 昭和造船史<sup>(3)</sup>、<sup>(4)</sup>における主な大湊関係記述

昭和戦前期になると、船舶の大型化、技術進歩が著しくなり、木造船建造が主体であることから脱却できなかった大湊造船業の比重は小さくなり、漁船の分野でいくつかの船が示されるだけとなる。

当時、市川造船が得意としていた漁業関係官庁船について、「第1巻（戦前・戦時編）、第3部 漁船、第2編 漁船の技術的發展、第1章 各種漁船、2.1.6 漁業指導船・練習船・取締船」の「第15表 漁業指導船建造表（30総トン以上）」(p.414)では**58隻の指導船が列記されており、その内木船は16隻のみとなっている。その中で市川造船所が5隻を建造しているのは**、木造船建造の領域では競争力を維持していたことを示している。しかし、大勢は鋼船に向かっていたこともうかがえる。同じく「第17表 漁業取締船建造表（総トン数30トン以上）」(p.417)では、**40隻が列挙されているが、木造船は8隻のみである。内、市川造船所建造は2隻である。**

鉄鋼生産が不足した戦時期では再び木造船に国家を上げて注力することとなった。市川造船所が木造戦時標準船計画に早くから参画したことを示す各種書類が多数残されているが、このことは造船史（「第1巻（戦前・戦時編）、第2部 一般船舶、第1編 船舶、第6章 戦時の木船其他、1.6.1 木船」）では全く触れられていない。戦時体制下での木造船建造に関する新発見資料として今後の研究が待たれる。

戦時下は高度な木造船建造技術を保持していた大湊造船業の多くは、貨物船建造ではなく艦艇建造を担わされることとなった。**戦時下の急増木造艦艇として最も成功したと言われる駆潜特務艇（第1号型）は大湊で41隻建造（内、市川造船所は16隻）された。**この計画にも市川造船所は初期から参画し、海軍との間の多数の書類が残っている。この事実も造船史（「第1巻（戦前・戦時編）、第4部 艦艇、第3編 第二次世界大戦終結まで、第2章 水上艦艇、3.2.10.1 特務艇」）では駆潜特務艇については丁寧な解説があるものの全く記されていないが、これも戦時下の木造艦艇建造における軍と民の役割を知る上で今後の研究が待たれるものの一つである。

大湊造船徒弟学校の後身である三重県立大湊工業学校については、戦時体制に向けて多くの学校が創設されたため、「第1巻（戦前・戦時編）、第1部 総説、第4編 教育機関、研究機関および各種団体、第1章 教育機関（海軍関係を除く）、4.1.4.2 工業学校の造船科」の中で、9校の内の一つとして上げられているのみとなっている。

戦後期は漁船においても鋼船全盛の時代となり、「第2巻（戦後編）、第3部 漁船、第1編 漁船の動向、第3章 漁船建造と造船所、1.3.3 漁船建造の造船所」の40位までの漁船造船所別

建造ランキングにその名前が出てくるのみで、それ以外の特別な記述は無くなった。

鋼製漁船で大湊を含む三重県の造船所は次のようにランクされている。

(p.475)

第24表 鋼製漁船造船所別建造表 (長さ15m以上)

昭和25年～34年

18位 西井船渠 19隻 2,747トン

30位 内田造船 5隻 1,008トン

昭和35年～42年

14位 内田造船 79隻 16,699トン

23位 西井船渠 83隻 10,968トン

33位 強力造船 102隻 6,286トン

37位 市川造船 28隻 4,272トン

また、30位まで示された木造漁船造船所別ランキングでは

(p.476)

第25表 木造漁船造船所別建造表 (長さ15m以上)

昭和25年～34年

2位 強力造船 54隻 6,234トン

6位 西井船渠 50隻 4,272トン

9位 市川造船 37隻 3,639トン

この結果から、大湊では西井船渠および内田造船がいち早く鋼船建造へ転換し、市川造船、強力造船は昭和34年(1959)の伊勢湾台風の後によりやく木造船建造から本格的に鋼船建造に変換したことが判る。ただ両社とも建造トン数はそれほど変化しておらず、高度成長期の規模拡大の波に乗れなかったといえる。

戦後の新学制により、旧制の三重県立大湊工業学校は新制の三重県立宇治山田実業高等学校を経て三重県立伊勢工業高等学校となった。「第2巻(戦後編)、第5部 教育機関・研究機関および各種団体等、第1編 教育機関、第3章 工業高等学校、1.3.2 工業高校造船科の現状」において、当時造船科を持つ全国16校の工業高校の一つとして示されている。

明治、大正、昭和の日本造船史での大湊造船業の記述を追うと、ある意味見事までに大湊造船業の消長を見ることが出来る。日本の近代化が始まった明治期での地方造船地としての他所にまさる位置づけは、そこに残された旧市川造船所造船資料の産業文化史的重要性を適確に示しているものである。さらに、日本造船史で取り上げられている戦時期の全面的な国家統制下における木造艦艇、木造貨物船建造に関わる核心的な資料も残されており、今後の調査・研究が待たれるものである。

## 2 漁船関係文献での記述

軍艦、商船と並ぶ船舶のもう一つの柱である漁船についても何冊かの通史が刊行されている。

(9) 日本船用発動機史：日本漁船発動機史、社団法人日本船用発動機史、昭和34年(1959)

(10) 日本漁船史編集委員会編：日本漁船史、社団法人漁船協会、昭和 61 年(1986)

(11) 漁船機関技術協会：日本漁船機関技術史、社団法人漁船機関技術協会、平成 7 年(1995)

ここで(10)については戦後の記述に限定してあることと、造船所に関する項目は無いことから造船地としての大湊については何も触れられていない。わずかに第 3 編回顧録において伊藤茂が鰹釣漁船の動力化の記述において、富士丸について紹介がなされている。また、(11)においても造船地としても大湊に関する記述はないが、漁船の動力化の第 1 船が富士丸という記述がある。

(9) は我国での漁船発動機の揺籃時代からの発達を詳述した通史であり、富士丸を始めとする市川造船所建造の初期発動機付漁船についての記述が多い。ここではまず日本漁船発動機史での大湊造船業の記述を紹介する。

次に、戦後もかなり後まで漁船、小型商船では隻数で見れば木造船が圧倒的に多数であった。これらの木造船の多くは全国津々浦々に存在した中小の木造船造船所で建造された。ここで働く中心的な造船技師を全国的に組織的に指導・教育した組織が戦前から戦中にかけての大日本水産會主導の造船講習会（船匠講習会）であり、受講者数 5,000 名を超えていると言われていて、我国の木造船造船所の技術力の平均を大きく上げることに多大の寄与をした。造船講習会の中心的人物は橋本徳寿であり、本人も 25 年間にわたって全国を回って技術指導をしたが、その弟子、孫弟子がまた講師となり全国的な指導を行った。既に確固とした木造船建造技術を確立していた市川造船所を始めとする大湊造船業は橋本徳寿と密接な関係があり、講師派遣や技術情報の提供で支援を行っていた。橋本徳寿は多くの木造船に関する著作を執筆しており、そこでは大湊建造船についての記述も多いので、その一部を紹介する。

## 2. 1 日本漁船発動機史における大湊関係の記述

日本漁船発動機史(9)では、まず当時の水産庁長官奥原日出男による「序」において、富士丸について以下のように述べている。

「わが国では、明治 38 年遠洋漁業奨励法を改正し、その採用を図ったため、静岡県試験船富士丸補助機関に桑港ユニオン会社の四衝程発動機を据付けたのを嚆矢とする。」

とまず富士丸の位置づけを示した。さらに日本船用発動機協会会長稲生吉による「序」では富士丸に始まる漁船動力化を詳述したのが本書であるとして以下のように記している。

「懐うに本邦発動機付漁船の歴史は静岡県の富士丸を以て嚆矢とする。(中略) 本書は前述の通り明治 38 年富士丸の建造着手当時から最近に至るまでの漁船用発動機の発展普及の記録は勿論のこと、関係法規、規格、更には発動機製造工業の変遷に至る迄広範に渉り詳述している。」

本書では総論としての「第 1 章 漁船発動機の発達と漁業、1.1 明治時代における漁船発動機と漁業、1.1.3 漁船発動機の出現」において、まず富士丸について、

(p.4)

「我が国に初めて発動機が、漁船に採用されたのは、誰もが知っているように明治 39 年に建造された静岡県水産試験場の漁業試験船富士丸である。もっともこれより 10 年ほど前から我が国に石油発動機が輸入され、陸船用に、模倣製作が行われていたようであるが、漁船用として成功したのは、この富士丸の場合が最初である。なお、富士丸の機関は、米国製 4 サイクル低圧電気点



火式ユニオン型 18馬力で、もちろん補助機関としてであった。富士丸に発動機を据付けたことは、ひいては我が国漁業の発達に一大革命をもたらしたといっても過言ではなからう。」

と最大級の位置づけを与えている。

引き続き石油発動機の燃料代の高さへの解決策の一つとして「明治 42 年頃から 3 年間は全く、漁船発動機の混沌時代であった」時に彗星のごとく現れて消えた吸入ガス機関について、

(p.5)

「吸入ガス機関は、木炭またはコークスを使用するので燃料費はきわめて少なく木炭の産額を増し、山村救済にもなり一挙兩得であるとのことで、三重県の試験船三水丸を始め、三重、愛媛、鹿児島各県下の漁船に採用するもの続出し、またユニオン型を取り外してこれと据換えるもの、あるいは同じ 4 サイクル式電気点火機関であるからというので、ユニオン型を改造したもの等が三重県地方には多かったが、ガス中毒の恐れがあること、洗滌器の高さに制限があること、ガス発生炉の作業が困難であること、燃料の供給が円滑に行われないこと等の理由により、数年ならずして、漁船界から影を消してしまったのである。」

と、市川造船所建造の三水丸が嚆矢となった期待外れの吸入ガス機関について述べている。なお、旧市川造船所資料によれば、どうも三水丸の引き渡し時には石油発動機に換装されていたようであり、三重県水産試験場の記録でも吸入ガス機関で苦労したとの話は出てきていない。なお、戦時中から戦後期にかけて使用されたいわゆる木炭エンジンはこの吸入ガス機関の欠点を修正したものである。改良型はいくつかあったが、その一つが富士丸の計画に参加した浅川権八による浅川式機関である。

次に各論となる「第 2 章 各種機関の変遷、2.1 ユニオン型石油発動機」では富士丸の搭載時の事が第 2 章冒頭の記述として詳細に述べられていて、当時の様子が判明して興味深い。

(p.21)

「ユニオン型エンジンは、我が国発動機漁船の第 1 船として、明治 38 年に静岡県が遠洋漁業奨励法の補助を受けた水産試験船富士丸の主機として計画された。同船は明治 39 年三重県大湊の市川造船所で竣工した木造ケッチ型の総屯数 25 トンの鯉漁業の試験船で、進水はしたが発動機がどうしても動かないので、隅田川まで帆走で回航して来て、皆でいろいろ苦心している時、隅田川の一銭蒸気の成田機関士（後の深川成田鉄工所主）が来て、カムギヤーの取り付け方が誤っていることが判り、これを直して初めて運転が出来た。そして米国の本社に誰か技師を派遣してくれと発信しようとしたのを急いで取消し、危うく面目を保ったというようなエピソードがあった。其後清水港に回航し、40 年はそれぞれの試験に費やし、41 年になって初めて実用時代に入った。」

この完成した富士丸に対する漁業界の反応について、

(p.22)

「此の型（注：ユニオン型エンジン）は構造簡単で、明治 35 年以来大坂の巡航船に多数採用されてはいたが、漁船には初めて取入れた文明的設備で、全く画時代的なものであったので、全国漁業関係者の視聴を集め、発動機漁船を知らんとすれば先ず富士丸への標語のもとに続々と清水港に集まり、静岡県の水産当局者はこの応酬に暇がなかったが、来る人も迎える人も皆真剣であった。」

と、日本の漁業界を揺るがす存在であったことが判る。さらに石油発動機の船舶への搭載につい

ては大阪が先進地であり、大湊に有力な機関取扱が可能な鉄工所ができるまでは、進水後大阪に回航して機関搭載を行っていた理由を知ることができる。

富士丸の成功は日本漁船への発動機搭載を一挙に押し進めることとなったが、このためユニオン型を始めとする多種多様な輸入機関、それらの粗製乱造の国産模造機関が入り混じり、しばらくは混沌の期間があった。

市川造船所建造の福島県試験船奈古曾丸は英国製のグリフィン型石油発動機を搭載したが、不安定なため失敗して他の機関に換装したとの記録が「第2章 各種機関の変遷、2.3 グリフィン型石油発動機」に記されている。

発動機搭載により漁船の生産性は著しく向上はしたが、石油発動機の燃料に用いる灯油が高価で1馬力・時間あたり4~5銭かかったので、全体としては収益を改善しない問題が派生した。これに対する方策の一つが木炭を利用する吸入瓦斯発動機であり、1馬力・時間あたり僅か1銭6厘から1銭8厘で済むことが見込まれて、農商務省でも大いに期待をして支援することとなった。この官庁船への導入にも三重県および市川造船所が大きく関与した。このいきさつについて「第2章 各種機関の変遷、2.5 吸入瓦斯発動機」に細かく記載されている。

(p.26)

「官庁の試験船としては三重県水産試験場の三水丸が主機として25馬力のもを据付けた。三重県の山岳は直ちに海に接し木炭の産額が多量で、もし吸入ガスエンジンが成功すれば、独り漁業家を救うのみならず、山村救済にもなる。一挙兩得とはこの事だと、またその当時三重県下は全国中で最も発動機の質が悪く関西製の濫造ユニオンに悩んでいた時代であるから、時の水産試験場長和気熊太氏は最も力瘤を入れ、また業者もユニオン型が電気着火の4サイクルで吸入ガスも電気着火の4サイクルで似たところがあるから、改造もちろん可能なりと、まるで法律家の三段論法の調子で取り掛かった。」

とし官民一体で取り組んだ様子がうかがえる。しかし、引き続きその成果については、

「(前略) 漁船動力としての吸入ガス機関もついに失敗に終わった。その理由とするところは次のようなものであって、実は最初から駄目なものであったのであるが、石油発動機が余りだらしなかったために、一つの反動に過ぎなかったのである。」

と酷評している。そして駄目な理由について4項目を1ページ以上述べているが、ここでは省略する。

市川造船所資料では、吸入瓦斯発動機のメーカーが大阪の発動機製造株(後の大阪発動機、現時のダイハツ)であること、建造中に明石市木下鉄工所に石油発動機を発注し、引き渡しまでに搭載したらしい記録が残っており、三重県水産試験場および市川造船所では早急に吸入瓦斯発動機の将来性に見切りをつけたことが判る。

より安価な軽油、重油を燃料とできる発動機として、石油発動機に続いて焼玉機関が出現した。その初期の主要機種はスウェーデンのボリンダー型注水式石油発動機であり、国産化したものを中心に普及が進んだ。続いて、燃料と共に清水を必要とする注水式の不便さを解消するために無水式石油発動機が出現し、改良を加えられながら戦後まで幅広く使用された。

これら初期の明治39年から42年にかけての発動機搭載船についての一覧が、「第3章 法規・規則、3.1 法規、3.1.1 遠洋漁業奨励法と遠洋漁船検査規定」の「表3.4 初期の発動機付漁船奨

励金交付明細表」にまとめられている。ここに示された 56 隻の漁船の内、11 隻が市川造船所、2 隻が内田造船所、1 隻が大橋造船建造であり、市川造船所の競争力の高さが秀でてい

大正年間になるといよいよ船舶発動機の本命であるディーゼル発動機が日本にも導入される。国産の漁船用ディーゼル機関は新潟鉄工所によって開発され、大正 9 年に静岡県の漁船 2 隻に搭載されたのを最初とする。これらの船の優れた実績を見た官庁も、自らの官庁船に本格的にディーゼル機関を導入した。「第 2 章 各種機関の変遷、2.9 ディーゼル式発動機、2.9.3 官庁船のディーゼル化」において採用船が列挙されている。

(p.82)

「(前略) 大正 9 年から翌 10 年にかけては、官庁船のディーゼル化が活発に行われた。(中略) 当時陸軍省の所属で、農商務省のラッコ、オットセイの監視船であった金鷄丸以下 5 隻、三重県水産試験場の五十鈴丸、島根県水産試験場の開洋丸および岩手丸等が、この期間に相次いで建造され、何れもディーゼル機関を据付けた。」

この内、開洋丸以外の船はいずれも市川造船建造であり、新規技術の導入に積極的に取り組み、実績をあげていたこと。

## 2. 2 橋本徳寿著作における大湊関係の記述

日本での木造船建造に大きな役割をはたした人物の一人が橋本徳寿である。同人は造船技師の傍らアララギ派の歌人として活躍し、現代歌人協会創立時より理事、昭和 41、42 年宮内庁御歌会始選者を務めた。歌集に「船大工」から「黒」まで 11 冊がある (20 世紀日本人名事典より)。

明治 27 年	横浜市生まれ、千葉県習志野で育つ
大正 2 年	工学院造船科卒
大正 2 年	農商務省水産講習所
大正 6 年	社団法人大日本水産會。造船講習会講師。25 年間に講習会数約 160 回、終了生約 4500 名、その間多数の木造船設計・建造を行う。
昭和 17 年	軍属 (佐官待遇) としてマレー等の南方地域で南方木材資源を利用した木造船建造を主導。往路では乗船が撃沈され、終戦後 2 年間俘虜生活の経験をする。
昭和 23 年	木造船協議会 この間、多数の木造船に関する専門書を執筆
平成 1 年	没

木造船に関する橋本徳寿の著作の中で木造船建造のバイブルといえるほど影響力があったのは、造船講習会での指導内容をまとめた「木造船と其の艤装」である。昭和 10 年に初版が出され、戦後も出版社を変えて版を重ねた。

(13) 橋本徳寿：木造船と其の艤装 (初版)、漁船協会、昭和 15 年(1940)、515p

本書には木造船設計・建造に関して必要な事項が網羅されており、その後書かれたより現場作業に近い内容を詳説した、

(14) 橋本徳寿：木船原図法、海文堂、昭和 29 年(1954)

と併せれば、船大工の技量がありさらに木材が入手できれば今日でも木造船建造は可能と思われる

る程の内容である。

(13)の巻尾には折込図面として3隻の木造船が示されているが、3隻の内2隻(瑞祥丸、大分丸)は市川造船所建造船である。

戦後、鋼船が主流になりつつあるときに木造船の記録として様々な木造船の図面を集大成した本を執筆した。

(15) 橋本徳寿編：日本木船図集、海文堂、昭和31年(1956)

本書の中では大湊建造船が多数掲載されている。

- ・市川造船所建造：日東丸、鳥海、小鷹丸、嘉汐丸、瑞祥丸、桂丸、夕汐丸、第八鹿島丸、若竹丸、玄海丸、南水丸
- ・強力造船建造船：第三事代丸、豊水丸、洋光丸
- ・大湊造船建造船：第一駒形丸
- ・西井船渠建造船：だいせん

これほど多数の建造船が掲載されているのは大湊だけであり、さらにその中でも市川造船所建造船が大半を占めている。これは橋本徳寿および大日本水産會、漁船協會と市川造船所の深いつながりを示すものである。造船資料にも橋本徳寿との通信記録が残されており、その中には日本木船図集への図面提供を依頼するものがある。

技術的内容を記述した専門書とは別に、橋本徳寿は上古の建国神話時代から戦後に至る我国の木造船に関する博覧強記を余すことなく記した大著を執筆した。

(12) 橋本徳寿：日本木造船史話、長谷川書房、昭和27年(1952)、510p

当時としては破格の1,200円という定価がついている。当時の刊行部数は不明であるが、現在ではその資料価値から大変高価で古書市場で取引されている。

大湊に関する記述が本書に現れるのは、「第3章 近代史、第87節 豊臣秀吉と朝鮮役」の日本丸についてであり、根拠、出典は不明であるがかなり細かな描写がされている。少し長いが引用しておく。

(p.74)

「日本丸は鳥羽城主九鬼嘉隆が秀吉の命をうけて造った船で全長百一尺五寸、全幅三十九尺、外板は三枚棚で鎧張式であった。これは動揺を止めるのに役に立つ。帆は極く小さく、ほんの補助で百挺の櫓を主動力とした。これは風の如何にかかはらず進退運航のためであろう。多くの櫓を有効ならしめるために舷には強いシーアをもたせた。これが美観をも添えた。大砲を三門備え、砲塔兼司令塔兼艦橋に相当する高樓(上の間)もあった。本船は約千五百石積で、乗員は指揮官以下百八十名で上甲板が上級者の、下甲板が水手(カコ)等の居室であった。下甲板の船尾部は炊事室と浴室にあてられた。秀吉がこの船で能を催した時、十八畳敷の座敷が三室あって、狭隘を感じなかったといふから、上甲板室の広さも想像ができる。」

市川造船では昭和初期に海軍省の注文で日本丸模型を製作しており、その図面も残されている。上記記述との相違を調査すれば、新たな知見を得られるかも知れない。

「第3章 近代史、第92節 伊勢、志摩の造船と海運」という記述では簡単に九鬼等の諸族が示されているが、造船については記述がない。

「第6章 現代史、第160節 木造船の発達した地方、大阪、伊勢、木の江」では「伊勢大湊

地方」として大湊の歴史が示され、

(p.193)

「明治十年、西暦一八七七年には市川造船所（元禄十五年西暦一七〇二年創立）で百八十噸の西洋型帆船松坂丸を建造し、二十一年西暦一八八八年には大湊造船所で二百十五噸の汽船宇賀浦丸が建造された。この地方は昔から木造船用の釘の製造地として知られている。木材が豊富で船匠の工賃が割合に低く、それらがこの地方の木造船業を発達させて来たのである。」

と松坂丸建造を特記している。

そして「第6章 現代史、第163節 木造漁船の発達過程」では、富士丸についてその建造と影響を記している。

(p.199)

「時恰も、明治三十六年西暦一九〇三年大阪に開かれた、第五回内国勲業博覧会に仏国、米国から船用石油発動機が出品された。漁業家の注意がこれに集まった。明治三十八年西暦一九〇五年静岡県水産試験場は、農商務省の設計した純然たる西洋型漁船を造った。二十五噸のケッチ型帆装の木造船で、大湊の市川造船所で建造した。この船にユニオン式十八馬力の石油発動機を据えつけた。船は富士丸と命名された。富士丸は初めは発動機がまわらず、石川島まで帆走で来て、当時の学者、寺野精一、浅川権八などが総かかりで調査したが、なかなか動き出さなかったという挿話もあるが、その後の成績は非常によかった。全国の漁業家は、眼の前の生きた実績によって全く覚醒され、続々と石油発動機を据付けた西洋型漁船が建造されることになった。」

第6章では他にも、「第167節 流網漁船」で勇丸、「第171節 漁獲物処理運搬船」で瑞祥丸、「第174節 米国式巾着網漁船」で第8鹿島丸といった市川造船建造船が紹介されている。

「第175節 漁業指導、監視、調査、試験、練習船」は、市川造船が最も得意とした官庁船の分野である。p.210 から p.216 に渡って木造漁業指導船 110 隻の一覧が示されているが、実にその内 24 隻が市川造船建造船であり、この分野での圧倒的な強さを示している。

市川造船の人についても「第187節 木造漁船界の人々」において、市川仙太郎が寺野精一ら我国造船界の錚々たる人々と並んで記されている。

「第188節 南極探検船開南丸」においては、日本最初の南極観測である白瀬中尉が乗船した開南丸について述べており、同船の前身である報効義会が市川造船で建造した第二報効丸について以下のように丁寧に解説している。

(p.241)

「さてこの偉功をたてた開南丸は報効義会が千島探検並に鱈釣漁船として大湊の市川造船所で建造した第二報効丸を買って改名したもので、買った後に大阪頼田鉄工所の公称馬力十八馬力の蒸気機関を補助機関として据付けた木造三檣ホアエンドアフト・スクーナー帆船であった。垂線間長百呎、幅二十五呎九吋、深十二呎九吋、総噸数二百四噸、登録噸数百五十噸で、龍骨、内龍骨、肋骨、舷側厚板が櫂。側内龍骨、湾曲部縦通材、梁が松。龍骨翼板、外部腰板、外板（厚三吋）が檜で、しっかりした造りであった。」

と船体の堅牢さを正確に述べている。

本書は戦時中の木造船建造について、筆者が大きく関与していたこともあり大変詳細な記述（第7章 太平洋戦争中の木造船界。p.290-359）があり、その意味でも資料的価値が高い。戦時標準

船の計画に関しては早期から市川造船所が関与した資料が大量に残っているが、本書ではそれについては全く触れられていない。資料の精査により戦中の木造船に関する発見<sup>(4)</sup>がなされた。

「第8章 終戦後の木造船事情」では、現在ほとんど忘れられてしまった戦後すぐのソ連向け曳船、舢総計 395 隻の輸出について書かれている。これにも大湊の造船所も参加しているが、全国の造船所で分担したためそれほどの隻数ではない。

「現在日本には約一千余の木船造船所があるが、その幹部連中は殆どこの講習会の出身者であるか、或いはその子弟だといっても過言ではない。」(p.197)と自負しているように、日本の木造船界において中心的な役割を果たした橋本徳寿の著作によっても、市川造船所の日本の木造船の歴史における評価の高さが裏付けられる。日本で約一千余もあったとされる木造船造船所がほとんど消滅してしまった現在、木造船造船で中心的な位置づけであった市川造船所の造船資料が残っていることはある意味ひとつの奇跡と言ってよいのではと思う。

### 3 その他の文献による伊勢大湊造船業の記述

上記以外の文献にも伊勢大湊での建造船が記述されている。その内の主なものを記す。

#### 3. 1 船舶百年史<sup>(26)</sup>での大湊建造船

主として造船行政の側から日本造船業に関わり、船舶に関する多数の著作を残した上野喜一郎(東京帝国大学工学部船舶工学科昭和6年卒。逓信省管船局入省。東京高等商船学校教授兼任。戦後は運輸技官。)が、日本の明治以降の造船の歴史を写真中心で記述したのが船舶百年史である。

(26) 上野喜一郎 編：船舶百年史(前篇および後篇)、船舶百年史刊行会、昭和33年(1958)

特定の船に偏らず、大変幅広く貴重な写真を掲載していることから、資料的価値が高く 2005年に成山堂書店より復刻版が刊行されている。

本書に記述された大湊建造船を列举する。

(前篇)

・大湊大橋造船所で建造中の木船(p.79)

・「(10) 漁船」では市川造船所が建造した初期の漁業指導船珍彦丸、豊国丸、富士丸が紹介されている。

(p.91)

「(前略) 明治37年に伊勢の大湊の市川造船所において建造された大分県水産試験場の指導船珍彦丸により、更に翌年に建造された豊国丸によりケッチ型帆装が紹介されて以来、その利益が認められ、次第に多く採用されるようになった。また珍彦丸は遠洋漁業指導船として最初のものであるといわれている。」

と日本最初の遠洋漁業指導船を建造したのが市川造船所であるとしている。

同じく富士丸については、

「明治39年市川造船所で建造された静岡県漁業指導船富士丸はケッチ型帆船であるが、補助機関として石油発動機を備えていた。これは漁船として最初の発動機船であり、且つ餌料用生洲を備えた最初であった。」

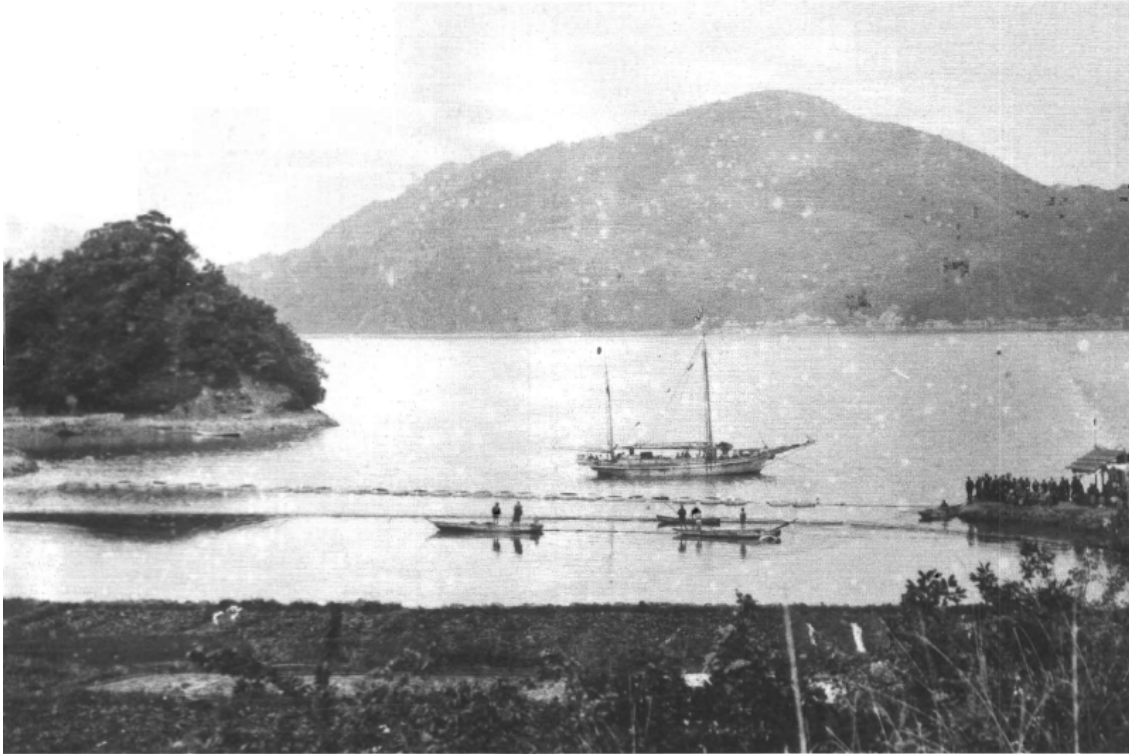
と記している。

- ・「捕鯨船」(p.92)では、バーク型帆船のアメリカ式捕鯨船として市川造船所建造の長保丸が示されている。
  - ・「トロール船」(p.93)では、市川造船所建造の海光丸が本邦最初の板打瀬網漁船として紹介されている。
  - ・「海獣猟船」(p.95)では、唯一市川造船所建造の日東丸が示されている。
  - ・「(7) 機帆船」(p.151-153)では、強力造船所建造の100 総屯型機帆船第五神光丸、200 総屯型機帆船第六恭海丸が機帆船の代表例として示され、さらに市川造船建造のぬし丸が「パラオを根拠地として南洋島各港間に就航した」と紹介されている。
  - ・「真珠貝採取船」(p.192)では、共に市川造船所建造の南進丸、皇国丸が紹介されている。後者は第二次世界大戦開戦の日に撃沈された日本の被撃沈船第1 船として知られている。
  - ・「漁業指導船」(p.193)では静岡県の富士丸(二世)が示されている。
  - ・「運搬漁船」(p.196)では市川造船所建造の瑞雲丸が紹介されている。
- (後篇) (戦後期)
- ・「鯉鮪漁船」(p.182)では、強力造船所建造の第七事代丸、市川造船所建造の第七福長丸が示されている。
  - ・「米国式巾着網漁船」(p.184-185)では強力造船所建造のはわい丸が示されている。示されている5 隻の中で唯一の木造船である。
  - ・「真珠貝採取船」(p.185)では大福丸が示されている。
  - ・「漁業練習船」(p.197-200)では市川造船所建造の千葉県練習船千潮丸が紹介されている。
- 船舶百年史に掲載された大湊建造船はいずれも木造船であり、鋼船で造船史に残るような船を建造できなかったことはいささか寂しい感がある。

### 3. 2 週刊新潮に掲載された富士丸記事<sup>(38)</sup>

船とは余り縁がないように思われる週刊誌に富士丸の記事が掲載されたことがある。内容は正確であり、発動機付漁船の嚆矢である富士丸の位置づけが認識できる。

## 昭和天皇が皇太子時代にご乗船「初の石油発動機付漁船」



一見、何の変哲もない昔の漁船に見えるけれど、実はこの船、なかなか由緒のある船なのだ。日本初の石油発動機付漁船といわれている静岡県水産試験場の試験船・富士丸である。長さ17メートル、幅3.8メートル、25トン、エンジンはアメリカ製で、明治39年に三重県の市川造船所で建造された。

ところでこの船、日の丸をつけている。そして写真右手の陸地には人の一群が見える。この船には皇太子時代の昭和天皇がご乗船されていたというのだ。大正4年3月21日、91年前のちょうど今頃である。この日は沼津の御用邸に滞在し、避寒中だった当時の東宮殿下が、静岡県伊豆にあった海老養殖場や真珠栽培場を視察されたと当時の新聞にある。

「漁船機関士協会五十年史」ほかによると、富士丸以前に静岡県の丸尾文七氏が動力付漁船を建造した例などがあるが、沖へ出るとエンジンが止まったり、操業成績を十分に上げられなかったという。それで富士丸が第一号とされているようだ。写真提供・山本三朗



「昭和天皇が皇太子時代にご乗船『初の石油発動機付漁船』」というタイトルで、週刊新潮 平成18年(2006)3月30日号に掲載された。

「一見、何の変哲もない昔の漁船に見えるけれど、実はこの船、なかなか由緒のある船なのだ。日本初の石油発動機付漁船といわれている静岡県水産試験場の試験船・富士丸である。長さ17メートル、幅3.8メートル、25トン、エンジンはアメリカ製で、明治39年に三重県の市川造船所で建造された。

ところでこの船、日の丸をつけている。そして写真右手の陸地には人の一群が見える。この船には皇太子時代の昭和天皇がご乗船されていたというのだ。大正4年3月21日、91年前のちょうど今頃である。この日は沼津の御用邸に滞在し、避寒中だった当時の東宮殿下が、静岡県伊豆にあった海老養殖場や真珠栽培場を視察されたと当時の新聞にある。

「漁船機関士協会五十年史」ほかによると、富士丸以前に静岡県の丸尾文七氏が動力付漁船を建造した例などがあるが、沖へ出るとエンジンが止まったり、操業成績を十分に上げられなかつ



たという。それで富士丸が第一号とされているようだ。 写真提供・山本三朗

文献による市川造船所および大湊造船業の評価については、すべての文献を網羅することは当然不可能であるが、調査した範囲にあっても、木造船建造の分野においては他の造船地にない大きな位置づけであったと結論付けられる。特に「初めての」と記される建造船が多くあることは、当時の市川造船所経営者の進取の気性に富んだ積極性と、それを可能とした現場のワークマンシップの高さを如実に物語っている。これら外から見た評価に対し、残された内からの資料である市川造船所造船資料を保存し、調査を進めることは、日本造船史においても重要なことであると考える。

文中敬称略

## 代表的な図面例

元の図面は大判であり、かつ経年変化で劣化しているものが多い。縮小された印刷では見えにくいものは画像処理により白黒化したものを掲載している。

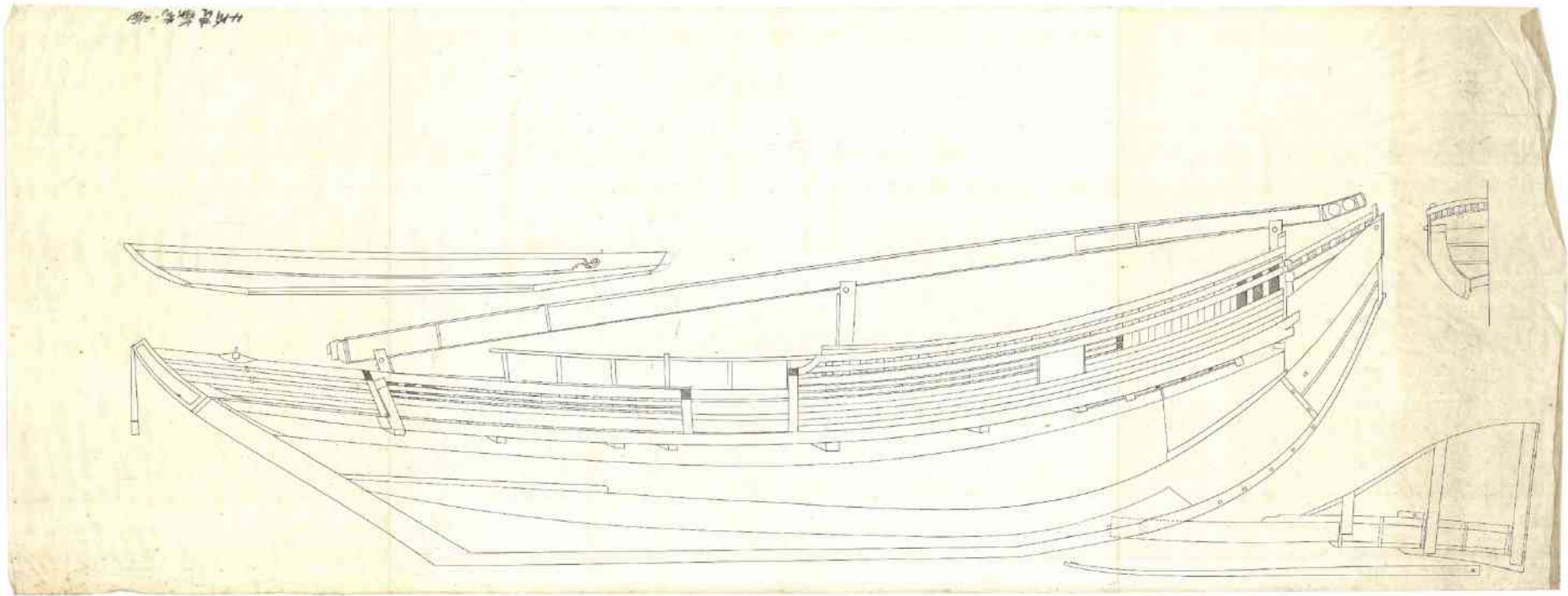


図1 千石船側面図（外2-011）

トレーシングペーパーに描かれており、外2-011は全体図であり「千石船横形ノ図面」との毛筆での記入が裏側にある。外2-009は船首側、外2-010は船尾側をそれぞれやや詳細に描いていて、水押、航、戸立の船底材については木割を示している。典型的な弁財船の千石船であるが、外2-009で水押が2部材で構成される内水押、外水押になっていることから、19世紀以降の弁財船であると推定される。市川造船資料には和船の板図がいくつか残されていることから、和船の建造図面は建造現場が慣れ親しんだ江戸期からの板図を使用していたと推定される。本図は何かの資料としてか、あるいは船主からの依頼によって別途描かれたものではないかと思われる。

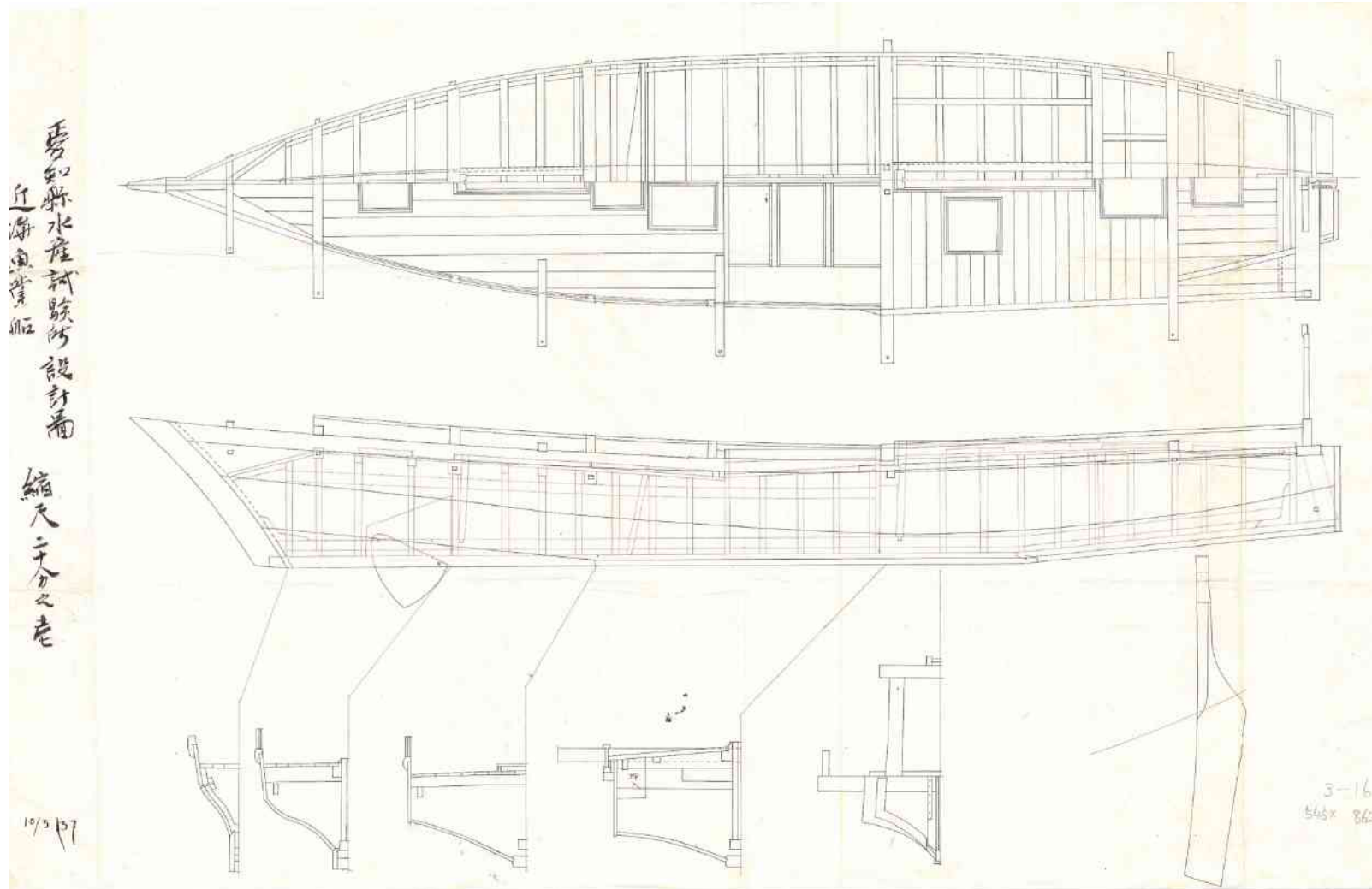


図2 愛知県水産試験所近海漁業船構造図（棚 3-016）

船型・配置はヤンノー船の影響を強く受けたものであるが、船首フレームラインに愛知県型打瀬舟に似た所を持つ。近海での鯉鮪漁を念頭においたものと思われる。図にはセールプランは描かれていないが、2本のマストを持ち、檣台も併せ持つ。特徴は船首部に小型の引き上げ式のセンターボードを持つことであり、深い舵の効果を併せて風上への帆走性能の向上を図っている。明治20年ごろを中心に、打瀬舟にセンターボードの導入が図られた時期があったようであるが、比較的短期間でセンターボードなしに戻っている。この間のはっきりした事情は不明である。

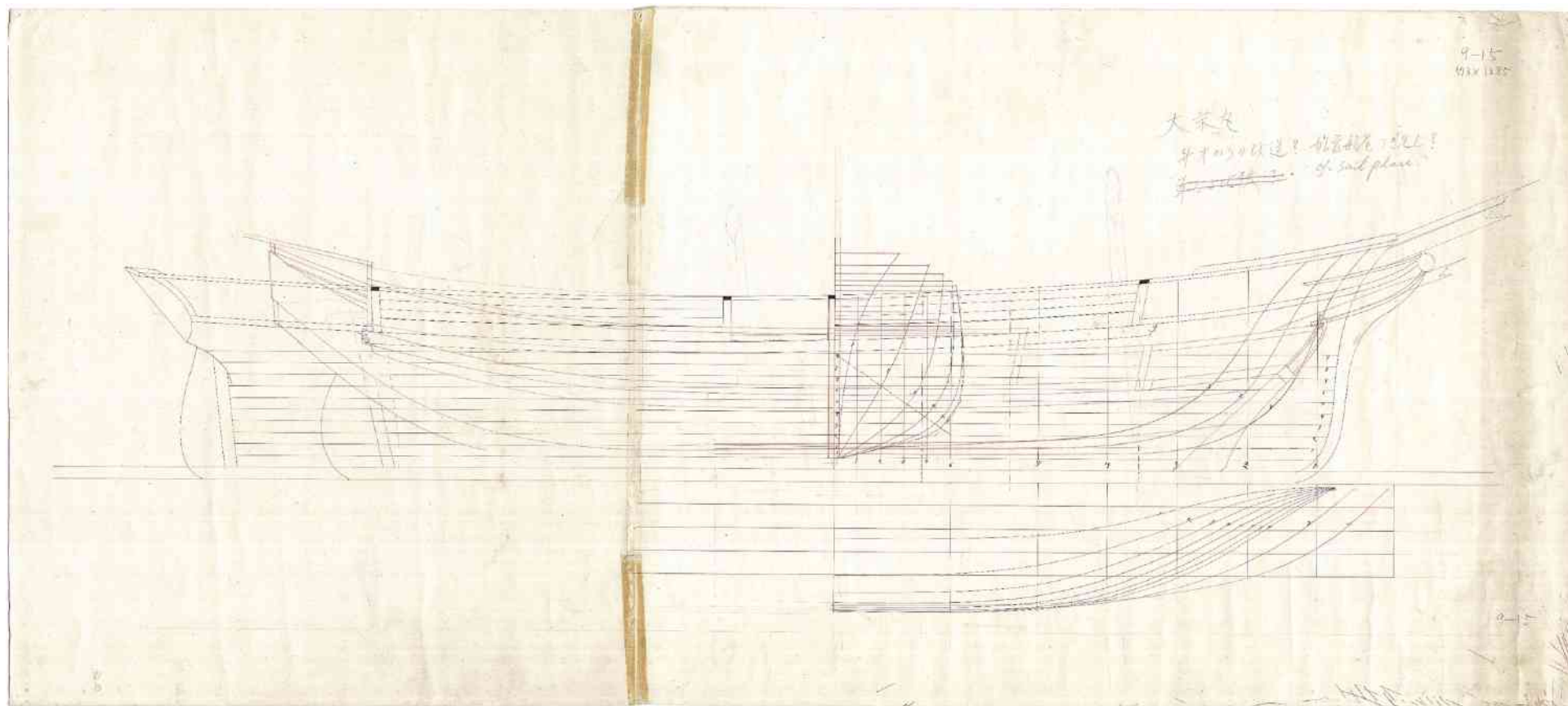


図3 大栄丸改造前後の比較線図（棚 9-015）

「大栄丸」と記された図面には、原型となった弁才船とモデルシップとしたらしい洋式船型の線図の比較が示されたもの（図3、棚9-015）と、改造後の2本マストスクーナーとなった装帆図（図4、棚9-001）が残っている。典型的な第三世代あいこの船であり、一見したところでは洋式船そのものであるが、セールプランでの船尾を見ると弁才船の特徴が残されている。

両図から推定すると、船尾は元の弁才船船型の乾舷を増し、船首部は新規に建造したように見受けられるが、角型の弁才船型と丸型の西洋型船型をどのように結合したかは不明である。明治期から昭和期にかけての内航海運をになったあいこの船の図面は少ないことから、これらの資料は大変貴重である。

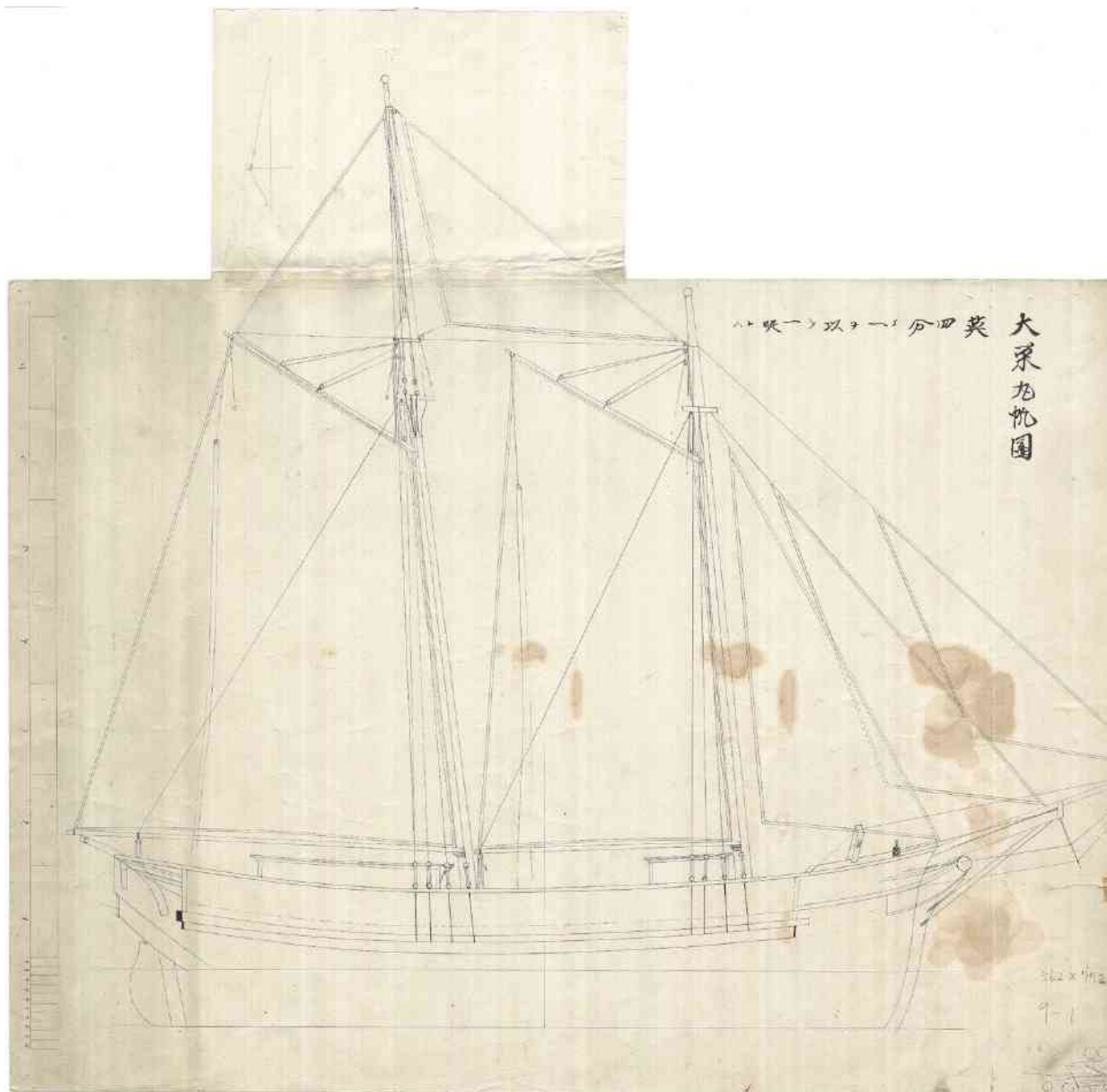


図4 大栄丸改造後のセールプラン (棚 9-001)

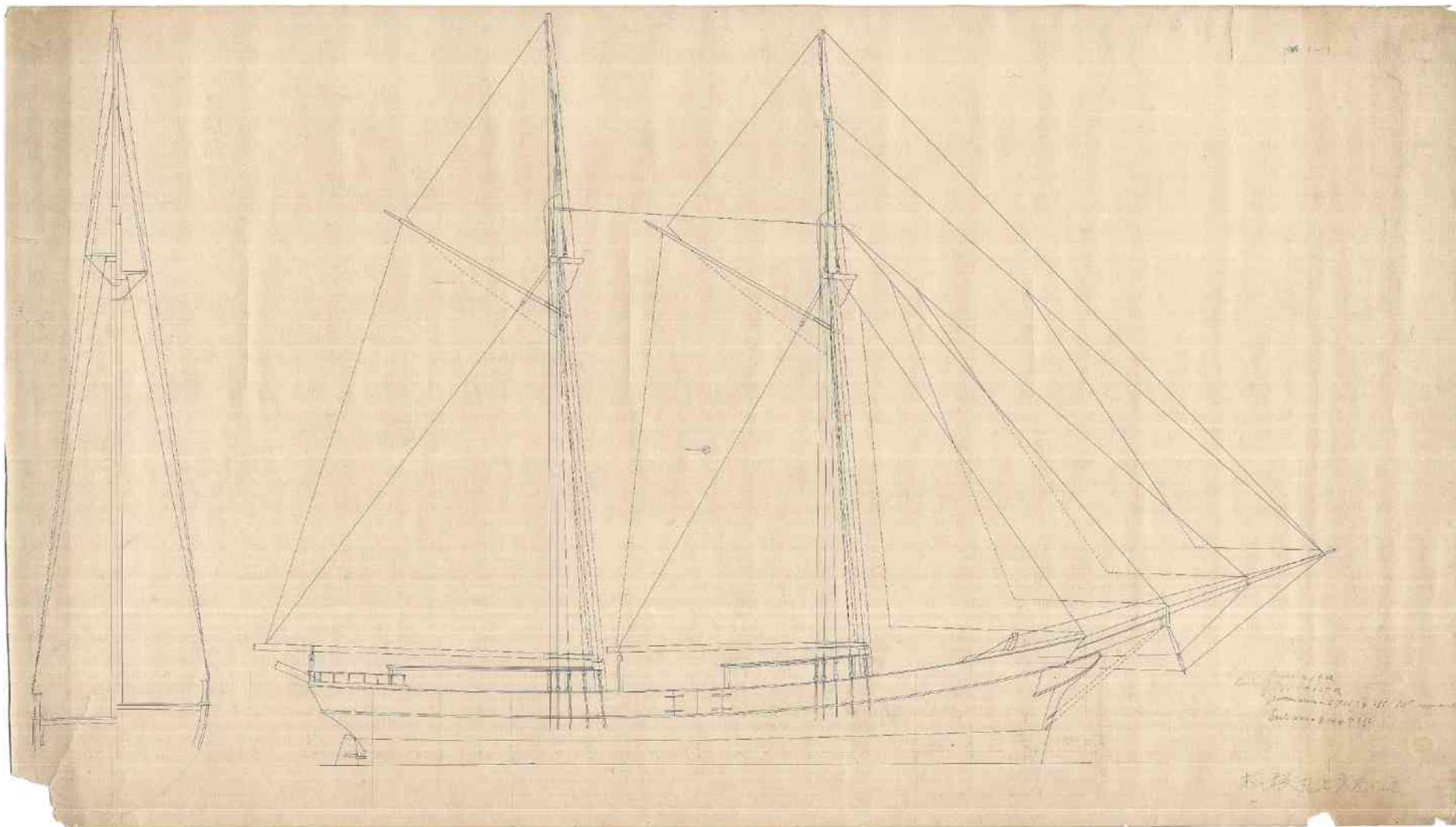


図5 松坂丸セールプラン（棚 1-001）

明治10年起工、明治11年竣工の日本初の国産洋式帆走貨物船の1隻<sup>(1)</sup>とされている松坂丸（長さ97.9ft、幅20.5ft、深さ11.9ft、噸数190.52、船舶番号23）については、唯一セールプランのみが残っている。裏面の記述、主要目から同船のものとしてほぼ間違いは無いが、この図面が新造時に作成されたものか、後日作成されたものかは不明である。図面で見ると典型的な2本マストスクーナーであり、良好な帆走性能を持っていたと推定される。当時の新聞記事<sup>(25)</sup>では、船主、荷主は和船には不満があったこと、当時の大湊では洋式船の設計建造能力が無かったこと、洋式帆船に社会の大きな注目が集まったことが報じられている。

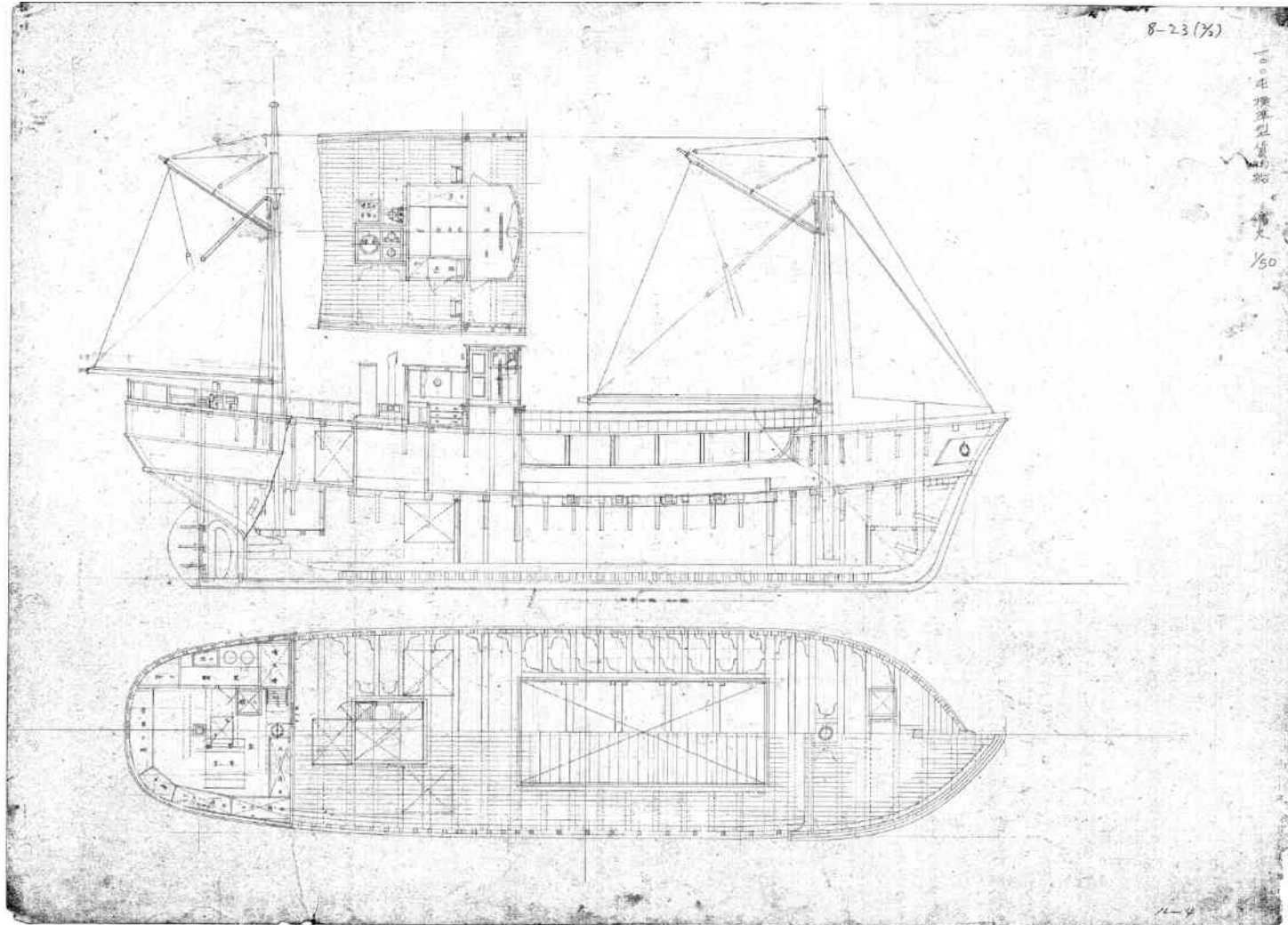


図6 100トン型第2回設計一般配置図(昭和16年4月)(棚8-023-2)(白黒化画像処理)

昭和の戦争の時代になると市川造船所も国策に沿っての船作りが強いられることになった。戦争中の木造機帆船としては昭和17年(1942)8月に建造命令が下された70, 100, 150, 200, 250, 300トンの(戦時)標準船があるが、市川造船所は開戦前の昭和15年(1940)ごろから標準貨物船としてこれらの検討を行っていた図面が残されており、かなり早い時期から官庁側と連携して標準船の設計を進めていた<sup>(41)</sup>。この時点での設計は工作の簡易化はそれほどでもなく、松材の使用を増やす等の材料の低廉化と載荷能力の向上を目指した設計である。



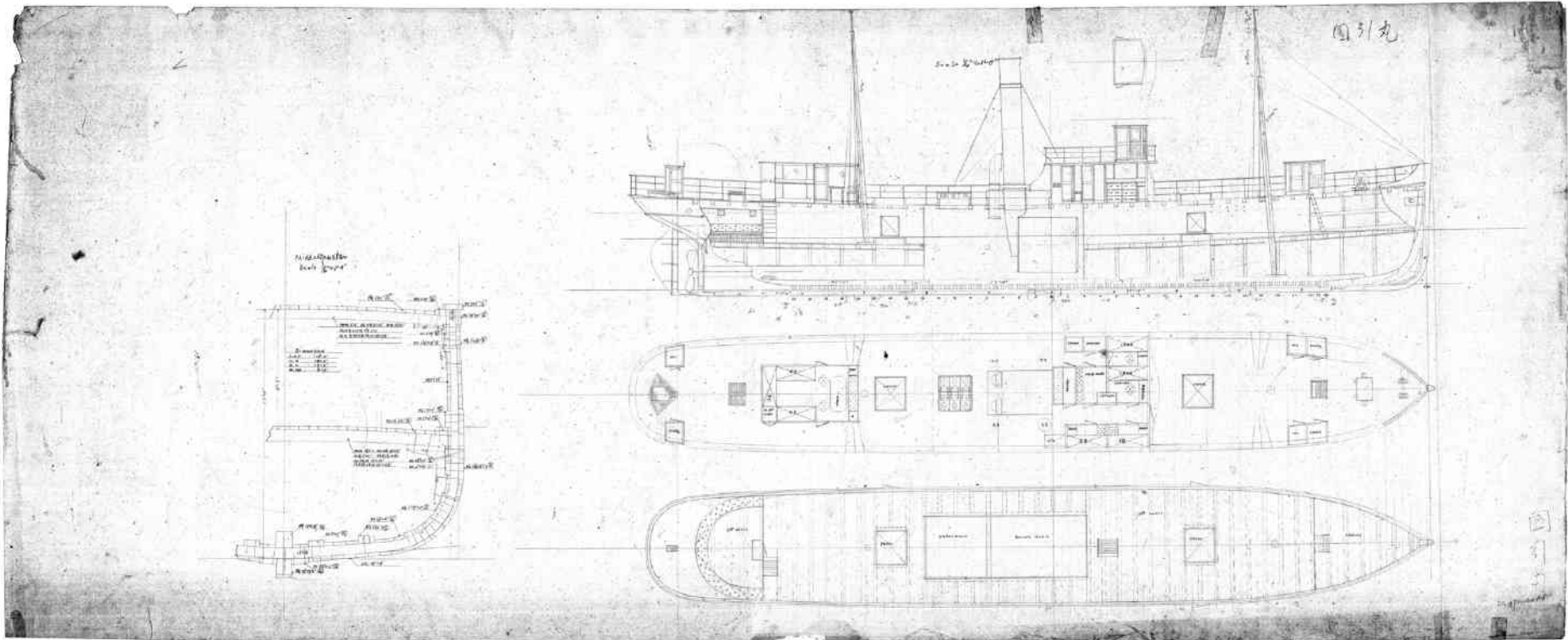


図7 国引丸一般配置図および船体中央横断面図（外 1-002-2）（白黒化画像処理）

明治44年7月建造の貨客船で、総トン数199トン、登録長さ119.9呎、幅17.1呎、深さ11.4呎で、三連式蒸気機関を有する。船主は函館の三場所汽船である。図7に示す一般配置図によれば、船首に下級船員、中央部に高級船員、船尾部に旅客の居住区を持つ。船客は一、二等があったようである。旅客設備からはそれほど長い航海時間では無かったらしいことが、食堂が無いこと、二等船室にはベッドが無いことからうかがえる。構造は市川造船所らしい頑丈な構造であることが中央横断面図から見て取れる。線図（外 1-002-1）には複数の船型が描かれており、丁寧な船型検討がなされている。いずれも明治期の洋式木造汽船の詳細が判る貴重な図面である。

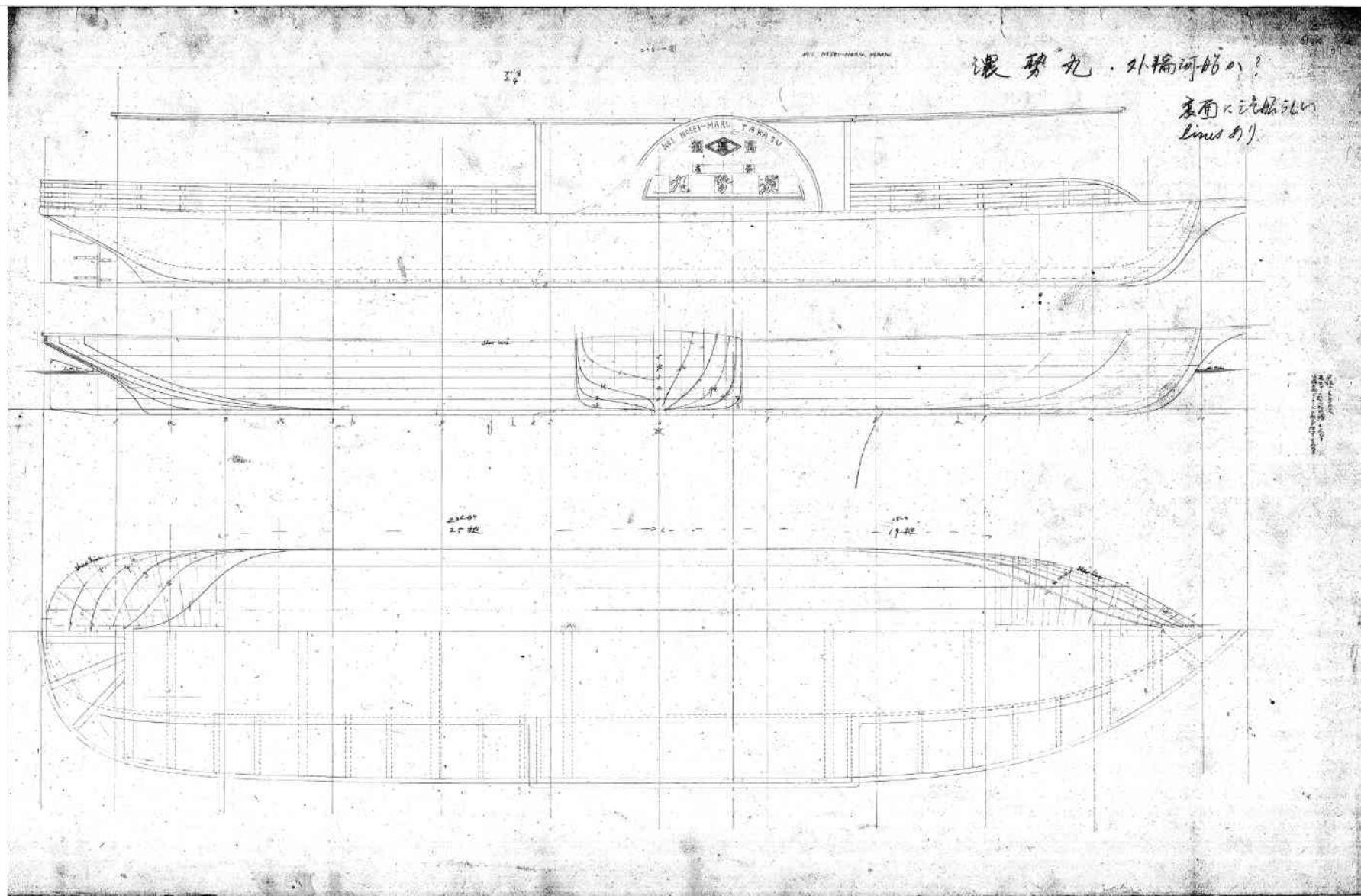


図8 第一濃勢丸線図(柵 8-010-1)(作画部分のみ抽出。白黒化画像処理)



図9 第三および第四濃勢丸（市川資料）

三重県桑名市と岐阜県大垣市を揖斐川で結ぶ水運は江戸時代から盛んであり、明治16年(1883)には既に蒸気船による定期航路が開設されていた。ここに明治42年(1909)に濃勢汽船会社が設立され定期航路に参入した。濃勢丸はそれに用いた日本では珍しい外輪船の客船（長さ45呎×幅7呎8吋、石油発動機）である。明治42年に第一および第二濃勢丸が、明治43年(1910)に第三、第四濃勢丸が竣工している。

図8に線図(棚8-010-1)を示すが、米国河川に多い幅広の外輪船とは異なり、欧州の狭い運河での航行を行う幅が狭い形式である。外輪を用いたのは当時の揖斐川が水深の浅い所があり、喫水が深くなるプロペラ船が使えなかったためと思われる。図9に大垣市船町で撮影されたとされる第三および第四濃勢丸の写真を示す。甲板の幅が水線の幅より広く初期復原力が弱いためか、写真では少しの人間が右舷に寄っただけで大きく横傾斜している。外輪は旅客にしぶきがかかるのを嫌いハウジングで覆われている。

本船の全体構想は、明治初期にいち早く河川水運の汽船化を成し遂げ、日本中の河川水運に大きな影響を与えた内国通運会社の外輪客船通運丸(利根川を中心に運航)を模している。

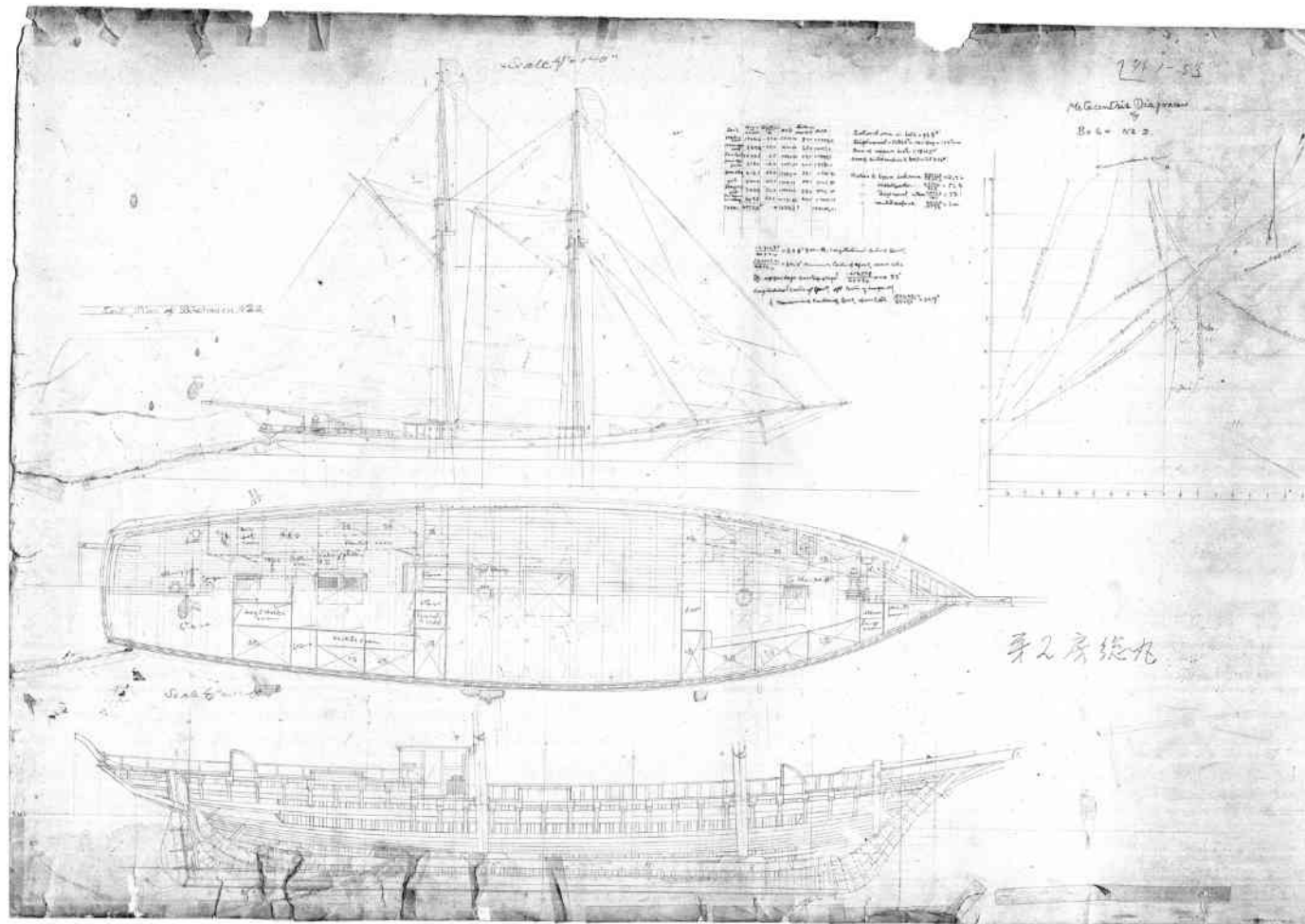


図10 第二房総丸 一般配置図、セールプラン、構造図（外1-053-1）（白黒化画像処理）

第二房総丸は明治37年(1904)頃の長さ29mの2本マストスクナー型のラッコ猟漁船で、米国のグロスタースクナーを倣っていると思われ、北洋での天候急変に対処するためにトップセールを持たず、ブーム、バウスプリットが長い帆装形式を特徴としている。基本的な各種の図面がほぼ残されており、当時の市川造船所の設計・建造を推定するための貴重な資料である。市川造船所設計の特徴として早い時期から基本的な設計計算をしっかりと押さえていたことがあげられる。図10の上部右側中央寄りでは帆の面積中心位置を計算している。その例として、計算の下部でその帆面積が適切であるかの検討も行っている。また上部右には「排水量等曲線図(Hydrostatic Curves)」が書かれており、この計算はコンピュータの無い時代には大変手間のかかるものであったにもかかわらず丁寧に計算していることに感心する。

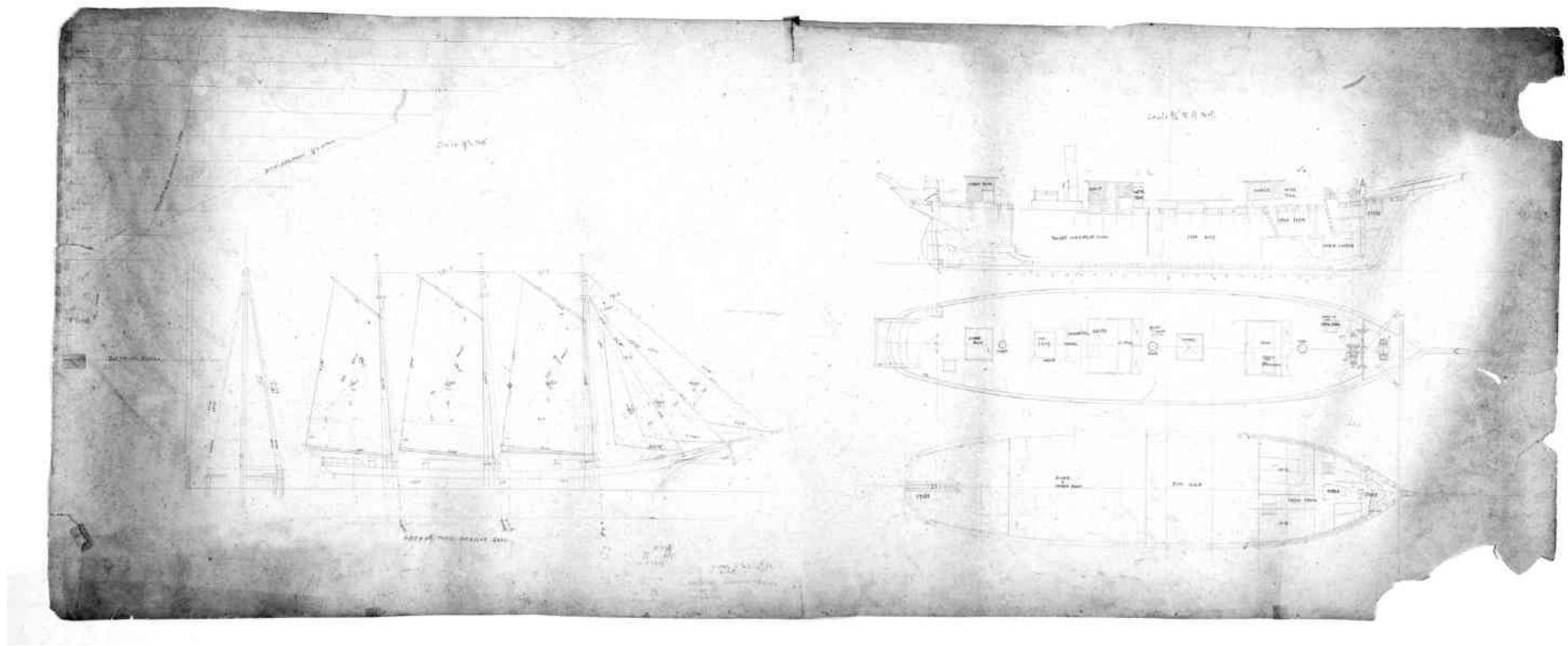


図 11 第二報効丸一般配置図、セールプラン (外 2-019-1) (白黒化画像処理)

明治期に日本人が行った大探検の一つとして有名な白瀬中尉の二度に渡る南極観測<sup>(33)</sup>に用いられた開南丸の前身は、これも日本の北方進出の歴史に残る郡司成忠大尉<sup>(34)</sup>が興した報効義會が市川造船所で建造した三檣スクーター第二報効丸(長さ 30.48 m、幅 7.85 m、深さ 3.89 m、総トン数 204)である。当時、報効義會はすでに初期の北方進出だけを目的とした団体ではなく、実質的には北洋漁業を事業とする団体となっていた。このため第二報効丸も洋式の鱈漁船として計画、建造された。市川造船所資料には、図面以外に 59 点の紙資料が有り、これには市川造船所が作成した建造書類である勘定帳、鐵物通、鐵物精算張、職工工数表、諸立替帳等、報効義會とのやりとり、建造費用支払の通知、諸連絡が含まれる。建造費用については当時報効義會が財政的に苦しかったためか、支払い遅延の言い訳が見られる。本船の計画については監督官庁である農商務省からいくつか修正指示が出て、その対応に腐心していることもうかがえる。白瀬南極探検隊記念館が模型作成のために作成した図面<sup>(35)</sup>はこの図を元としている。

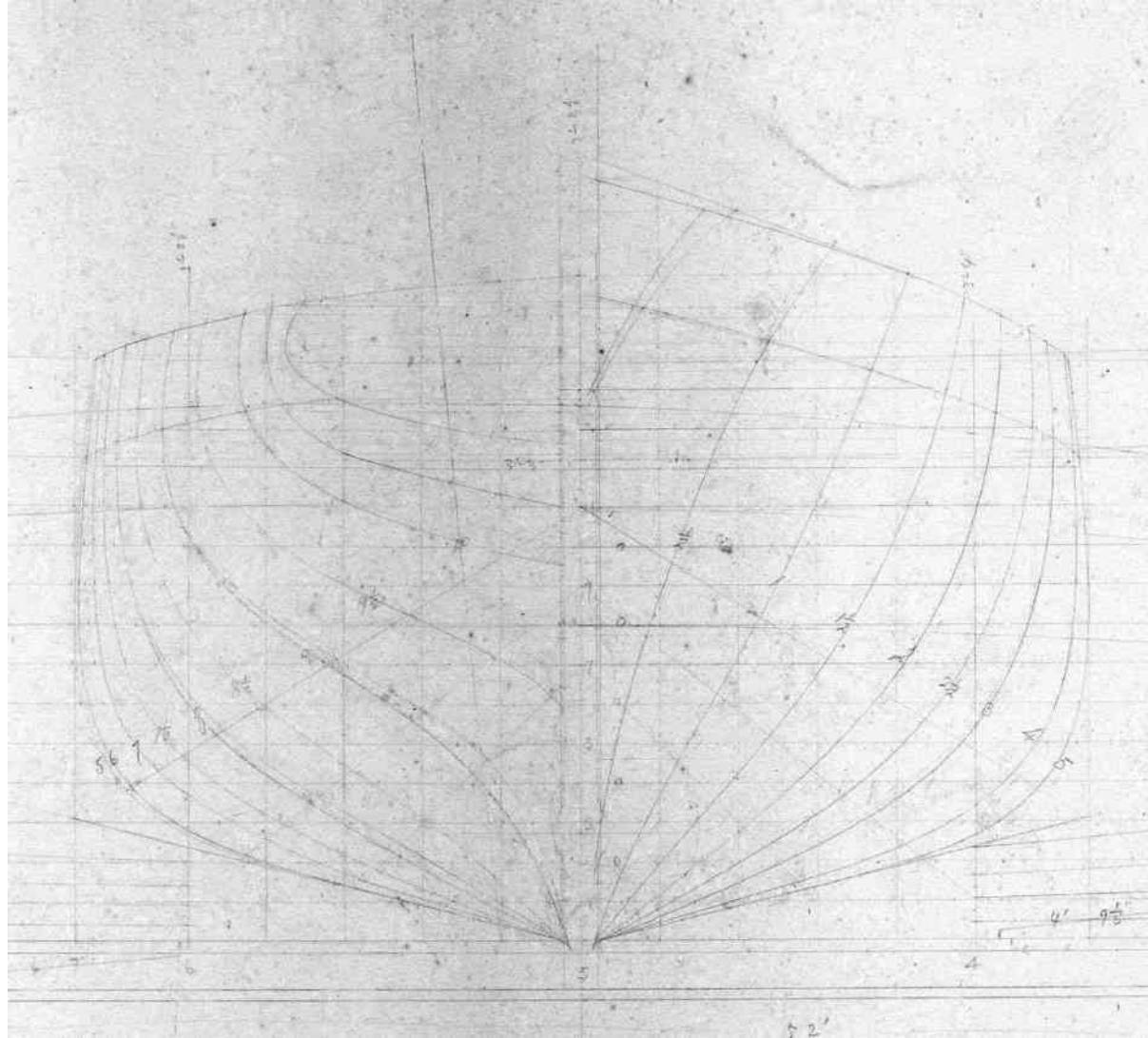


図 12 第二報効丸線図ボディプラン拡大 (外 2-019-2 部分) (白黒化画像処理)  
船尾フレームラインおよび船首部フレア検討の跡が見られる

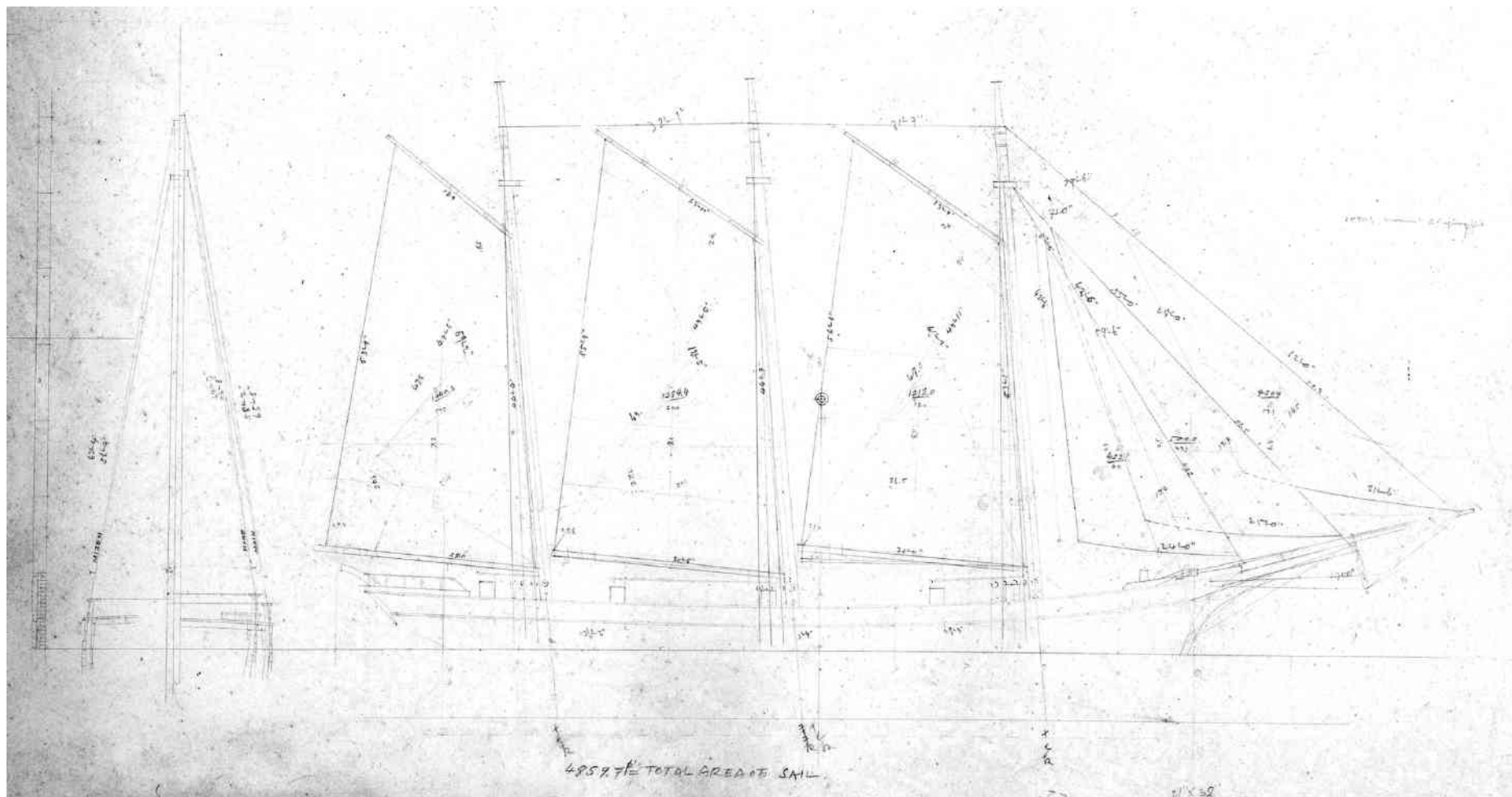


図13 第二報効丸 セールプラン拡大(外 2-019-1 部分)(白黒化画像処理)  
トップマストが無い帆装である

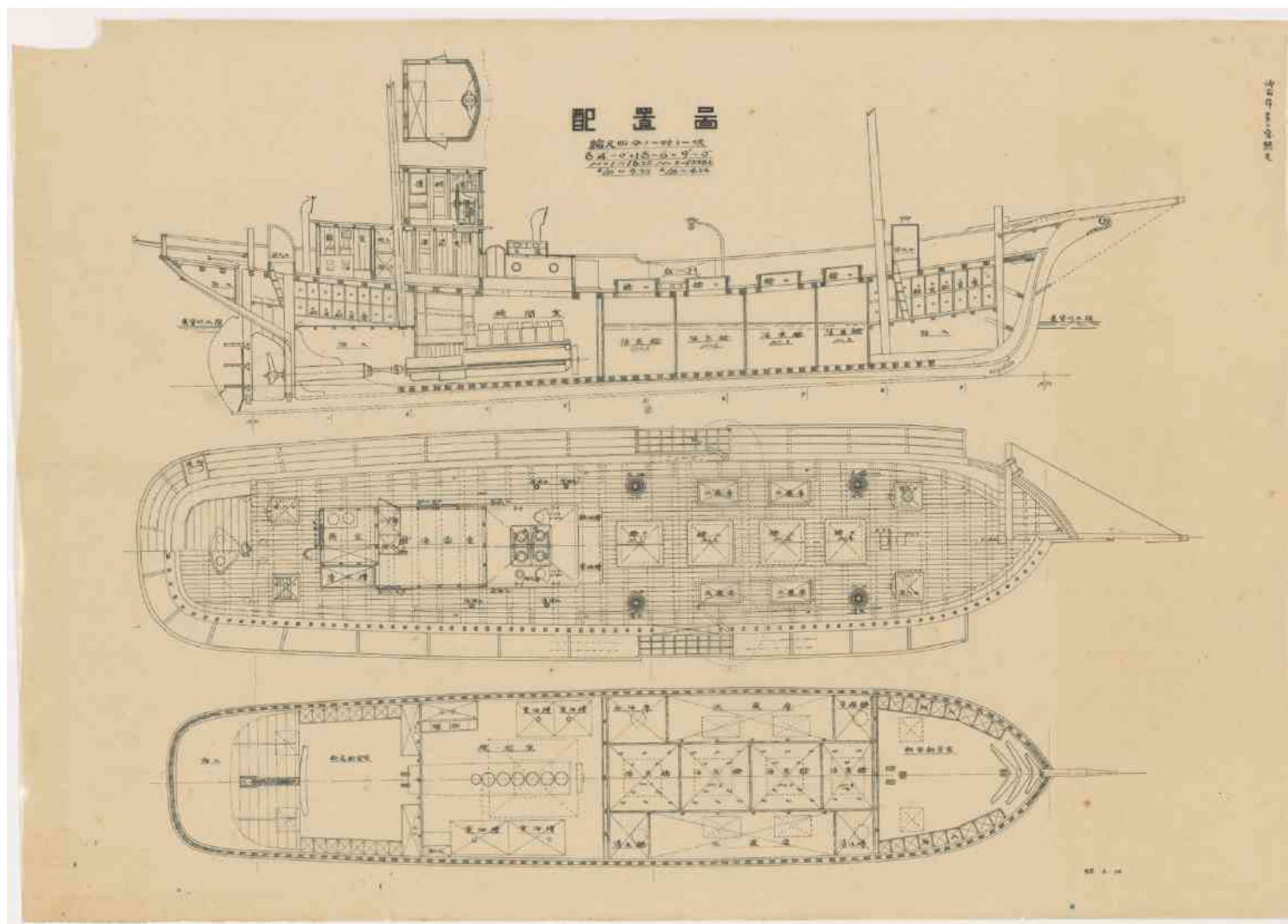
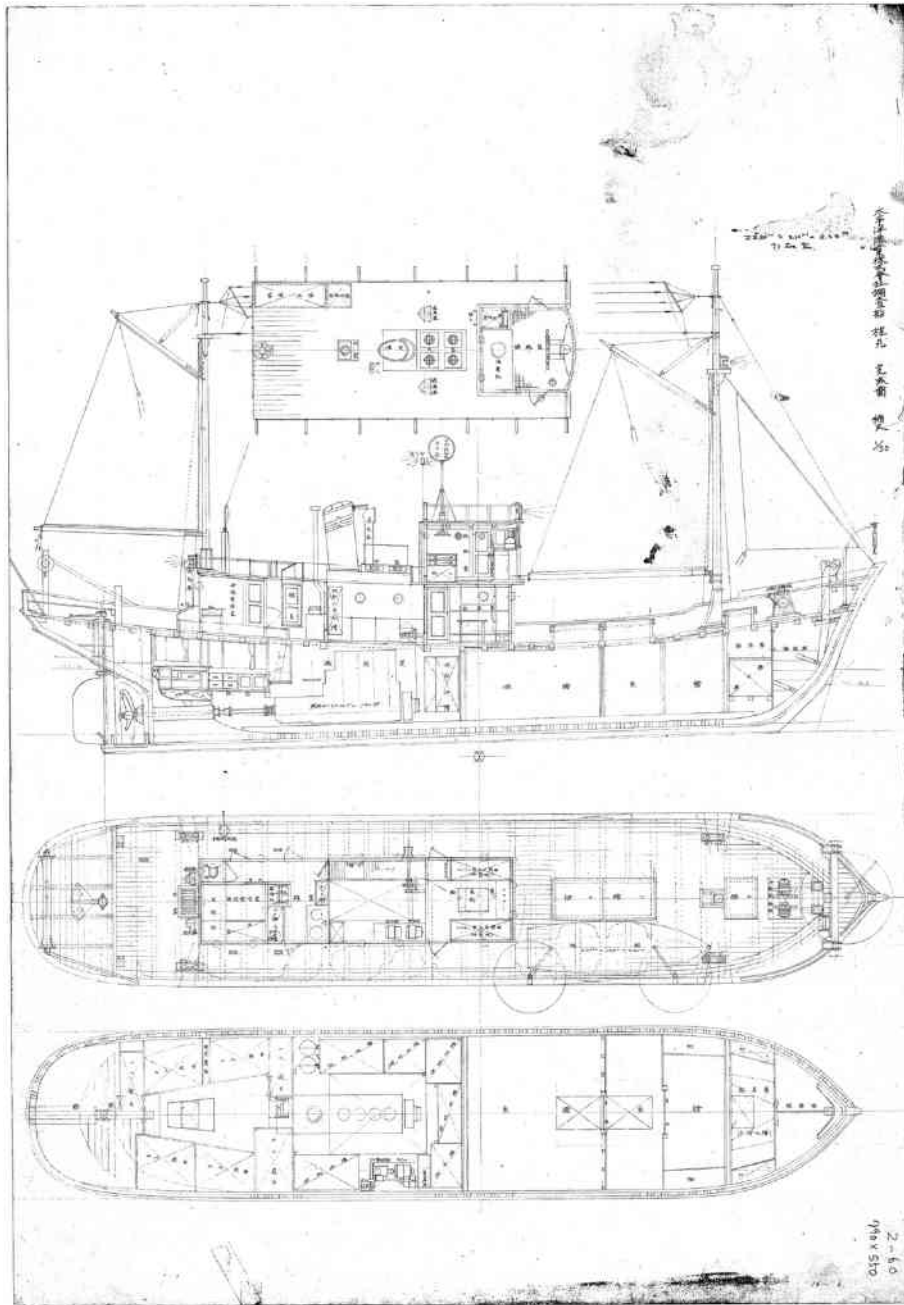


図14 第二宝照丸一般配置図（棚 13-004）

静岡県御前崎船主の鯉鮪漁船（長さ 84'00”、幅 16'6”、深さ 9'0”）で昭和 3 年 10 月との記入がある。御前崎船主と市川造船は漁船動力化の初期より関連が深く<sup>(37)</sup>、継続して多くの漁船を建造していた。本船と同時期と思われる宝照丸（長さ 80'0”、幅 16'6”、深さ 8'3”）の図面 2 葉（棚 2-017、棚 4-001-2）も残されており、本船は宝照丸の実績を見てやや大型化したものと思われる。図 14 の一般配置図からいけす槽および氷蔵庫を持ち、現代の鯉鮪漁と同じ漁労形態を取っていることが判る。船長のベッドが操舵室後方にある他は、乗組員の居室は上甲板下船首尾にあり、いくつかのベッドがあるものの、ほとんどの乗組員は大部屋に雑魚寝である。海図室が大きいことは、漁労海域を合理的に探索することの重要性を考えてのことであろう。





昭和16年3月の記入がある太平洋漁業株式会社向けの漁業調査船（長さ22.80m、幅5.10m、深さ2.55m、160馬力阪神ディーゼル4気筒、総トン数75トン）であり、太平洋戦争開戦直前の先端的な漁船設備を見ることができる。図15の一般配置図を見ると、独立した無線電信室・当時最新鋭のDF（方向探知機）アンテナ・水深を計測する手動測深機専用のウインチ、等このように小さいながらも設備が充実した船であることが判る。

線図に示された船型の特徴は、農林省が採用に積極的であった船首部が独特の形態をしたマイヤー型船首であることである。当時はマイヤー型と言わず大和型船首あるいは農林型船首という名称で昭和10年ごろから普及を図った。これには船首だけではなく船尾のプロペラアパーチャー（プロペラ開口部）の隙間を埋めて小さくするフィンと称する手法とのセットが推奨された。大和型船首という名称の由来は、橋本<sup>(12)</sup>によると、マイヤー型船首の形状が和船の弁才船の船首とたまたま類似していたことから、既に日本では江戸時代から採用された船型であるとし、弁才船の別名である大和型船から採られたとのことである。このような言い換えは当然当時の日本の世相を反映した面もある。

図15 桂丸一般配置図（柵2-060）（白黒化画像処理）

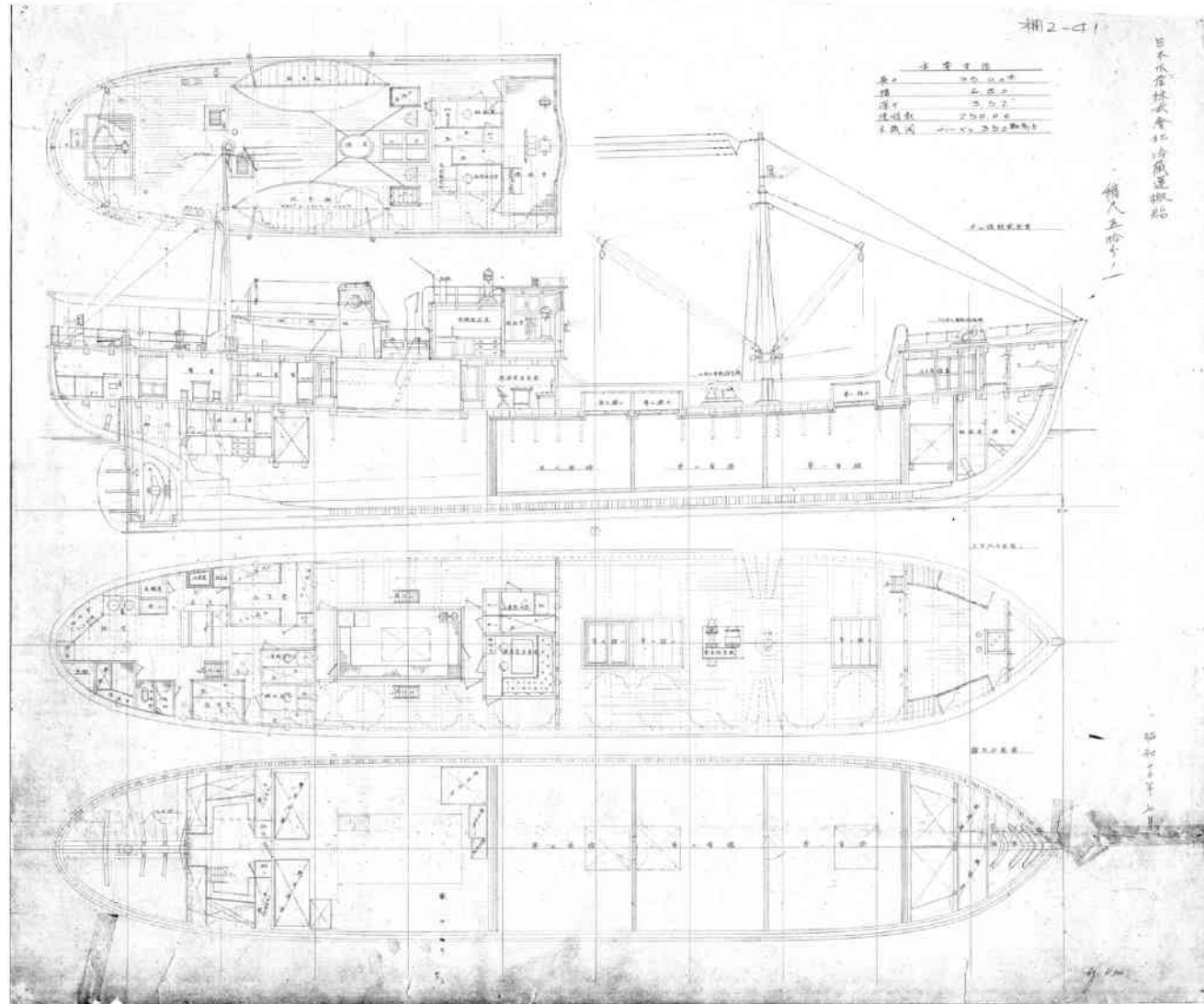


図 16 瑞祥丸一般配置図（柵 2-041）（白黒化画像処理）

日本水産株式会社が発注し、昭和 14 年 4 月に竣工した冷蔵運搬船（長さ 35.00m、幅 6.80m、深さ 3.52m、総トン数 245 トン、新潟ディーゼル 350 馬力）である。橋本徳寿の名著「木造船と其の艤装」<sup>(13)</sup>、および日本の木造船のアンソロジーと言える「日本木船図集」<sup>(14)</sup>に優れた木造船の参考例として示されている。図 16 に示す一般配置図は、橋本の著作に示された図の元図であり、これに本図では記入されていない機関室内配置を書き加えたものが墨入れされて記載されている。全体として大変グレードの高い船であり、個別ベッド、風呂の設備等の乗組員の居住性、2 隻の救命艇など各種設備もこの時代としては優れたものである。冷蔵運搬船であることから賄室に冷蔵庫が備えられているが、一方調理のための燃料は石炭である。

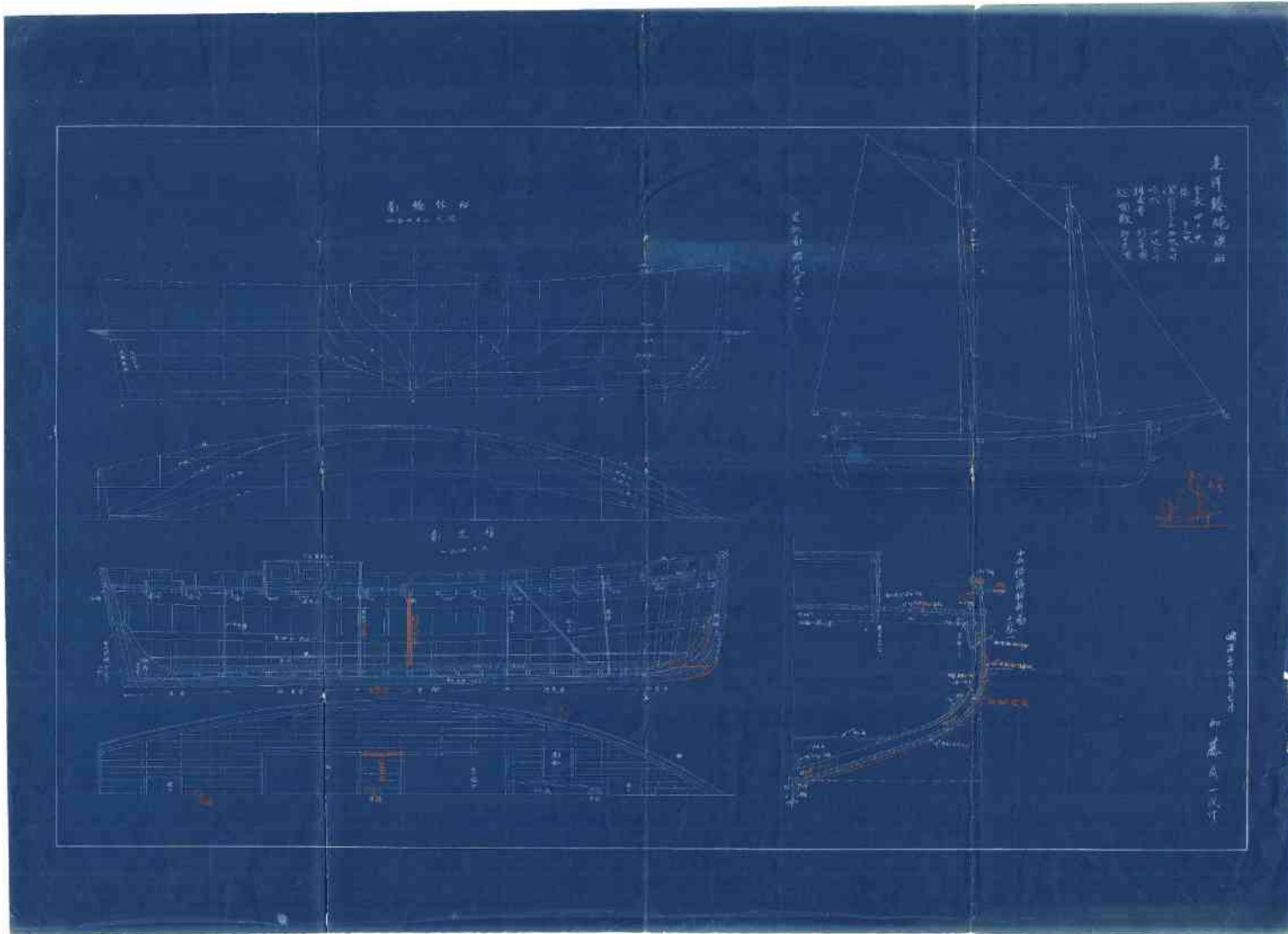


図 17 珍彦丸 加藤成一による初期設計 (棚 3-026)

珍彦丸 (長さ 60'、幅 12'、深さ 5.7') は大分県水産試験場初の漁業調査船として明治 37 年(1904)2 月に市川造船所で竣工した無動力の帆船 (ケッチ) である。本船は市川造船所が建造した多数の漁業指導船<sup>(12)</sup>の最初となる船である。図 17 は当時農商務省水産局囑託であった新進気鋭の加藤成一による設計で、市川造船所と大分県水産試験場および加藤成一との打合わせに使用したものである。朱書きにて帆装形式をスクーターからケッチへ、船首材構造を分割変更、水線付近以下への 5 分杉板の被板 (包板) 構造の追加等が記入されている。

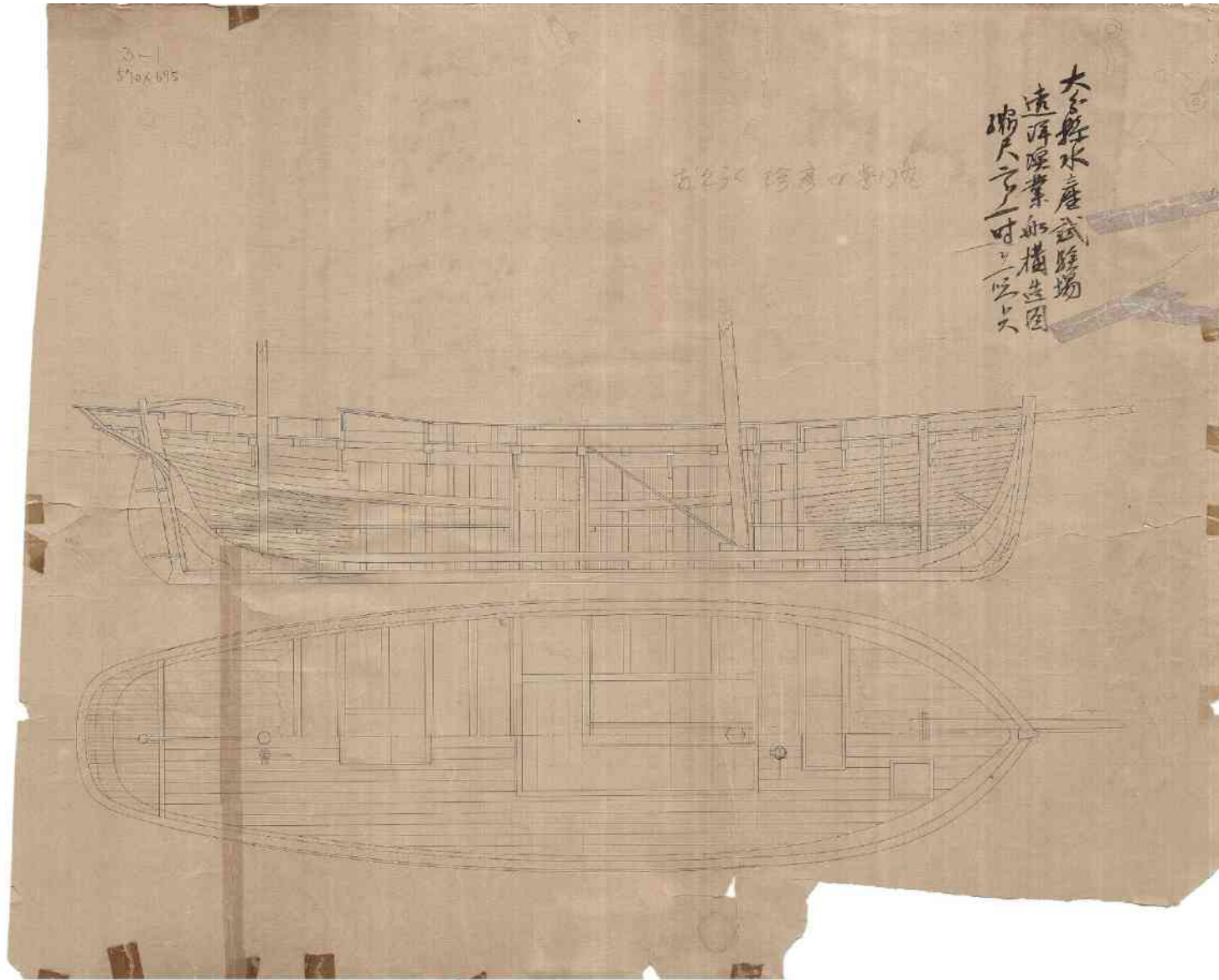


図 18 珍彦丸 市川造船所設計による建造用構造図（棚 3-001）

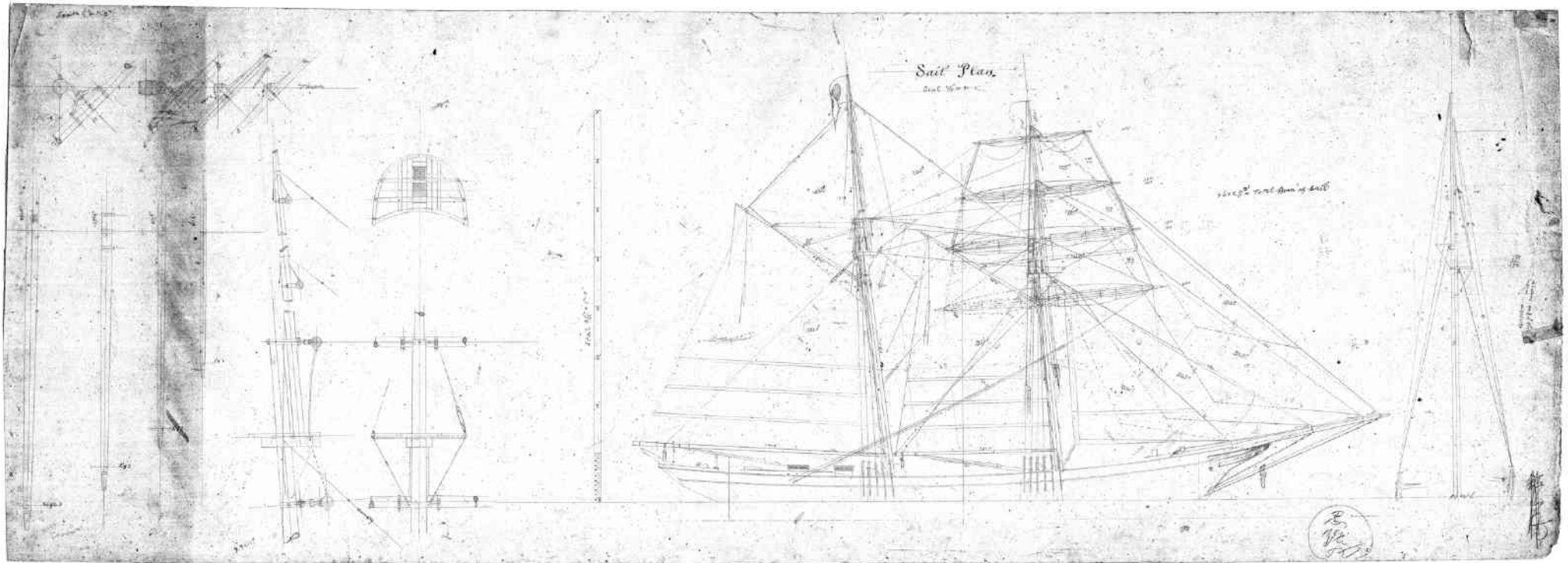


図 19 忍路丸帆装図（外 1-055—2）（白黒化画像処理）

北海道大学水産学部の練習船・研究船として知られるおしよろ丸の初代である忍路丸（長さ 105.54 ft、幅 25.20 ft、深さ 12.40 ft、総トン数 153.22）は、明治 42 年(1909)2 月に市川造船所で竣工した。建造当時は北大水産学部もその創生期に当たり、札幌農学校水産科→東北帝国大学農科大学水産学科→北海道帝国大学付属水産専門部と目まぐるしく変遷していた。このため忍路丸の発注者は東北帝国大学であり、建造に関わる官側の書面は東北大学から出ている。また使用木材に押印する東北大学名の焼印が残されている。本船は竣工の翌年の明治 43 年には帆装をブリガンティンに改造している。これは北大においても北大および函館商船学校の船舶職員の養成を開始し、その施設要件として横帆船が必要であったためとされている<sup>(31)</sup>。

忍路丸の設計は東京帝国大学の寺野精一とされているが、詳細な設計は寺野精一の指導のもとで市川造船所が行ったようである。図 19 は新造時の帆装図であり、わずか 1 年間弱しか使用されなかったトップスルスクーナーの形態を示している。マストやヤードの詳細まで描かれた精緻な図面であり、市川造船の力の入れようが伺える。

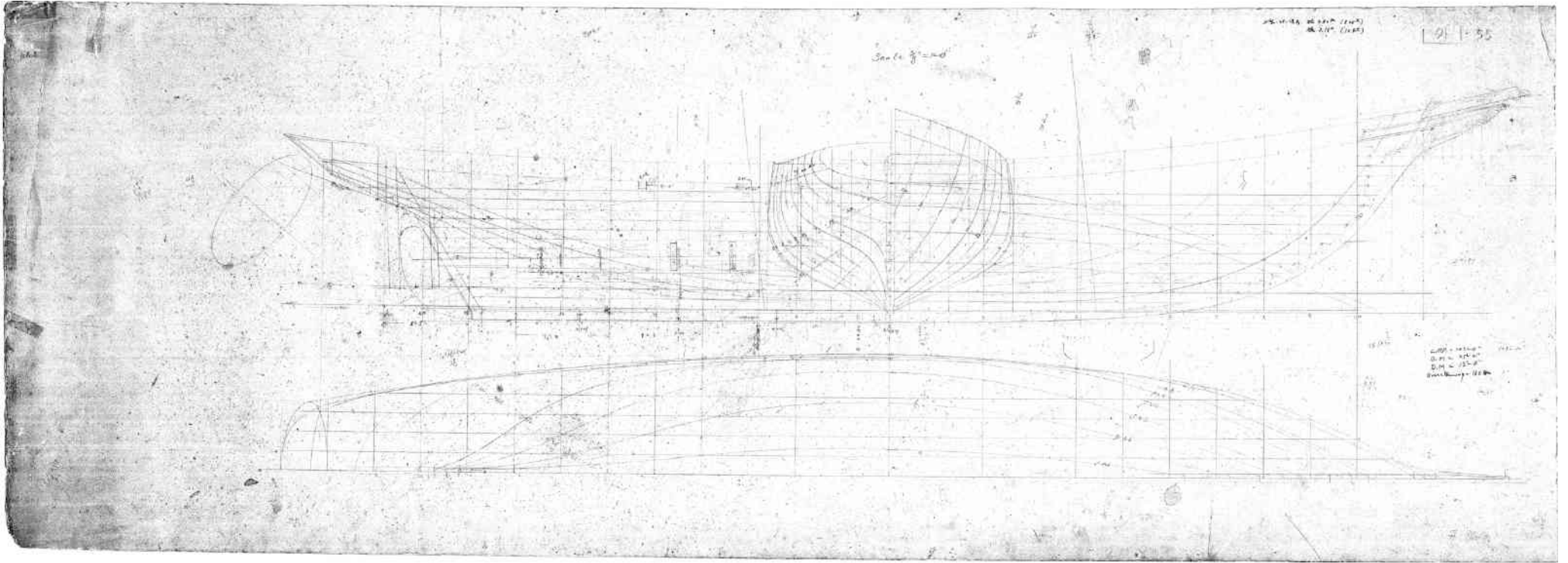


図 20 忍路丸船体線図 (外 1-055—1) (白黒化画像処理)

図 20 (外 1-055—1) は新造時の状態を示すラインズである。計画時に範を取ったと言われるグロスタースクナーの特徴とされる細長いファインな船型、低い乾舷を見ることができる。船体線図には大正 2 年にボリンダー型有水式焼玉機関を搭載する際に検討したと思われる船尾管、主機台の記入が見られる。

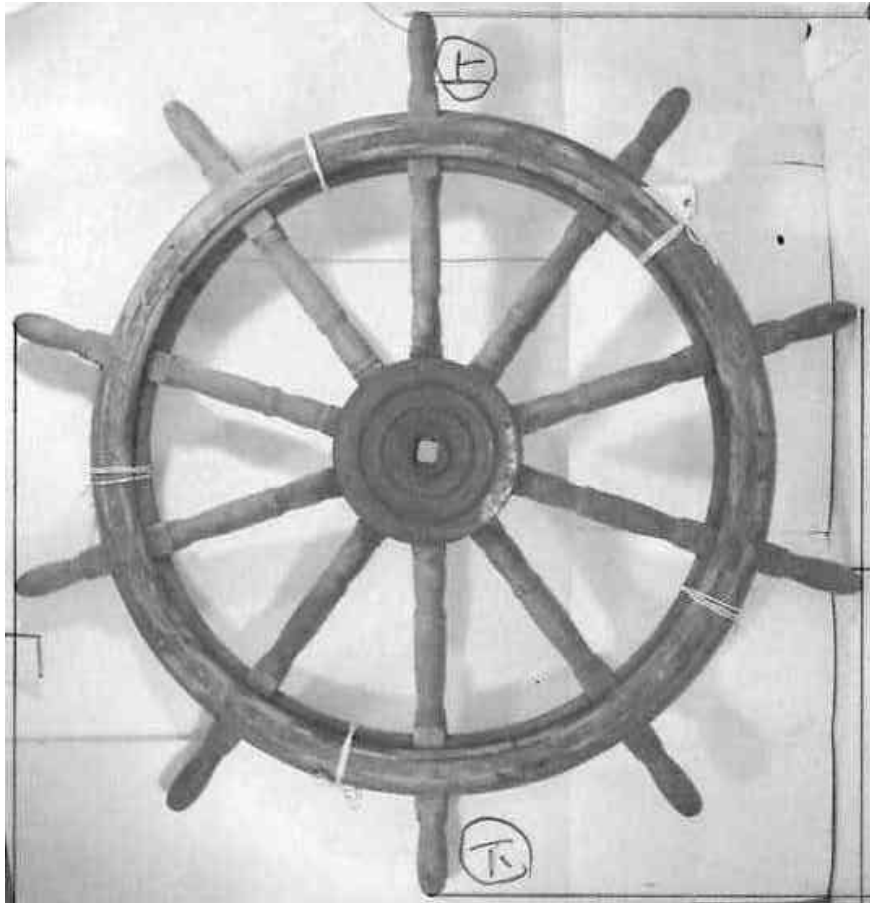


図 21 義勇和爾丸舵輪（直径 1380 mm）

当初、純帆船として設計された忍路丸は優れた帆走性能を持ち、15kt 出したとか、強風の宗谷海峡で新式汽船を追い越したなどのエピソード<sup>(32)</sup>がある。日本近海、オホーツク海を中心に 5 万海里におよぶ縦横無尽の活動を行ったが、昭和 2 年に代船が建造され北大での活動を終えた。しかし大変堅牢に建造された船であり引き続き練習船として使用可能と判断され、当時の少年団日本連盟練習船として払い下げられ義勇和爾丸と名付けられた。本船は 2 度の改造（金指造船所）の後、昭和 9 年にシャム（タイ国）、シンガポール、インドネシア、委任統治領であったパラオ、ヤップ、サイパンを周航する 112 日の大航海を行った。義勇和爾丸としての活動については多くの著作<sup>(31),(32)</sup>に記述されている。

大航海の後も少年団練習船として使用されていたが、船舶安全法改正により航行区域が沿海に限定され、さらには予算不足で船員の配置もできず満足な活動は困難であった。昭和 13 年 3 月に三重県大王崎沖にて座礁し、離礁後生まれ故郷である市川造船所に上架された。管海官庁である名古屋海事部の検査により練習船としての使用は不可能となった。紆余曲折の末、結局売船され、市川造船所において貨物船海勢丸に改造された。その後海勢丸もしばらく運航された後、一度廃船されはしけとして使用されていたが、戦時中に貨物船として復帰し、昭和 19 年に空襲を受けて沈没した。

市川造船資料には新造時の図面、東北大学との書類に加え、義勇和爾丸としての図面、義勇和爾丸への改装工事が市川造船所へ発注されなかった代償として発注された搭載カッターの図面、おそらく海勢丸への改造の際に降ろした舵輪（図 21）、コンパス、船窓、ランプ、船灯、海水水温計ケース等の備品が多数残っている。

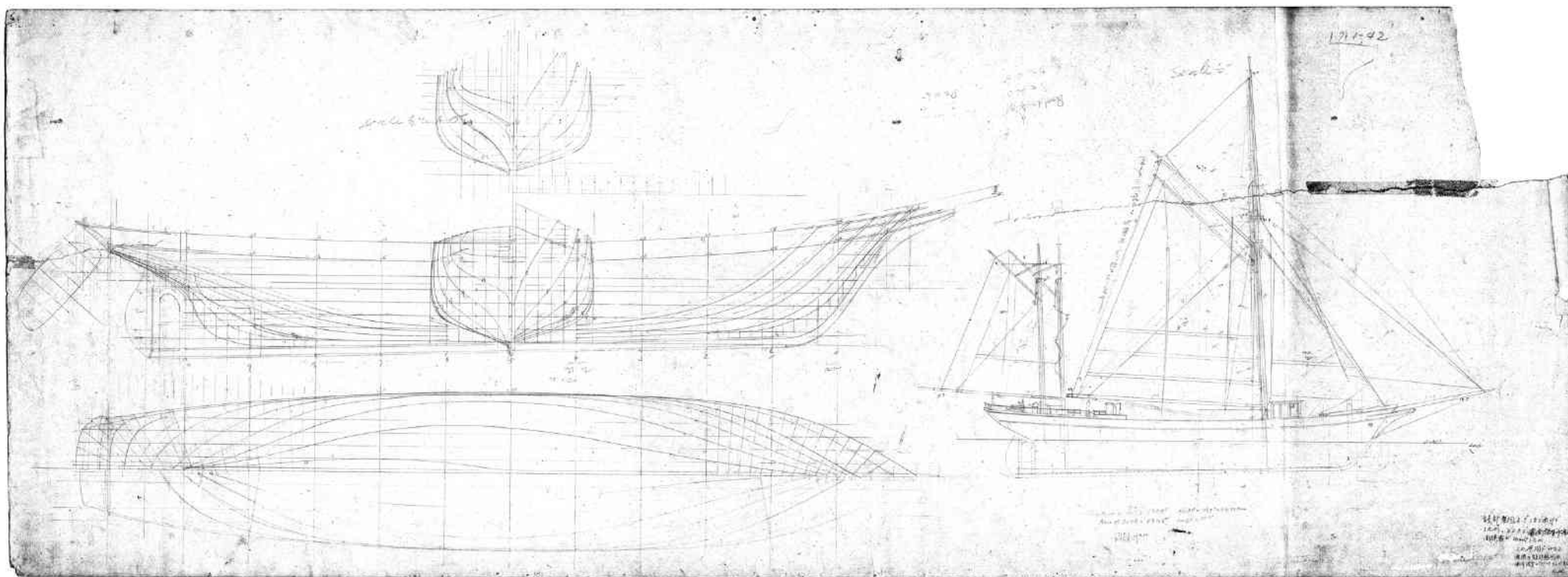


図 22 富士丸 線図とセールプラン (外 1-042--1) (白黒化画像処理)

日本初の発動機付漁船<sup>(1),(9),(26),(27)</sup>として日本造船史上にその名を残す富士丸（長さ 60.6'、幅 11.95'、深さ 5.65'）は、静岡県水産試験場の試験船として明治 39 年 4 月に市川造船所で竣工した。計画・設計は本船を洋式木造新式鯉漁船の見本とする意図を持って、農商務省水産局が中心となり東京帝国大学等も含んで行われた。特徴として、石油発動機による補助動力に加えて、餌料用の生簀を備えている。

図 22 (外 1-042--1) は市川造船で作成した線図とセールプランで、いくつもの図を重ねて書いていることから、重い原動機を搭載する帆船として何度も詳細な検討を加えたことが伺える。本船は農商務省水産局の設計といわれながら、実際には船体については市川で設計を行ったようである。

図面右下に故野本謙作大阪大学名誉教授の「設計製図をどこまで市川でしたか。どこまで農商務省水産局関係者が comit (ママ) したか。この原図で見ると実際の設計製図は市川源吉が行ったように見える。KN」という書き込みがある。また市川造船所設計の特徴である、デッキ面積に対する比で帆面積を決める方法の計算メモが記載されていることから、このことが頷ける。市川造船に対する洋式木造船設計・建造についての当時の高い評価から判断すれば農商務省水産局の指示のもとで設計を行ったと思われる。



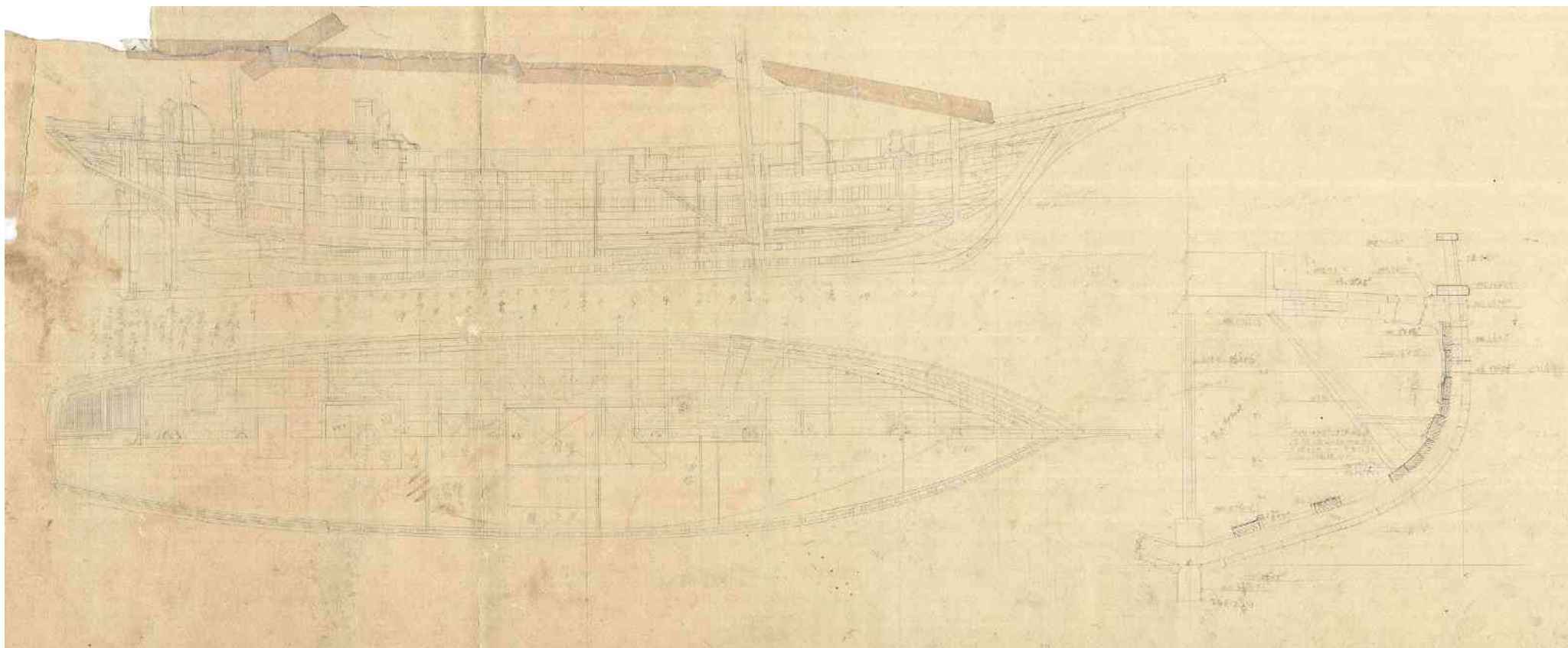


図 23 富士丸 一般配置図と中央横断面図（外 1-042—2）（図面部分のみ抽出）

図 23（外 1-042—2）は市川造船作成の富士丸の構造図と船体中央横断面図である。太いフレーム（肋骨）およびビーム（梁）と狭いフレーム間隔、市川造船所らしい大変強固な構造であることが判る図面である。中央横断面図には使用木材の種類と寸法が記入されている。打合わせの結果か、左側、側面図と平面図の間は波浪中の安全性について、右側の中央横断面図には木材の材質についてらしい書き込みがあるが、字が薄くなっていて判別しにくいのが残念である。

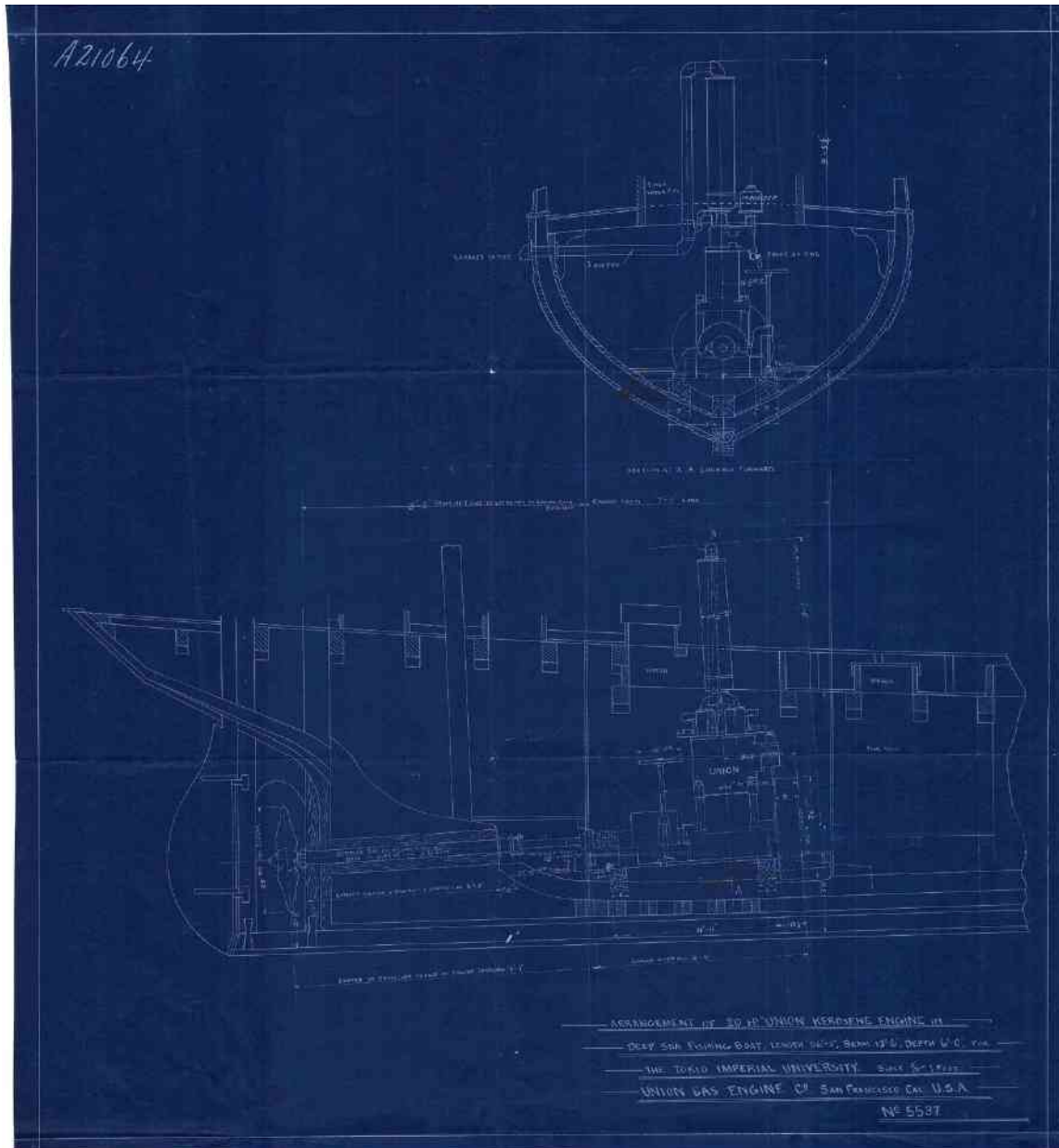


図 24 富士丸 機関配置図 (棚 3-030)

図 24 (棚 3-030) は発動機のメーカーであるユニオンガス発動機 (米国) によると思われる機関室配置図である。船のオーナーが東京帝国大学であること、記載されている船の寸法が少し富士丸とは異なるが、船体形状、フレーム配置は富士丸のそれと一致している。機関についてのメーカーとの折衝は東大が受け持ったのかも知れない。

面白いのはエンジン排気が煙突のように機関上部に建ったマフラーを通過してから、もう一度船体内部に入り、船体側面から出すようになっていることである。これは火の粉によるセールへの引火を防止するためである。またエンジン馬力も 20 馬力と記されているが、日本では富士丸の機関馬力は 18 馬力と言われている。

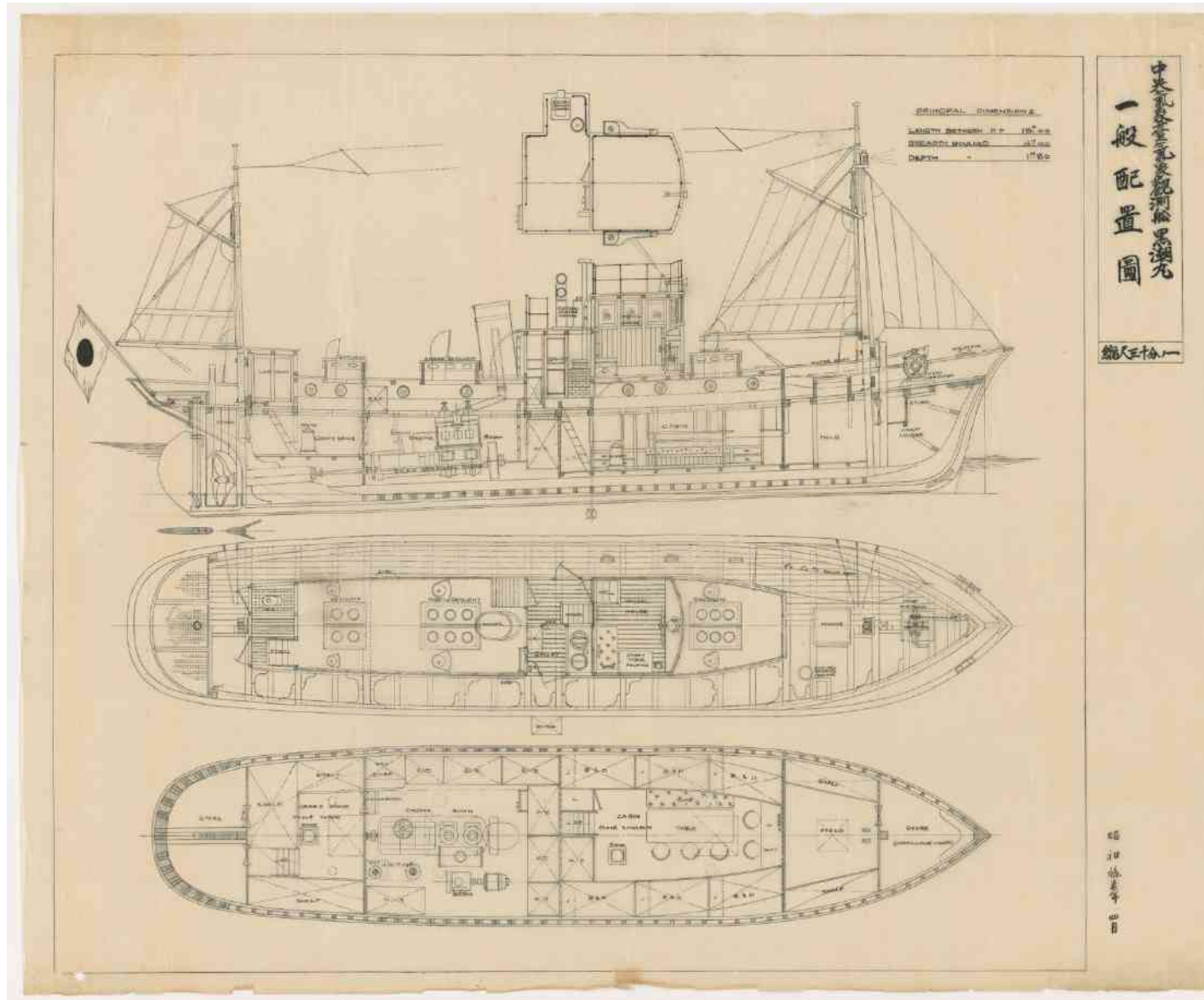


図 25 黒潮丸 一般配置図 (棚 13-020)

1934年(昭和9年)9月に西日本を襲った室戸台風の教訓により、気象観測体制の強化が行われることになり、1937年(昭和12年)に気象庁の前身、中央気象台が初めて大型船の凌風丸(1200トン)を導入した。それと前後して9隻の気象観測船が建造され、各地の気象台に配属された。

市川造船所ではこのうち3隻の気象観測船を建造した。いずれも戦禍を逃れ、戦後になるまで使用された。

図25(棚13-020)は黒潮丸(長さ18.0m、幅4.00m、深さ1.80m)の一般配置図である。大変丁寧に書かれた図面であり、細かな部分まで詳細に描かれている。本船も乾舷が高く、荒天時の作業の安全に配慮してブルワークの高さを十分取っている。全体としてグレードの高い船であることが見て取れる。反面、現在のおおがかりな気象観測・海洋観測機器に相当するものが見られないのは当時の観測方法が簡素であったことを示している。前部デッキに搭載された汽艇も市川造船所によるものである。

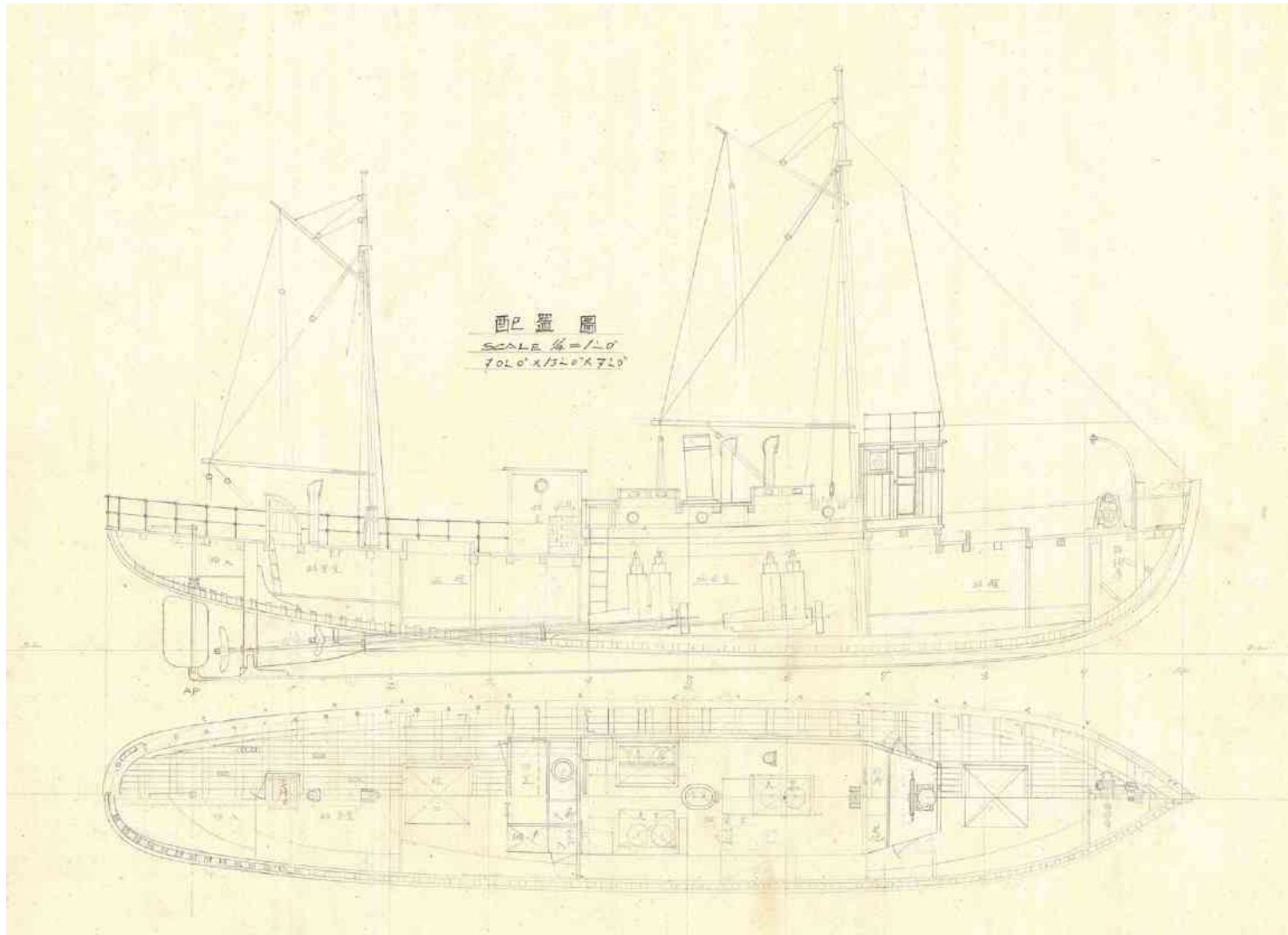


図 26 取締快速艇「武相丸」 一般配置図 (棚 2-016 作画部分)

「昭和 7 年 7 月取締快速艇」と記されている長さ 70' 0"、幅 13' 0"、深さ 7' 0" の 3 機 3 軸の高速艇であるが、帆装装置も持つという不思議な船である。船型は細長い丸型船型である。主機は中央機が大きく、恐らくは巡航時は中央の主機のみで航行し、高速が必要な場合はサイドの 2 機も動かして 3 機で航行したものと推察される。また、本船と思われる改修図と記された線図 (棚 4-045) も残されている。

本図は、昭和 8 年に建造された神奈川県向けの取締船武相丸 (船番 1005 番) の主要寸法 (長さ 66'、幅 13.6'、深さ 6.6'、37 トン) の計画段階のものである。

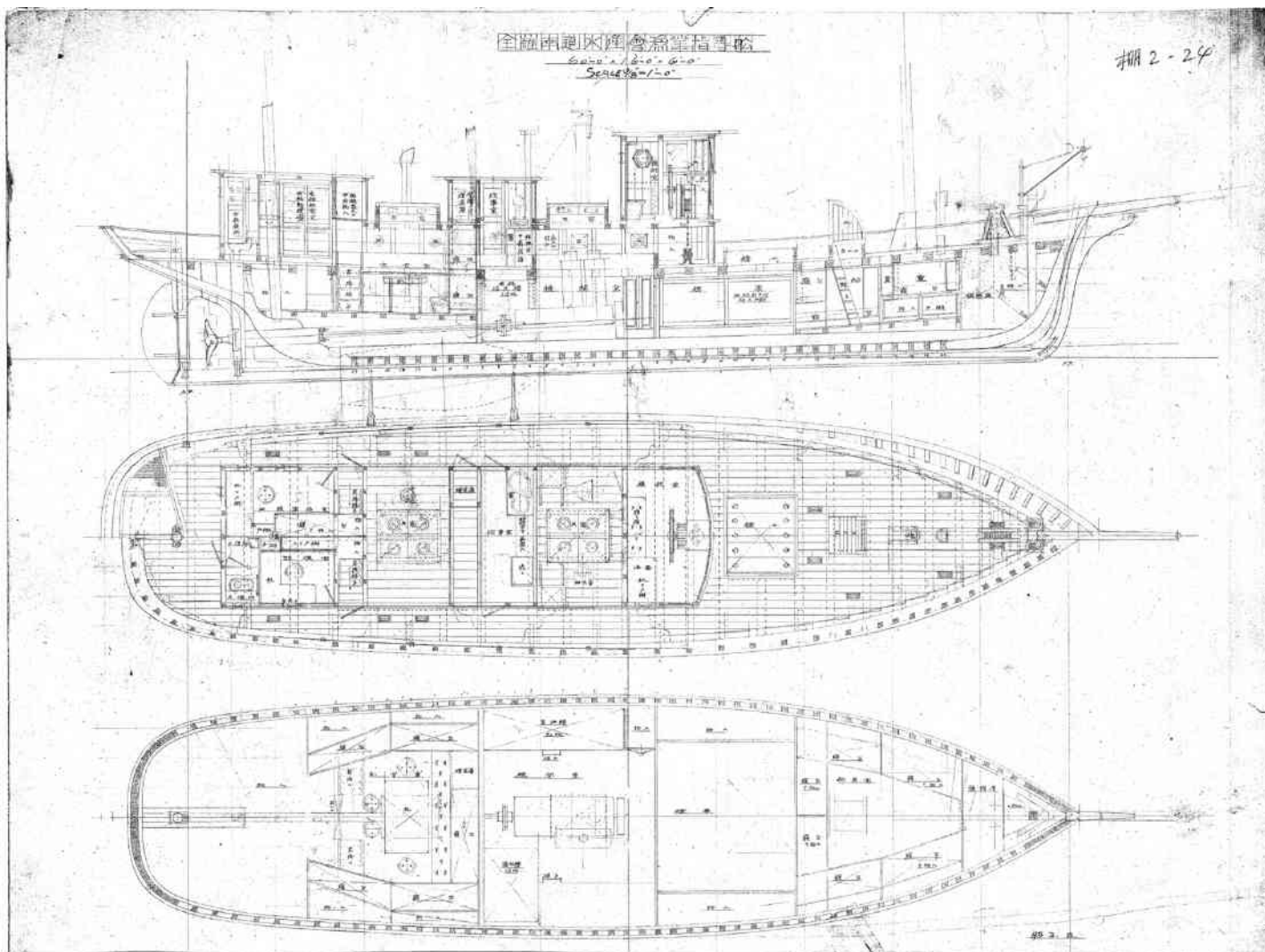


図 27 南鵬丸 一般配置図 (棚 2-024) (白黒化画像処理)

朝鮮半島、台湾の日本への併合や南方諸島の信託統治化により、官庁船を得意としていた市川造船所建造の船も多数海外へ進出した。

南鵬丸は昭和3年(1928)建造の全羅南道水産会向けの漁業指導船(長さ60呎×幅16呎×深さ6呎)で、国内の漁業指導船と異なり漁労関係の設備はほとんど見られず、逆に船尾には独立した無線通信室および郵便室がある。さらにその後部には普通は船内に置かれるトイレが備えられている。また左舷には大型のポートデッキがある。本船の任務は、漁業指導というよりも島嶼部が多い全羅南道において移動する郵便局・電報局としての役目を果たしていたのではと推測される。

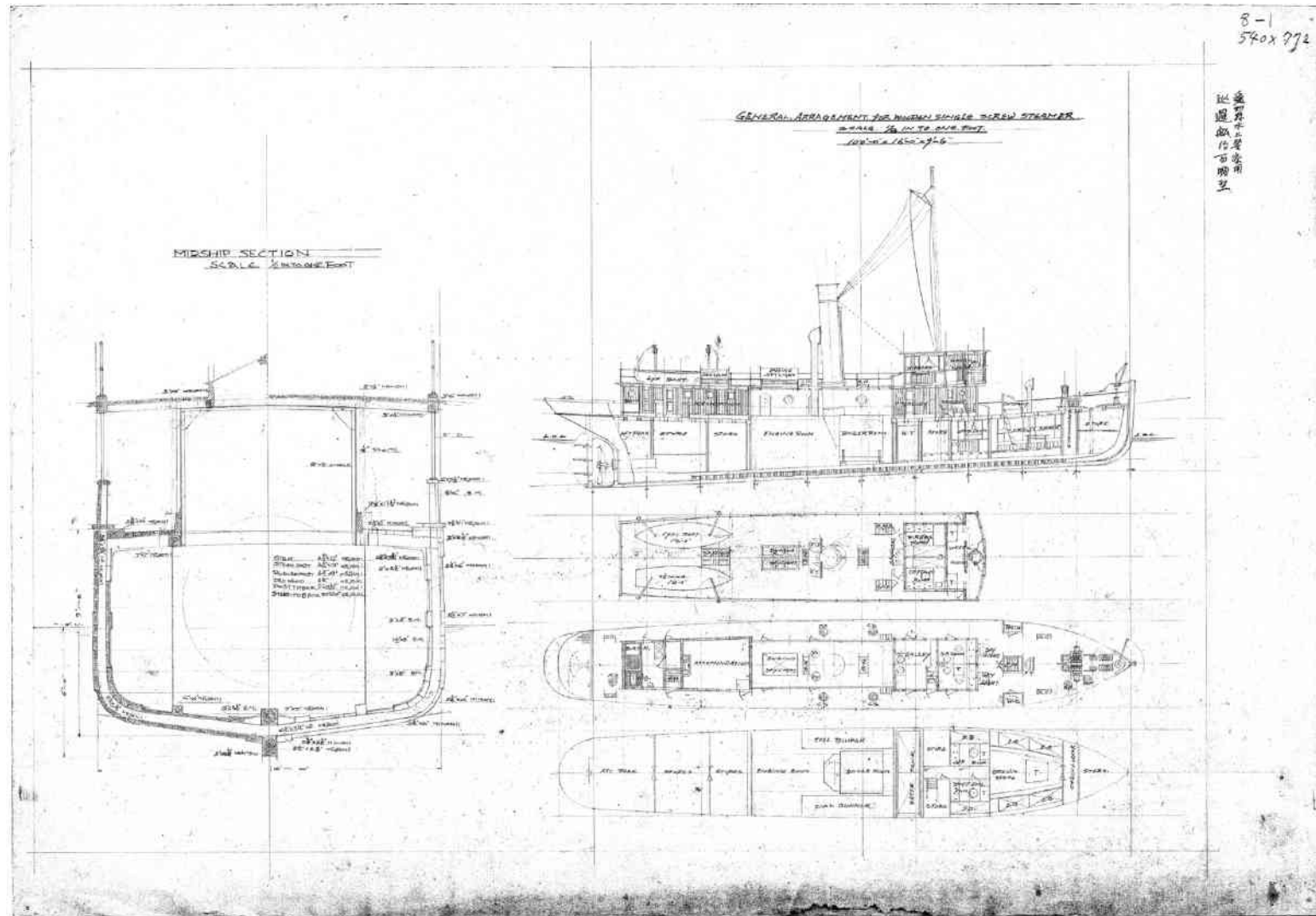


図28 愛知県水上警察用巡邏船 一般配置図および中央横断面図（棚8-001）（白黒化画像処理）

「愛知県水上警察用巡邏船約百噸型」との記載がある1機1軸の長さ100' 0"、幅16' 0"、深さ9' 6"の細長いいかにも高速の警備船である。本船は上部構造物を鋼製とし、船橋甲板の幅を船幅まで伸ばして甲板面積を増やすという、今日の船にまで用いられている手法を採用している。船型は先に示した武相丸と思われる取締快速艇よりは方形係数が大きい。乗組員の居住スペースは当時としては比較的ゆったり確保されており、また浴場も備えている。石炭庫、ボイラー、大きな水タンクがあることから動力は蒸気機関である。船の割には大きな煙突から黒煙をはいて走行する姿は迫力があつたと思われる。

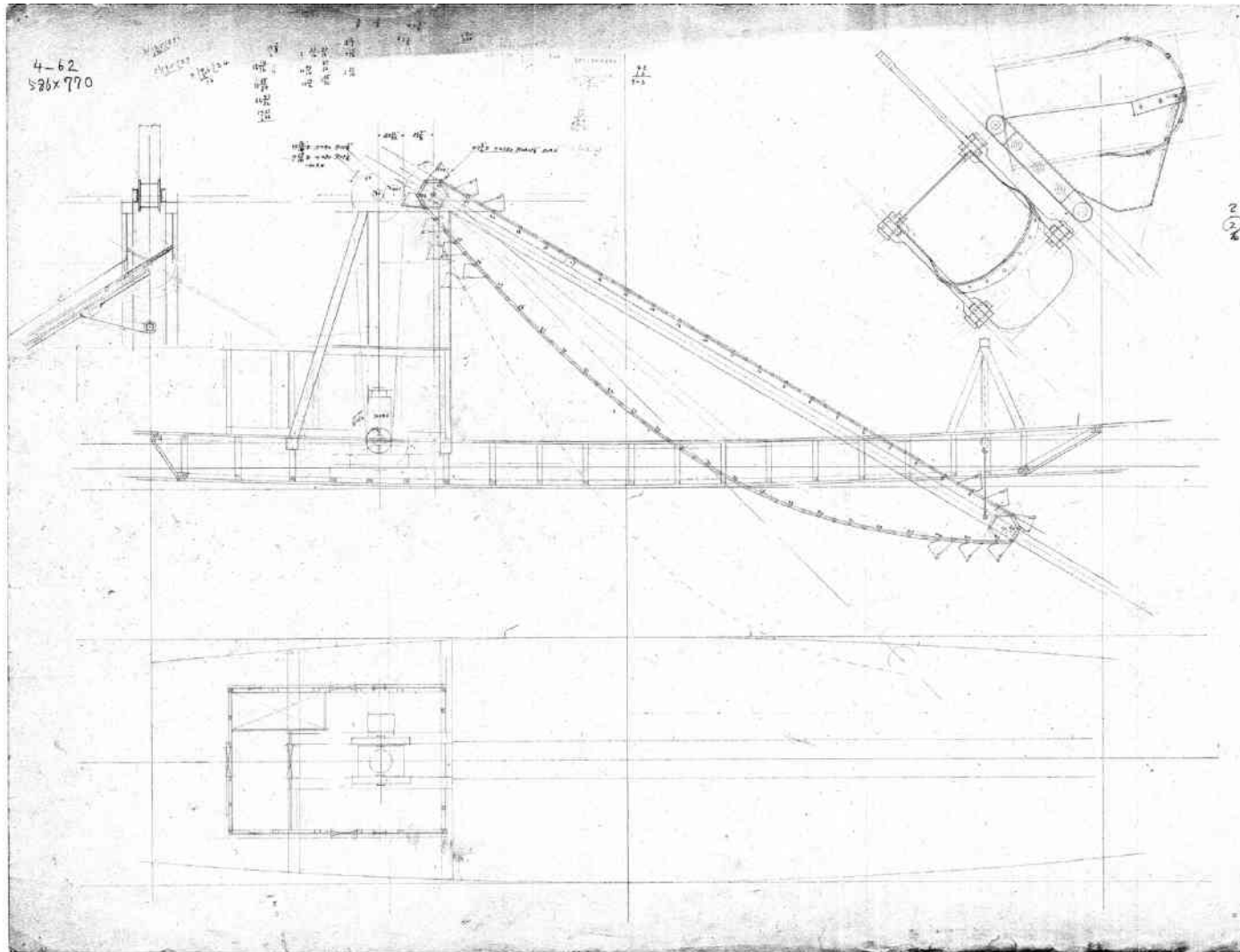
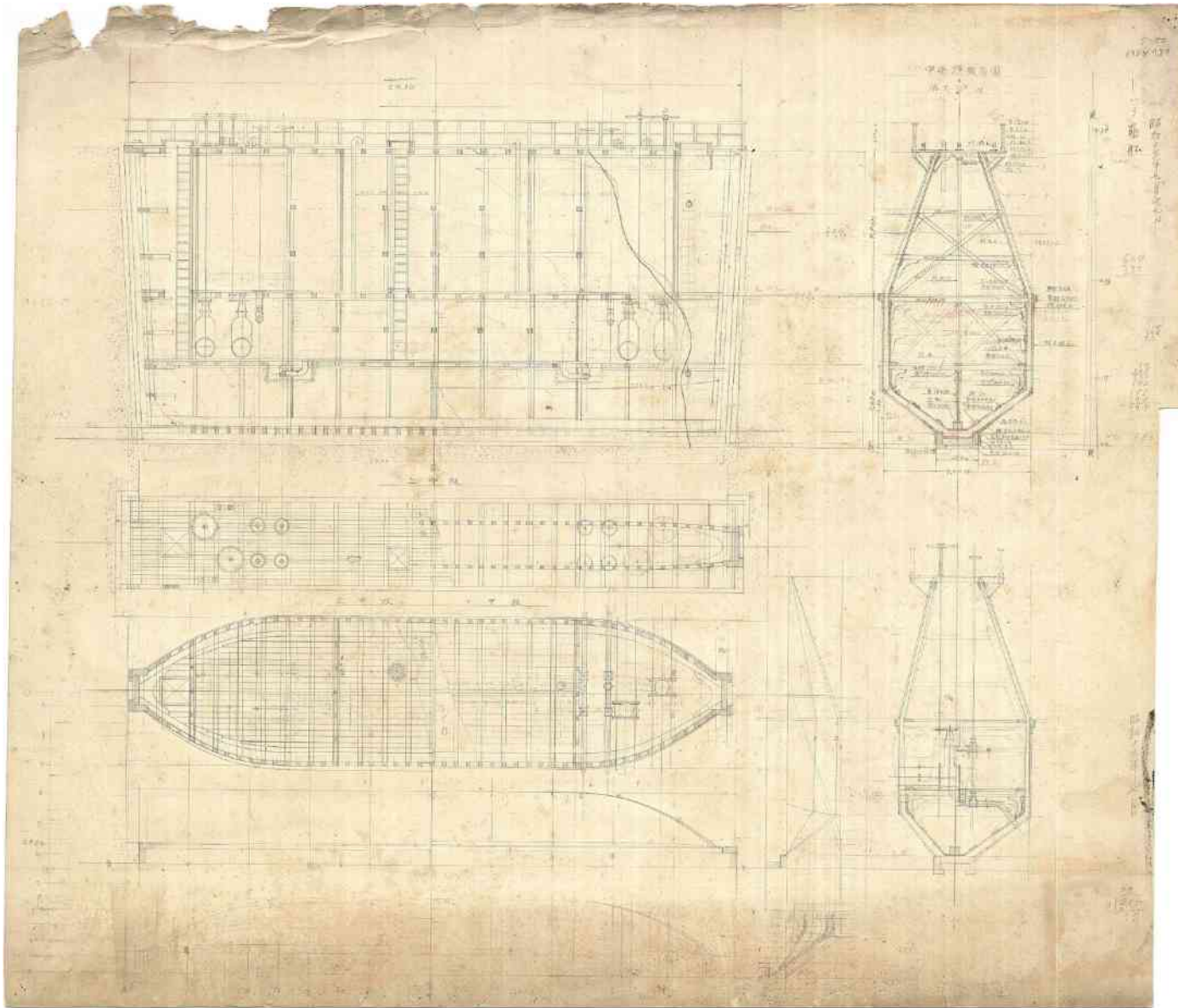


図 29 砂利採取敷船（バケット浚渫船）（棚 4-062）（白黒化画像処理）

市川造船所は多様な要求に応えられる高い技術力を有していたため、他の造船所では見られない様々な特殊船、作業船を建造した。市川資料で多いのは、曳船と土木関係の作業船である。図 29 はかなり大型の無動力のバケット浚渫船である。箱舟の上に巨大な浚渫装置を備えている。浚渫装置は船体全部中心線を挟んだスリットを通して上下する。右上はバケットの形状をかなり詳細に示した図であり、浚渫機構まで自社で設計していたようである。これらは大正年間のものであり、この時期、市川造船所が宮川整備に関わっていたために建造したものも含まれていると思われる。



名古屋市に昭和 16 年(1941)に開所した名古屋造船所のドック扉船である。ドックに船を入れ、この扉船をドック入り口に沈めてから、ドック内を排水する。船を出す時はドックに注水してから扉船を浮かして外に引き出す。これだけの大きさの木造ドック扉船は大変珍しい。寸法から当時の名古屋造船所の第 1 乾船渠用に建造されたものである。戦時の鉄鋼不足を見越して珍しい木製扉船としたものであろうか。

図 30 名古屋造船所向ドック扉船構造図 (棚 5-050)



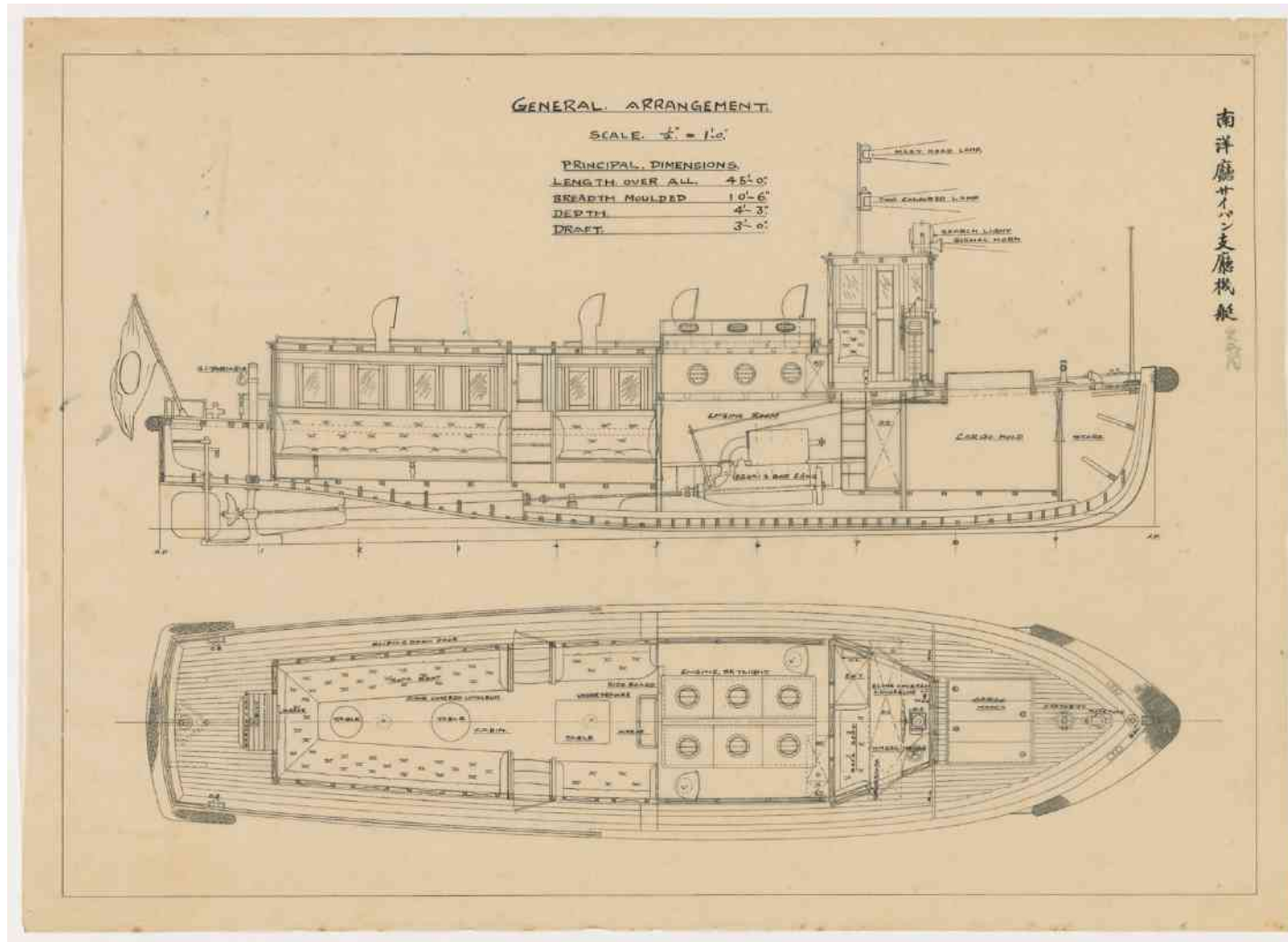


図 31 機艇おほとり 一般配置図 (柵 13-038)

昭和7年(1932)に建造された南洋庁サイパン支庁向けの機艇(長さ45呎×幅10呎6吋×深さ4呎3吋×喫水3呎)である。池貝鉄工所の80馬力ディーゼルエンジンを備えている。南方での使用ということで客室の換気には随分気を使ったことが伺える。小型であるが客室には随分立派なソファを設け、床はリノリウム張になっている。トイレが無いことから、高官や来賓の近距離移動用に使われたものと思われる。

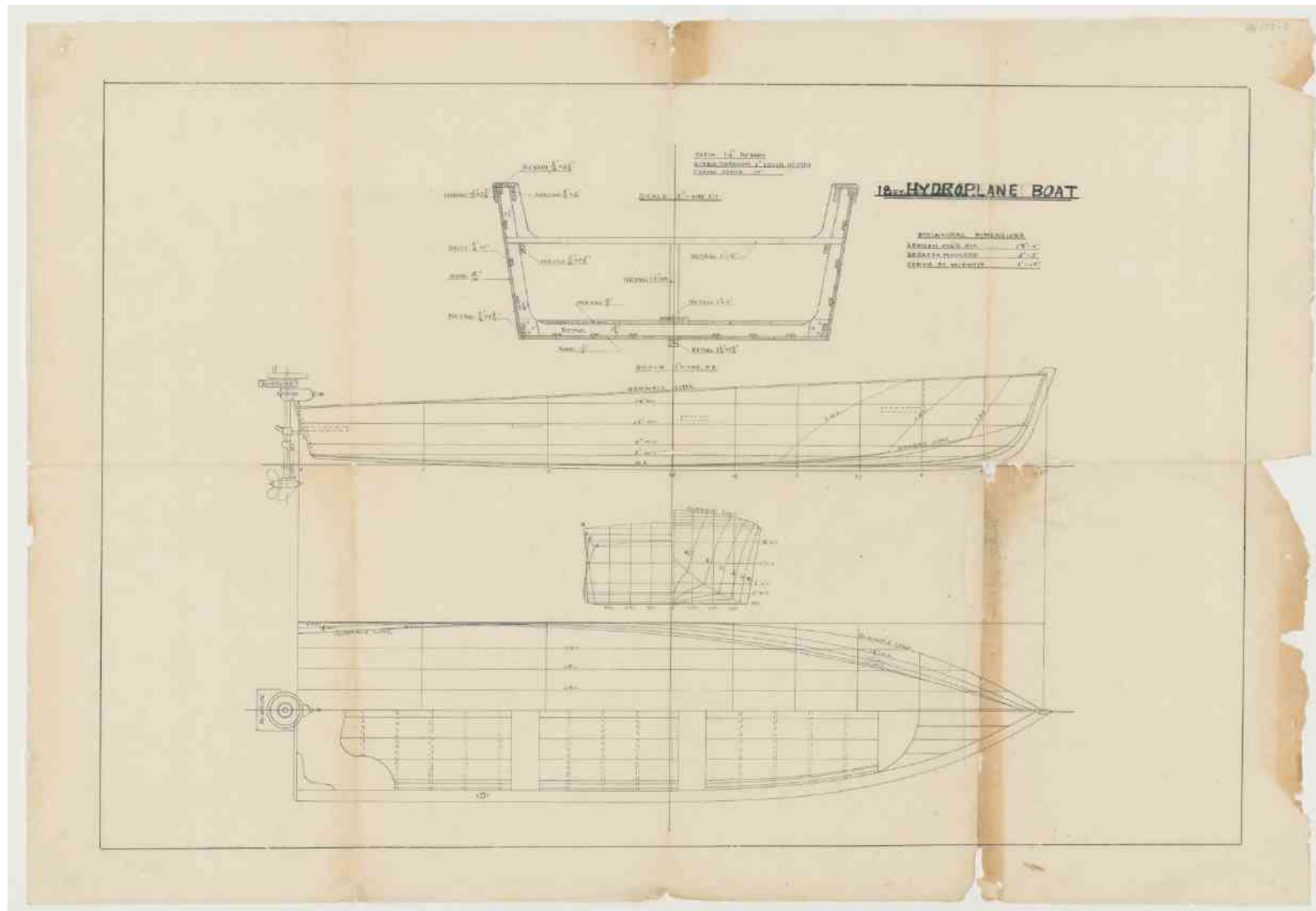


図 32 船外機付モーターボート (A152-8)

長さ 18'0"、幅 4'3"、深さ 1'10"の船外機付モーターボートである。船外機は 1907 年創設の有名な船外機メーカーである米国 EVINRUDE を使用している。船型は船首 V 型、船尾はフラットな典型的な滑走船型であるが、波浪中では船体の受ける衝撃が大きかったと推定される。船体構造は軽量構造であり、船底が約 12.5 mm、船側が約 8 mm の杉単板である。かなりの建造技術がないと歪の少ない船体を作ることは難しいと思われる。

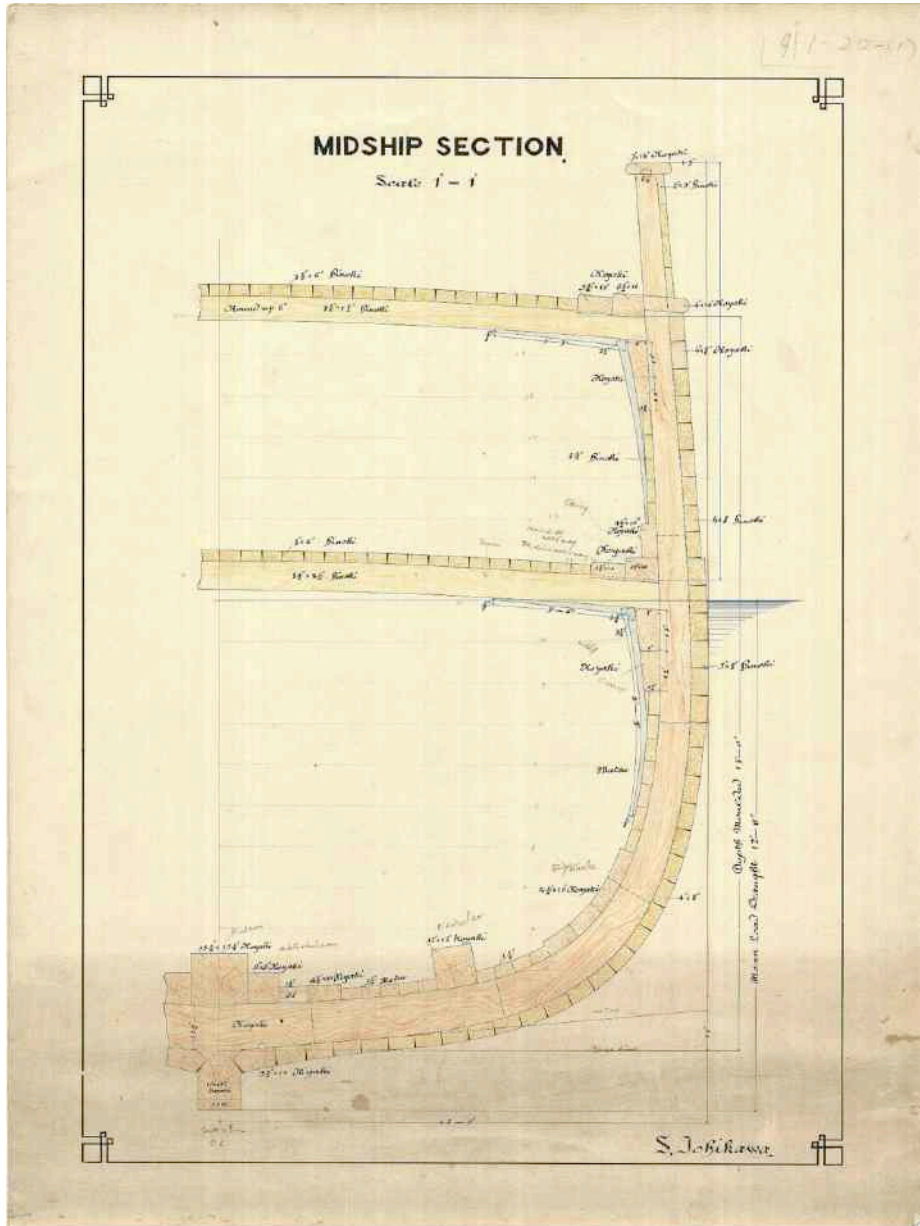


図 33 模写と思われる木造船中央横断面図（外 1-020-1）

明治期の初期から大湊の造船所は全国に先駆けて木造洋式帆船の建造を始めた<sup>(1),(18)</sup>。早くも明治 10 年には、市川造船所が西洋型帆走商船松坂丸を建造し、松崎造船所でも明治 10 年に三宝丸、12 年には半田丸を建造した。本格的な西洋型造船所として東海地方資本家有志による大湊造船所が明治 21 年に設立され、汽船宇賀丸（211 噸）を始め汽船 10 隻余を建造した。これには山田出身の亀田末通（工部大学校造船科第 1 期明治 16 年 5 月卒業）が招聘され技術指導に当たった。

大湊ではいわば老舗である松崎、市川造船所の経営者が西洋型木造船の建造に積極的に取り組んだが、中でも市川造船所社長であった市川源吉が大きな役割をはたした。同人は独学でありながら英語に堪能であり、近代西洋造船学の習得に熱心に取り組んだ。年齢が 10 歳ほども年下の新進気鋭の技術者である亀田末通にも教えを請い、さらに弟の竹次郎（東京工学校機械科卒。現・東工大）、長男仙太郎（東京工学校造船科。現・工学院大学）を指導した。この結果、市川造船所は明治中期には西洋型木造帆船については日本有数の設計・建造能力を持つに至った。

この過程における技術習得の痕跡が市川資料に残されており、明治期洋式船舶技術導入の過程を知る上で大変重要な資料である。

図 33 は市川源吉の子息である市川仙太郎による、おそらく模写であろうと思われる木造帆船の船体中央断面図である。市川造船資料には市川仙太郎、市川竹次郎（大湊造船徒弟学校初代校長）のサインがある大変綺麗な模写図面が多数残されており、新技術導入への強い熱意を感じることができる。

この図面は、色分けされた線、木目まで細かく彩色されており、さらに元の外国木材に相当する木材の種類がローマ字で書かれている。構造部材での一部鉄材を使用している方法が市川設計ではないと思われるところである。

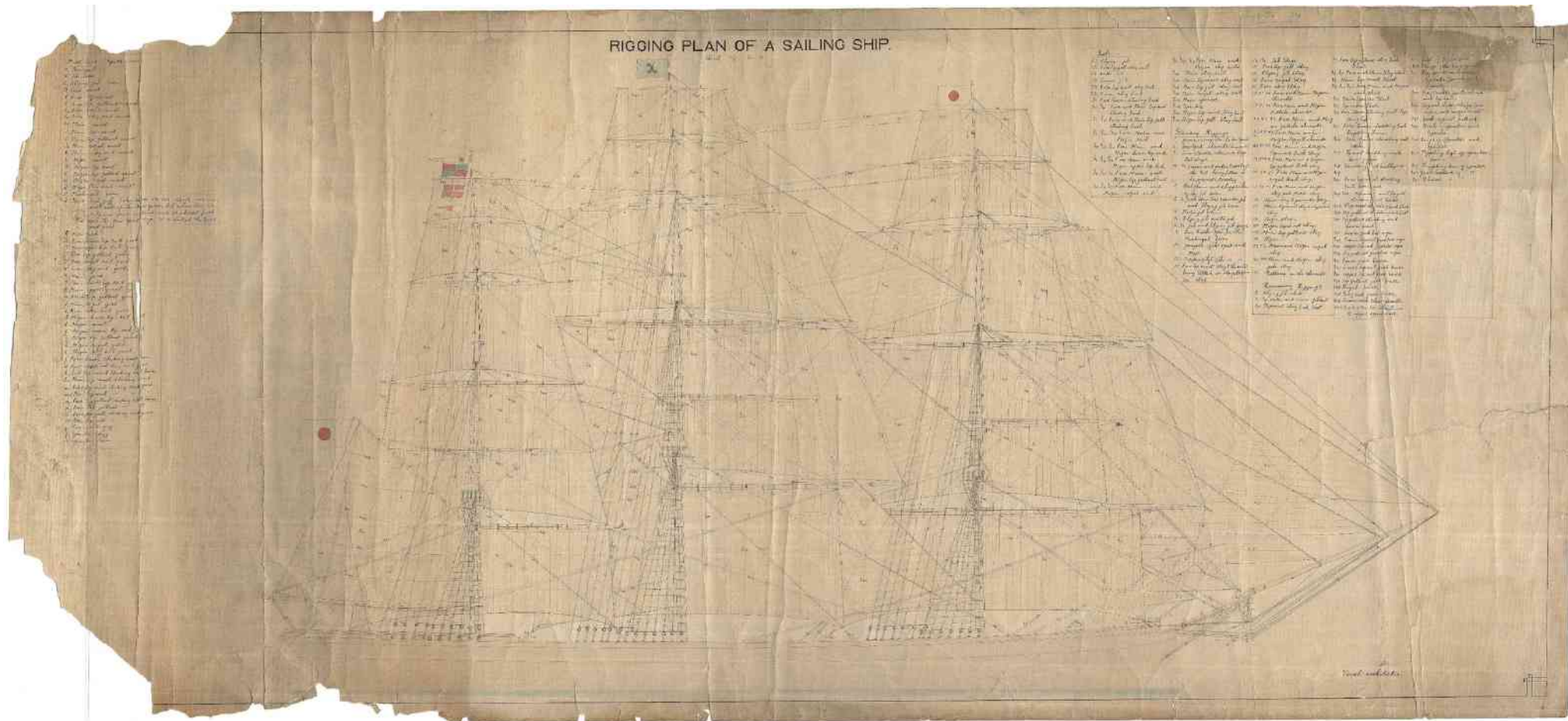


図 34 模写と思われる三マストシップ型帆船のセールプラン (外 1-034)

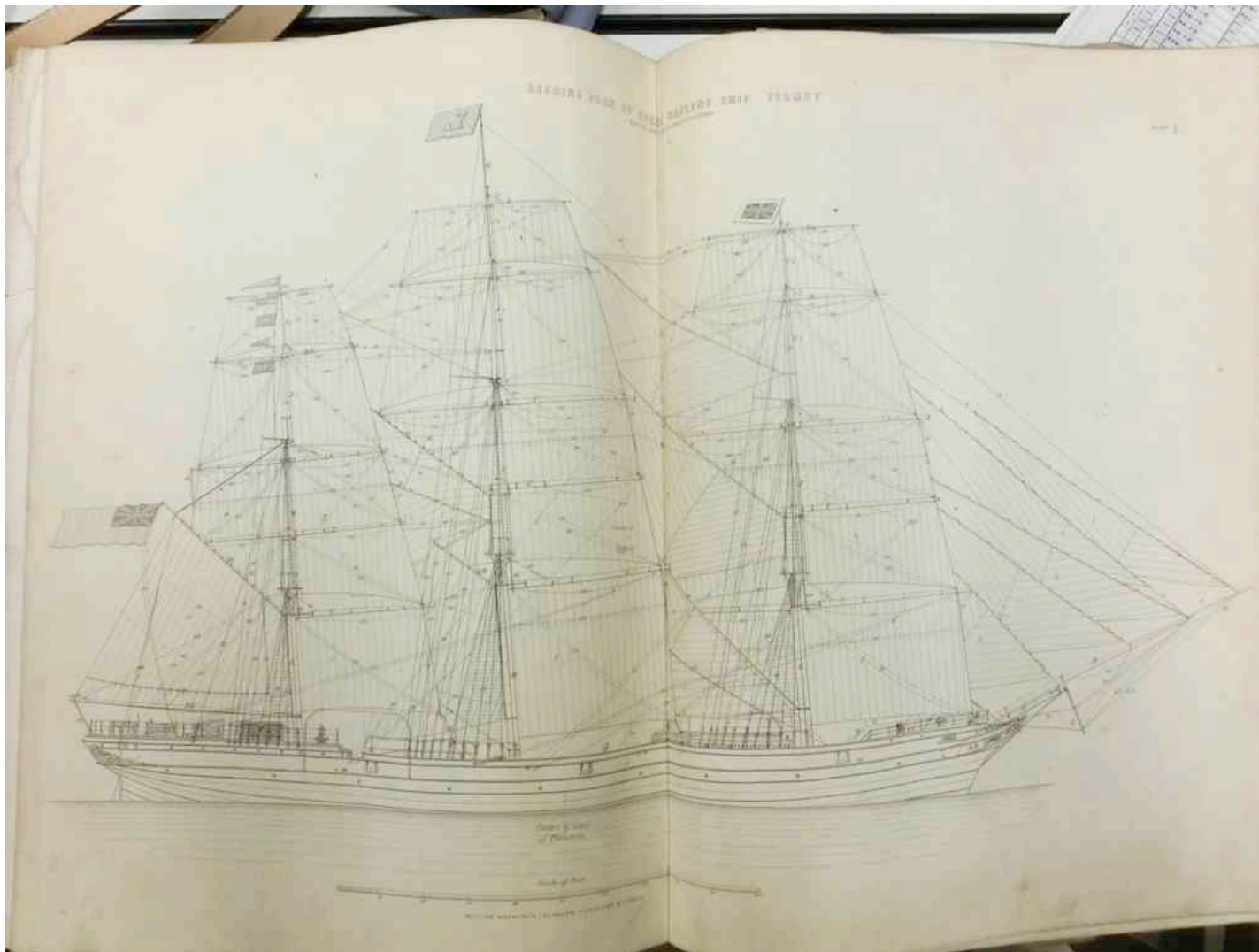


図 35 模写の元になったと思われる原著図面(Rankine<sup>(29)</sup>)

明治初期にこれらの船舶工学の知識がいかなる方法で市川造船所に伝わり、咀嚼されて実務に活用されたのか大変興味がある所である。伝えられている所では市川源吉が英語にも堪能でほぼ独学で造船学をマスターされたとされている。

保存資料の中にはかなりの洋書が含まれており、その中に、

William John Macquorn Rankine, Isaac Watts 著 “Shipbuilding, Theoretical and Practical”, Mackenzie, 1866<sup>(29)</sup>

なる当時の船舶の設計・建造法等をほぼ網羅する大判(300 p)の書籍がある。この本で示されている排水量等曲線の計算方法、帆面積の決定方法が市川造船所で行われた方法と一致することが判明した。また、多くはないがいくつかの書き込みもあり、大事に保管されていたことからおそらくこの書籍で勉強されたのではと推測される。

図 34 は三マスのシップ型帆船の帆装図であるが、これと同じ図面を先の原著に見ることができる。形状は原著のままを丁寧に模写し、セールやマスト等の名前は独自に整理・分類して記入している。ただ模写するだけでなく、その内容を原理的に理解しようとしたことが判る。

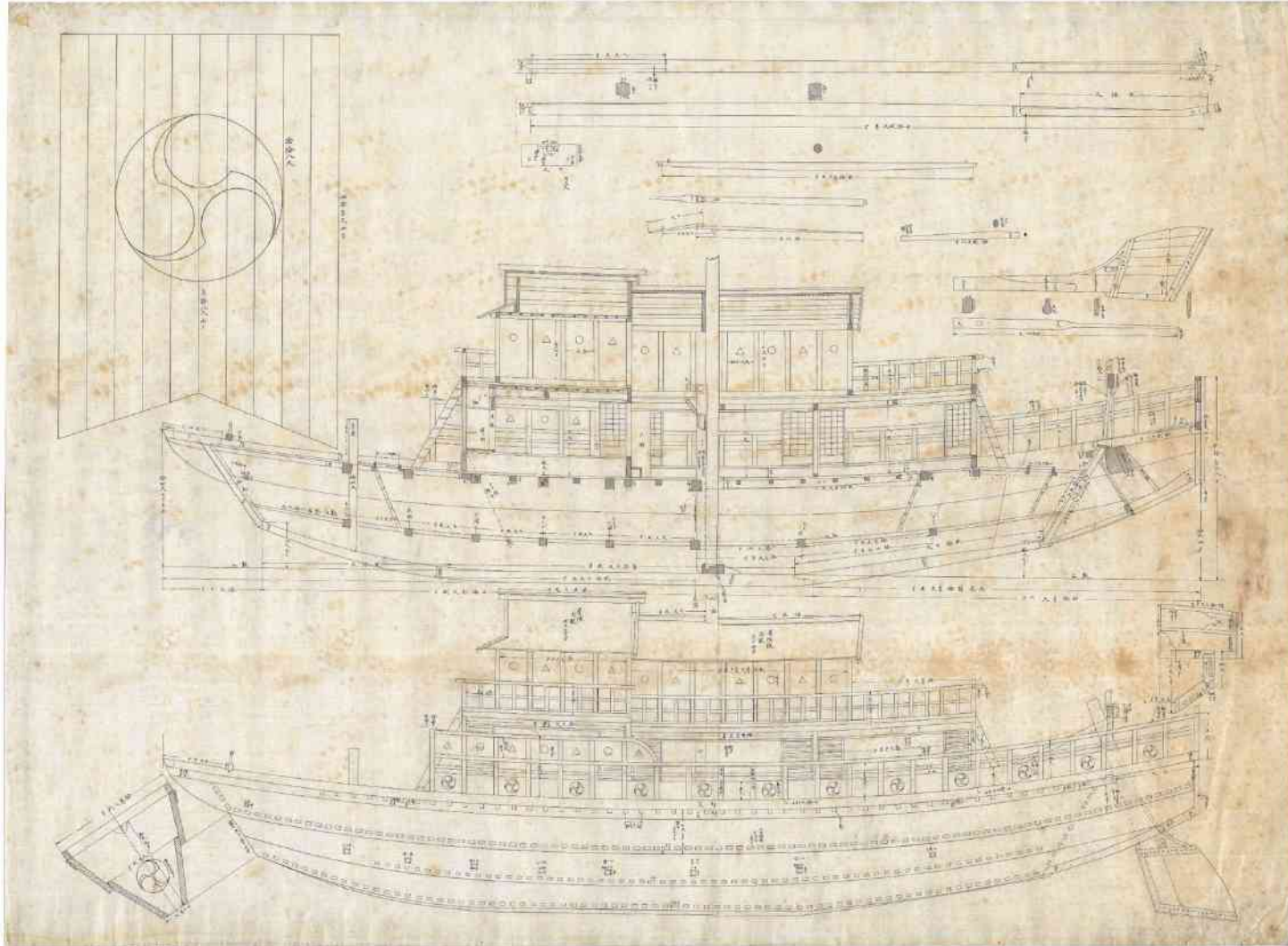


図 36 日本丸復元図 (外 2-015)

豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に大湊にて九鬼嘉隆に命じて建造させたと言われる日本丸は有名ではあるが、その実態は不明な点が多い。市川造船所では大正から昭和 12 年にかけて 3 回日本丸の模型を製作している<sup>(19), (22)</sup>。1 回目は大正 7 年に大湊徒弟学校の何において戦艦伊勢に 1/40 模型を、2 回目は通信博物館へ 1/30 模型を、3 回目は海軍の発注で 1/20 模型を昭和 12 年に収めている。これ以外に市川家用の模型も製作している。

## 市川造船所に関わる記述がある参考資料・文献

### 【学会刊行物】

- (1) 造船協会 編：日本近世造船史、弘道館、明治 44 年(1911)
- (2) 造船協会 編：日本近世造船史 大正時代、造船協会、昭和 10 年(1935)、2 冊
- (3) 日本造船学会 編：昭和造船史 第 1 卷（戦前・戦時編）、明治百年史叢書、原書房、昭和 52 年(1977)
- (4) 日本造船学会 編：昭和造船史 第 2 卷（戦後編）、明治百年史叢書、原書房、昭和 48 年(1973)
- (5) 日本造船学会 編：日本海軍艦艇図面集、明治百年史叢書昭和造船史別冊、原書房、昭和 50 年(1975)  
この内、(1)、(2)については昭和造船史刊行にあわせて復刻版が刊行されている。
- (6) 造船協会 編：日本近世造船史 明治時代、明治百年史叢書（弘道館明治 44 年刊の複製）、原書房、昭和 48 年(1973)、2 冊（別冊付図共）
- (7) 造船協会 編：日本近世造船史 大正時代、明治百年史叢書（造船協会昭和 10 年刊の複製）、原書房、昭和 48 年(1973)、2 冊（付図共）
- (8) 日本造船学会編：日本造船技術百年史、日本造船学会、平成 9 年(1997)
- (9) 日本舶用発動機学会：日本漁船発動機史、社団法人日本舶用発動機学会、昭和 34 年(1959)
- (10) 日本漁船史編集委員会編：日本漁船史、社団法人漁船協会、昭和 61 年(1986)
- (11) 漁船機関技術協会：日本漁船機関技術史、社団法人漁船機関技術協会、平成 7 年(1995)

### 【橋本徳壽氏著作】

- (12) 橋本徳壽：日本木造船史話、長谷川書房、昭和 27 年(1952)
- (13) 橋本徳壽：木造船と其の艀装（初版）、漁船協会、昭和 15 年(1940)
- (14) 橋本徳壽：木船原図法、海文堂、昭和 29 年(1954)
- (15) 橋本徳壽編：日本木船図集、海文堂、昭和 31 年(1956)

### 【伊勢市関係文献】

- (16) 伊勢市：伊勢市史第四巻近代編、伊勢市、平成 24 年(2012)
- (17) 伊勢市：伊勢市史第五巻現代編、伊勢市、平成 24 年(2012)
- (18) 松本好三：大湊造船沿革史、大正 2 年(1913)
- (19) 市川造船所：模型「日本丸」の概要と文献、市川造船所、昭和 12 年(1937)
- (20) 長屋好子：大湊の造船所（江戸から昭和）、大水門会、調査継続中
- (21) 西田善男：明治初期における三重県の外語学校、三重県郷土資料刊行会、昭和 47 年(1972)
- (22) 三重県立伊勢工業高等学校：七十年史、三重県立伊勢工業高等学校、昭和 43 年(1968)
- (23) 角谷茂夫：大湊造船史（一）～（七）、市川通信、第 1 号～第 7 号、昭和 46 年(1971)～昭和 48 年(1973)
- (24) 尾田寛光：明治大正昭和 鳥羽のこぼれ話、自費出版、平成 3 年(1991)
- (25) 伊勢新聞 明治 11 年(1978)8 月 2 日 松坂丸記事

【その他の関係文献】

- (26) 上野喜一郎 編：船舶百年史（前篇および後篇）、船舶百年史刊行会、昭和 33 年(1958)
- (27) 小林茂夫：木造漁船民俗史話、自費出版（ネット上で公開）、平成 14 年(2002)
- (28) 安達裕之：日本の船 和船編、(財) 日本海事科学振興財団 船の科学館、平成 10 年(1998)
- (29) Rankine, W.J. Macquorn and Watts, Isaac: “Shipbuilding, Theoretical and Practical”, Mackenzie, (1866)
- (30) 大内健二：特務艦艇入門、光人社 NF 文庫、平成 25 年(2013)
- (31) 大日本少年団聯盟編：義勇和爾丸の一生と海洋少年団の発達、大日本少年団聯盟、昭和 14 年(1939)
- (32) 浦田太一郎：義勇和爾丸の航跡、自費出版、昭和 55 年(1980)
- (33) 南極探検後援會：南極記、南極探検後援會、大正 2 年(1913)
- (34) 豊田穰：北洋の開拓者 郡司成忠大尉の挑戦、講談社、平成 6 年(1994)
- (35) 野村直吉船長航海記出版委員会編：南極観測船「開南丸」野村直吉船長航海記、成山堂書店、平成 24 年(2012)
- (36) 白瀬轟：南極探検、博文館、大正 2 年(1913)
- (37) 川原崎次郎：民間動力漁船建造の先駆者 下村勝次郎傳、下村茂、自費出版、平成 14 年(2002)
- (38) 昭和天皇が皇太子時代にご乗船『初の石油発動機付漁船』、週刊新潮、平成 18 年(2006)3 月 30 日号

【関係発表等】

- (39) 伊藤政光：伊勢大湊の造船資料について～第 1 報 旧市川造船所造船資料の概要～、日本船舶海洋工学会論文集、第 24 号、平成 29 年(2017)
- (40) 伊藤政光：伊勢大湊の造船資料について～第 2 報 明治期市川 船所におけるセール面積設計法～、日本船舶海洋工学会論文集、第 26 号、平成 30 年(2018)
- (41) 伊藤政光：伊勢大湊の造船資料について～第 3 報 市川造船所における木造標準型貨物船の設計～、日本船舶海洋工学会論文集、第 28 号、令和元年(2019)
- (42) 伊藤政光：忍路丸（初代）・義勇和爾丸の船室灯受台（伊勢市教育員会所蔵）、KANRIN、第 77 号、平成 30 年(2018)3 月
- (43) 松本哲：木造船の技術、歴史と市川造船分会に残る資料の意義、造船の歴史と地域文化を知るシンポジウム、平成 24 年(2012)
- (44) 伊藤政光：伊勢大湊の造船資料について、第 31 回海友フォーラム懇談会資料、平成 29 年(2017)
- (45) 伊藤政光：造船図面を読む愉しみ～大湊造船資料で知る技術と時代～、造船資料展示会 そこにある伊勢の造船の歴史と文化、伊勢の造船資料を継承する会、平成 27 年(2015)
- (46) 伊藤政光：続・造船図面を読む愉しみ～市川造船建造の初期洋式木造漁業指導船について～、造船資料展示会 そこにある伊勢の造船の歴史と文化、伊勢の造船資料を継承する会、平成 28 年(2016)